



Title	日タイ両言語における「不満表明」に関する研究 : 不満の程度の差による考察
Author(s)	Somchanakit, Kunaj
Citation	大阪大学, 2013, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/26225
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

博士論文

題目 日タイ両言語における「不満
表明」に関する研究—不満の程度の
差による考察—

提出年月 2013年 6月
言語文化研究科言語社会専攻

氏名 ソムチャナキット クナッジ
SOMCHANAKIT KUNAJ

大阪大学言語文化研究科博士論文修正・訂正 正誤表

論文題名	日タイ両言語における「不満表明」に関する研究—不満の程度の差による考察—		
学籍番号	30B10825	氏名	ソムチャナキット クナツジ

頁	行	修正前	修正後
31	27	Fg) 隠喩	Fg) 比喻
37	21	Fg) 隠喩	Fg) 比喻
37	22	隠喩ストラテジー	比喻ストラテジー
55	3	Fg) 隠喩	Fg) 比喻
55	5	隠喩ストラテジー	比喻ストラテジー
55	27	Fg) 隠喩	Fg) 比喻
67	20	「下上」	「下→上」
145	17	「中」22.2%(22)	「中」23.0%(23)
147	3	マラシー[2003]	宮本(2009)
147	5	論理	倫理
147	6	(2003;33)	(2009;202)
153	3	筒井佐代准教授	筒井佐代教授

日本語要旨

題目 日タイ両言語における「不満表明」に関する研究—不満の程度の差による考察—

ソムチャナキット クナツジ

「不満表明」は、人間関係に摩擦を生じやすい行為であり、文化や言語によって違いがあると考えられる。タイ語の先行研究では、どのような戦略が存在するかについては分析されているが、不満表明に関するタイ語と日本語の対照研究は管見の限り見当たらない。本研究は、日本語とタイ語における「強」と「弱」其々の場面での「不満表明」を対照し、(1)不満表明が行われている場面において、不満の程度の「強」「弱」の違いがどのように戦略の選択に影響するのか、(2)話し手と聞き手の上下関係、親疎関係がどのように戦略の選択に影響するか、(3)(1)(2)について、日本語とタイ語の不満表明にどのような違いがあるか、(4) 同じ戦略であっても、使用される言語形式等に日本語とタイ語において違いがあるかどうかを知ることを目的とする。

本研究では、日本語の映画12本とタイ語の映画12本(合計24本:45時間46分)から取り出した不満表明の場面を資料として、不満表明の日タイ対照研究を行った。日本語母語話者2名とタイ語母語話者2名(筆者を含む)に文字化資料を見せて、各場面において、話し手がどの程度の不満を抱いているかを判断してもらい、話し手の不満の程度が高い場合を「強」、不満の程度が低い場合を「弱」とした。次に、「強」「弱」の場面ごとに、上下関係と親疎関係という二種類の要素によって分類し、使用されている戦略の違いを分析し、日本語とタイ語における不満表明戦略の使用傾向を対照した。結果は1)~4)のようにまとめられる。

1) 両言語における不満表明の場面の全体的な傾向を考察した結果、日本語では、全99場面中、「強」50.5%(50)、「弱」27.3%(27)で、「強」の場面の方が多く表れた。それに対して、タイ語では、全100場面中、「強」27.0%(27)、「弱」50.0%(50)で、日本語と異なり「弱」の場面のほうが多かった。日本語母語話者は、不満が強くないときには不満表明を行わない傾向があるのではないかと考えられる。それに対しては、タイ語母語話者は、不満度が低い場面でも不満を表明する傾向が強い。

2) 上下別では、両言語共に同等の相手に対する不満表明が一番多い。しかし、日本語の場合は、「上下」35.0%(27)、「同等」46.8%(36)、「下上」18.2%(14)で、どの相手に対しても不満表明が行われるのに対し、タイ語では圧倒的に同等75.3%(58)が多く、下上の不満表明は5.2%(4)と極端に少ない。目上の相手には不満が表明しにくいと考えられる。

3) 「強」「弱」の不満度別にみると、日本語の場合は、「強」の場面では「上下」「同等」「下上」の全ての相手に不満を表明しているが、「弱」の場面では「下上」の不満表明はなかった。タイ語

の場合は、「強」の場面では「下上」の不満表明が3例観察されたが、「弱」の場面では1例だけであった。

4) 日本語は相手との親疎に関わりなく不満表明が現れるが、タイ語の場合は親しい相手に対する不満表明が「親」74.0%を占める。タイ語では、距離のある親しくない相手よりも、親しい相手に対して不満を表明しやすい。タイ語では、同等の親しい相手に対する不満表明が仲間同士の社交の一つとなっているということが明らかになった。

「強」の場面を考察すると、「強」の場面では、両言語ともに、不満を表明する相手は「同等」「上→下」「下→上」の順に多い。しかし、日本語がどの相手に対しても不満を表明する傾向にあるのに対し、タイ語では「同等」が59.2%(16)と圧倒的に多く6割をしめ、「上下」が29.6%(8)で3割、「下上」は11.1%(3)で1割程度と少ない。日本語では、親疎関係に関わらず目下の人に対して不満を表明する(親18.0%(9)、疎14.0%(7))のに対して、タイ語では、親しい関係の相手に不満を表明する傾向(親40.7%(11)、疎18.5%(5))がある。「強」の場面で最も使われる戦略は、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)であり、日本語は35.1%(66)、タイ語は30.7%(39)であった。今回の分析では、「強」場面で、両言語とも、明示的不満表明の戦略が、非明示的不満表明の戦略よりもよく使われたことが分かった。

「強」「上→下」の場面では、両言語において、「強」「上下」の場面では、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)が多く使われた。日本語は、33.3%(20)で、タイ語は、34.3%(12)である。両言語ともに、Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)の使用は日本語3.3%(2)、タイ語5.7%(2)と少ない。自らが職階や立場が上であるから、からずしもEec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)のように直接に何を表出しても良いということではない。目上からの、Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)が少ないのは、自己の品格を保つために、汚い言葉をより綺麗な言葉や丁寧な言い方に変えたりするからである。

「強」「同等」の場面では、両言語ともに、「同等」の相手に対する不満表明が、親疎に関わらず最も多かった。日本語は、40.0%(20)で、タイ語は、59.2%(16)である。同等関係の人に対して不満が表れやすいという結果から、人間は、不満「強」の場面においても、同等の相手に対して物を言いやすいと考えられる。また、両言語に多く使われる戦略は、両言語ともに、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)であり、日本語は、47.9%(34)、タイ語は、29.6%(24)である。日本語は特に Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)をよく使うと言える。

「強」「下→上」の場面では、タイ語の場合は「強」の場面でも目上の相手に対する不満表明は少ない。「強」「下上」の場面は、日本語は、28.0%(14)であり、タイ語は、11.1%(3)である。目上に対する不満表明を親疎の別にみると、日本語の「親」「下→上」の場合、8.0%(4)であるのに対して、「疎」「下→上」は、20.0%(10)である。日本語の「強」「下上」では、「上下」「同等」と同様に、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)、30.0%(12)と多い。それに対して、タイ語の「強」「下上」の場面は、「親」の関係は3.7%(1)、「疎」の関係は、7.4%(2)と、親疎に関わらず目上の相手には殆ど不満を表明しない。日本語では、義務感や責任感を重んじ、不満を表明せざるを得ないとき、

上下親疎関係に関わりなく、不満を表明するのだろう。タイ語では、日本語と異なって、目上に対して強く不満を感じたとしても、その場で不満を表明しにくい。しかしながら、現実には、社会が変わりつつあり、育った環境や個人差により目上に対しても不満を表明するようになってきているが、まだ一般ではない。

次に、「弱」の場面を中心に考察すると、「弱」の場面では、両言語ともに、不満を表明する相手は「同等」「上→下」「下→上」の順に多い。しかし、親疎関係に関わりなく、「下→上」の場合、日本語は、0.0%(0)、タイ語は、2.0%(1)であり、極めて少ない。また、タイ語では「同等」が84.0%(42)で圧倒的に多く8割をしめる。「弱」の場面と親疎関係について、日本語では、親疎関係に関わらず目下の人に対して不満を表明する(親44.4%(12)、疎55.6%(15))のに対して、タイ語では、親しい関係の相手に不満を表明する傾向(親84.0%(42)、疎16.0%(11))がある。また、「弱」の場面でも最も使われる戦略は、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)であり、日本語は38.8%(67)、タイ語は24.8%(28)であった。「弱」の場面は、日本語は、99 場面中 27場面が「弱」27.3%(27)であった。

「弱」の場面の中で、「上下」の場面は、日本語37.9%(11)、タイ語14.0%(7)である。日本語では、親しくない相手に対して不満を表出することが多いのに対して、タイ語では、「疎」「上→下」は、0.0%(0)であり、今回のデータに表れなかった。また、日本語では、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation) 32.3%(10)、Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies) 29.0%(9)の戦略が多く使われたのに対して、タイ語は、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation) 21.2%(7)、Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning) 18.2%(6)が多く使われた。日本語では、「弱」の場面で、親疎に関わらず目上から目下に不満を表明するが、タイ語では、「弱」の場面での不満表明は親しい間柄に限られるので、親しくない目下に対して不満を表明するのは「強」の場面に限られる。

「弱」「同等」の場面は、日本語の55.2%(16)、タイ語の84.0%(42)であり、「弱」の中に最も場面が表れた。タイ語は、他の場面に比べ、出現場面数が著しく多かった。両言語における「弱」「同等」場面でも最も使われる戦略は、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)であることが共通している。日本語は、44.4%(16)であり、タイ語は、26.6%(21)であった。しかしながら、タイ語では、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)の次の多かったEec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)の19.0%(15)とEec1) 付加方略(Supporting Strategies)の17.7%(14)は、日本語の13.9%(5)と5.6%(2)に比べれば、大きな差が見られる。

タイ語の「弱」「上→下」と「同等」の場面で、Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)やEec1) 付加方略(Supporting Strategies)が多く使われる。ここで言う付加方略はある部分に「トカゲ野郎」のような卑語が付いているものであるが、この戦略の使用は相手を傷付けるという意図ではなく、仲間意識や親密さを表現しているということを注目したい。今回は、映画に場面の制限があるため、日本語のデータに表れないが、現実には日本語にもあり得ると考える。

両言語の全体的傾向から言えば、両言語とも、目下が目上に対して不満を表明することが少ない。特に、「弱」場面で、日本語は、0.0%(0)、タイ語は、2.0%(1)、と極めて少ない。「弱」の場面とは、不満程度の低い場面とし、不満をあまり感じない場面に、両言語の母語話者は、何も言及しないで我慢するということが考え得る。「強」「下→上」のところで述べたように、目下は、目上に対して「弱い」不満を表明しにくい。しかしながら、今回の映画に現れなかっただけなのか、実際に表明しないのかは今後の課題にしたい。

結論をまとめれば、両言語では、どの相手に対しても非明示的不満表明ストラテジーよりも明示的不満表明ストラテジーが多く使われる。また、タイ語は、日本語よりも、非明示的不満表明ストラテジーを使う傾向が高いため、タイ語では、日本語より使用するストラテジーの多様性が見られた。例えば、目上は目下に向けて不満を表明する時、Ff. 皮肉・冗談を使用する例がある。「強」場面では、皮肉となるが、「弱」場面では、「明日来たら」「来年来てもいいよ」のように攻撃的なユーモアをこめた皮肉を言うのである。

両言語では、不満を表明しようとする際、相手との上下関係や親疎関係を考慮して行うことが考えられる。不満を表明しないといけない時に、適切なストラテジーを使用して不満表明を遂行することができる。例えば、日本語では、親しくない目上の人に対して不満を表明する場面が幾つか見られるが、その場面で使用するストラテジーは、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation) であり、丁寧体でも使え、目上の人に対して言及しても失礼とは言いにくいであろう。しかしながら、タイ語では、目上の人に対して十分に丁寧さが表される丁寧体を使う修辭的疑問を使えば失礼な行動になる場合があるため、言語行動には、言語形式よりもストラテジーの方が大事であるということを指摘したい。

日本語とタイ語との間には、共通点も相違点もあるが、どの言語においても、人間関係を保持するために、相手のことを考慮してからストラテジーを選択して会話する。そのため、人間関係を悪化させずに会話ができるように、互いの相違点に注意する必要がある。母語からの影響が強ければ、異なる母語、文化の相手に伝達しようとするのが伝わらないことが起こる恐れもある。例えば、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation) を多用する日本語母語話者の不満表明を聞いた初中級のタイ語母語話者は、不満の発話ではなく実質的な質問に捉えてその質問に対して答えてしまうケースが日常生活に有り得る。逆に、ストラテジー使用に多様性のあるタイ語母語話者が、否定的な言葉や罵りのEea)付加方略 (Supporting Strategies) を多用したり、Ff. 皮肉 (Using Irony) を使用したりすれば、日本語母語話者を驚かせることになるだろう。

本研究では、映画という映像資料をデータとして用いて日本語母語話者とタイ語母語話者が使用する不満表明を考察した。また、不満程度の高い「強」と不満程度の低い「弱」に分けて、上下関係、親疎関係を取り入れることで、人間関係の差による日タイの不満表明の言語行動の特徴を探った。本稿は、非言語行動や年齢差や男女差を扱わず言語行動を中心に分析したため、本研究の分析を行った結果で、非言語行動や年齢差や男女差をも考慮に入れればと思う。今後は映像や音声とともに、非言語行動も含んだ分析により、さらに詳しい不満表明の分析を行いたい。

また、本稿で使った映像資料は、日本語とタイ語其々に映画の内容が異なり、登場人物や場面

の制限があり、映画に表れない場面もあるため、其々の場面で実際に不満を表明するのかわからないのかについては調べることができなかった。今後は、データの数を増やすか、他のデータ収集法を用いて日本語とタイ語の不満表明をさらに、深めて考察していきたい。

このように、今回は、映画に出現した日本語とタイ語における「不満表明」の「強」と「弱」場面の特徴を考察したが、タイ語を母語話者とする日本語学習が日本語でどのように不満を表明するのか、母語からの影響がどの程度あるのか等、日本語教育に直接関わる問題にも研究を広げたいと考えている。

タイ語要旨

題目 日タイ両言語における「不満表明」に関する研究—不満の程度の差による考察—

ソムチャナキット クナヅジ

การศึกษาเรื่อง “วิจัยนกรรกรรมการแสดงความไม่พอใจของภาษาญี่ปุ่นและภาษาไทยในสถานการณ์ที่มีระดับความไม่พอใจต่างกัน” มีวัตถุประสงค์ 4 ประการคือ (1) เพื่อศึกษาอิทธิพลของระดับความไม่พอใจที่มีผลต่อการเลือกใช้กลยุทธ์ในการแสดงความไม่พอใจ ในสถานการณ์ระดับความไม่พอใจ “มาก” และระดับความไม่พอใจ “น้อย” (2) เพื่อศึกษาอิทธิพลของสถานภาพและความสนิทสนมของคู่สนทนาที่มีต่อการเลือกใช้กลยุทธ์ในการแสดงความไม่พอใจ (3) เพื่อศึกษาเปรียบเทียบความต่างในการเลือกใช้กลยุทธ์การแสดงความไม่พอใจของทั้ง 2 ภาษา เมื่อมีปัจจัยเรื่องระดับความไม่พอใจ สถานภาพและความสนิทสนมของคู่สนทนาเข้ามาเกี่ยวข้อง (4) เพื่อศึกษาเปรียบเทียบการใช้รูปประโยค สำนวนในการแสดงวิจัยนกรรกรรมการแสดงความไม่พอใจของทั้ง 2 ภาษาทั้งในกรณีที่มีการใช้ภาษาเหมือนกัน และในกรณีที่มีการใช้ภาษาต่างกัน

ข้อมูลที่ใช้ในการวิจัย ผู้วิจัยเก็บข้อมูลจากบทสนทนาที่ปรากฏในภาพยนตร์ญี่ปุ่นจำนวน 12 เรื่องและภาพยนตร์ไทยจำนวน 12 เรื่อง รวม 24 เรื่อง ความยาว 45 ชั่วโมง 46 นาที จากนั้นนำข้อมูลบทสนทนาที่ปรากฏในภาพยนตร์ให้นักศึกษาระดับปริญญาโทชาวญี่ปุ่น 2 คนและนักศึกษาระดับปริญญาโทชาวไทย 1 คนรวมผู้วิจัยเป็น 2 คน กำหนดระดับความไม่พอใจของแต่ละสถานการณ์ หากคิดว่ามีระดับความไม่พอใจมากก็ระบุว่า “มาก” หากคิดว่ามีระดับความไม่พอใจน้อยก็ระบุว่า “น้อย” จากนั้นผู้วิจัยแบ่งข้อมูลทั้งหมดเป็น 2 ชุด คือ “ระดับความไม่พอใจมาก” และ “ระดับความไม่พอใจน้อย” และนำข้อมูลทั้งหมดมาระบุสถานภาพและความสนิทสนมของคู่สนทนาของแต่ละชุดข้อมูลอย่างละเอียดอีกครั้งหนึ่งเพื่อศึกษาหาความสัมพันธ์ระหว่างกลยุทธ์การแสดงความไม่พอใจของคนญี่ปุ่นและคนไทย กับระดับค่าความไม่พอใจ สถานภาพและความสนิทสนมของคู่สนทนา

ผลการวิจัยพบว่า 1) ภาษาญี่ปุ่นมีจำนวนสถานการณ์ระดับความไม่พอใจมาก มากกว่าจำนวนสถานการณ์ระดับความไม่พอใจน้อย ซึ่งตรงกันข้ามกับภาษาไทยที่มีจำนวนสถานการณ์ระดับความไม่พอใจน้อย มากกว่าจำนวนสถานการณ์ระดับความไม่พอใจมาก 2) เมื่อดูจากปัจจัยด้านสถานภาพของคู่สนทนา คนญี่ปุ่นและคนไทยนิยมกล่าวแสดงความไม่พอใจต่อคู่สนทนาที่อยู่ในระดับเดียวกับตนมากที่สุด 46.8%(36) รองลงมาคือ ผู้ใหญ่กล่าวแสดงความไม่พอใจต่อผู้น้อย 35.0%(27) และผู้น้อยกล่าวแสดงความไม่พอใจต่อผู้ใหญ่ปรากฏน้อยที่สุด 18.2% 3) เมื่อดูจากปัจจัยด้านความสนิทสนมของคู่สนทนา ในสถานการณ์ระดับความไม่พอใจมาก ทางด้านภาษาญี่ปุ่นปัจจัยด้านสถานภาพของคู่สนทนาจะไม่มีผลต่อการกล่าวแสดงความไม่พอใจ แต่ในสถานการณ์ระดับความไม่พอใจน้อย ไม่พบการกล่าวแสดงความไม่พอใจของผู้น้อยต่อผู้ใหญ่ ส่วนภาษาไทยในสถานการณ์ระดับความไม่พอใจน้อย ก็ปรากฏสถานการณ์ผู้น้อยกล่าวแสดงความไม่พอใจต่อผู้น้อยมาก เช่นเดียวกัน 4) ในภาษาญี่ปุ่นปรากฏการกล่าวแสดงความไม่พอใจต่อคู่สนทนาได้โดยไม่เกี่ยวข้องกับปัจจัยความ

สนธิสนมแต่อย่างใด ในขณะที่ในภาษาไทยนิยมกล่าวแสดงความไม่พอใจต่อคู่สนทนาที่มีความสนธิสนมถึง 74.0% อาจกล่าวได้ว่ากรกล่าวแสดงความไม่พอใจต่อคู่สนทนาที่มีความสนธิสนมและอยู่ในฐานะเดียวกับตนในภาษาไทยเป็นกลไกการสร้างปฏิสัมพันธ์ทางสังคมรูปแบบหนึ่ง

ผลจากการศึกษากรณีในการแสดงความไม่พอใจของภาษาญี่ปุ่นและภาษาไทยในสถานการณ์ที่มีระดับความไม่พอใจมาก พบว่าผู้พูดจะเลือกที่จะใช้คำถามเชิงวาทศิลป์ในการแสดงความไม่พอใจต่อคู่สนทนาทุกสถานภาพ โดยถึงแม้คำถามเชิงวาทศิลป์จะจัดเป็นวัจนกรรมแบบอ้อม แต่ผู้วิจัยถือว่าด้วยบริบทต่าง ๆ แล้ว ผู้ฟังจะสามารถรับรู้เจตนาของผู้พูดได้อย่างชัดเจน ในงานวิจัยเล่มนี้จึงจัดคำถามเชิงวาทศิลป์เป็นกลวิธีการแสดงความไม่พอใจอย่างชัดเจนกลวิธีหนึ่ง พบว่ากลวิธีการใช้คำถามเชิงวาทศิลป์ (Using Rhetorical Interrogation) ปรากฏในสถานการณ์ที่ผู้ใหญ่ออกแสดงความไม่พอใจต่อผู้น้อยค่อนข้างมาก และมีการใช้คำหยาบที่ค่อนข้างน้อย วิเคราะห์ได้ว่าถึงแม้ตนเองมีสถานภาพที่สูงกว่าอีกฝ่าย แต่ก็จำเป็นต้องเลี่ยงการใช้คำหยาบ ซึ่งอาจจะทำลายหน้าตาของตนเองได้ โดยถึงแม้จะใช้กลวิธีการถามเชิงวาทศิลป์ก็ไม่ได้ทำให้ประสิทธิภาพในการส่งสารลดน้อยลงแต่อย่างใด

ผลจากการศึกษากรณีในการแสดงความไม่พอใจของภาษาญี่ปุ่นและภาษาไทยในสถานการณ์ที่มีระดับความไม่พอใจน้อยพบว่า การกล่าวความไม่พอใจต่อคู่สนทนาที่อยู่ในระดับเดียวกับตนปรากฏมากที่สุด ตามด้วยผู้ใหญ่กล่าวต่อผู้น้อย และผู้น้อยกล่าวต่อผู้ใหญ่เป็นอันดับท้ายสุด โดยในภาษาญี่ปุ่นไม่ปรากฏสถานการณ์ผู้น้อยกล่าวแสดงความไม่พอใจต่อผู้ใหญ่ในสถานการณ์ที่มีระดับความไม่พอใจน้อย นอกจากนี้ยังพบว่าในภาษาไทยปรากฏการกล่าวแสดงความไม่พอใจต่อคู่สนทนาในระดับเดียวกันที่มีความสนธิสนมถึง 84.0%(42) แสดงให้เห็นว่าในสถานการณ์ที่ผู้พูดมีระดับความไม่พอใจน้อยนั้น คนญี่ปุ่นเลือกที่จะไม่ใช้ภาษาแสดงความไม่พอใจของตนเองออกมา ในขณะที่คนไทยสามารถใช้กลวิธีต่าง ๆ ที่สามารถแสดงความไม่พอใจของตนเองได้ โดยถึงแม้ผลการวิเคราะห์พบว่าทั้งสองภาษามีการใช้กลวิธีการใช้คำถามเชิงวาทศิลป์ (Using Rhetorical Interrogation) มากที่สุด ตามมาด้วยการใช้กลวิธีเสริม (Supporting Strategies) และการใช้คำที่มีความหมายในทางลบ (Using Word with Negative Meaning) แต่จุดเด่นของภาษาไทยคือ ปรากฏคำและสำนวนที่หลากหลายมาใช้เพื่อแสดงความสนธิสนม ความเป็นอันหนึ่งอันเดียวกันภายในกลุ่มของตน

จากผลการศึกษาพบว่าทั้งสองภาษา ในสถานการณ์ที่มีการใช้ภาษาแสดงความไม่พอใจ ผู้พูดนิยมที่จะใช้กลวิธีที่ชัดเจนมากกว่ากลวิธีที่ไม่ชัดเจน เช่น พูดประชด หรือเปรียบเทียบ และในภาษาไทยจะปรากฏการใช้กลวิธีที่ไม่ชัดเจนมากกว่าในภาษาญี่ปุ่น โดยเฉพาะการพูดประชด เสียดสีเชิงขบขัน ไม่มีปรากฏในข้อมูลจากภาพยนตร์ญี่ปุ่น ทั้งนี้ปัจจัยด้านสถานภาพและความสนธิสนมของคู่สนทนา มีอิทธิพลต่อการตัดสินใจเลือกที่จะกล่าวและเลือกกลวิธีแสดงความไม่พอใจ กลวิธีการใช้คำถามเชิงวาทศิลป์ปรากฏมากที่สุดในทุกสถานการณ์ชี้ให้เห็นว่าทั้งสองภาษาให้ความสำคัญกับเรื่องทฤษฎีความสุภาพทางหน้า หลีกเลี่ยงการใช้คำหยาบ หรือคำต้องห้ามที่เสี่ยงต่อการทำลายหน้าตาของตนและคู่สนทนาได้

目次

はじめに.....	1
第1章 先行研究.....	2
1.1「不満表明」の定義.....	2
1.2 不満表明という言葉行動.....	5
1.2.1 形式選択の過程とマイナス評価表明のモデル.....	5
1.3 不満表明の発話行為に影響を及ぼす要因.....	7
1.3.1 外的要因.....	8
1.3.2 内的要因.....	9
1.4 不満表明のストラテジー.....	11
1.5 「不満表明」に関する対照研究の先行研究.....	16
第2章 問題の所在と本論文の概要.....	19
2.1 問題の所在.....	19
2.2 本論文の研究目的.....	25
2.3 データ収集法と分析の手順.....	25
2.3.1 データ.....	25
2.3.2 分析手順.....	26
第3章 ソムチャナキット(2010)におけるストラテジーの分類.....	28
3.1 ソムチャナキット(2010)の研究目的.....	28
3.2 「不満表明」の定義.....	28
3.3 分析対象と分析方法.....	28
3.4 「不満表明」の言語ストラテジー.....	29
3.5 分析結果(1) 不満表明ストラテジーの分類結果.....	31
3.5.1 明示的な不満表明と非明示的な不満表明.....	31
3.5.1.1 E) 明示的な不満表明.....	31
3.5.1.2 F) 非明示的な不満表明.....	31
3.6 分析結果(2) 日本語とタイ語の不満表明におけるストラテジーの使用傾向.....	40
3.7 まとめ.....	42
3.8 各ストラテジーの詳細.....	42
3.8.1 E) 明示的な不満表明.....	42

- Ea) 理由・説明要求.....	42
- Eb) 改善要求.....	43
- Ec) 代償要求.....	45
- Ed) 警告・脅かし.....	46
- Ee) 非難.....	46
- Eea) 修辭的疑問.....	46
- Eeb) 主張表現.....	47
- Eec) 否定的な言葉.....	48
- Eec(1) 付加方略.....	48
- Eec(2) 否定的な意味を持つ言葉.....	51
- Eec(3) 罵り.....	52
3.8.2 F) 非明示的不満表明.....	53
- Ff) 皮肉・冗談.....	53
- Fg) 比喩.....	55
- Fh) 婉曲的な表現.....	56
- Fi) 相手を特定せずに一般化する.....	56
- Fj) 他のものに不満を持つふりをする.....	57
第4章 全体的傾向.....	58
4.1 日タイの不満度別の全体的傾向.....	58
4.1.1 相手との上下関係による全体的傾向.....	59
4.1.2 相手との親疎関係による全体的傾向.....	60
4.1.3 不満の程度「強」「弱」の違いに関する考察.....	61
4.2 不満度の「強」「弱」と上下関係.....	62
(1)「強」の場面における上下関係別の割合.....	62
(2)「弱」の場面における上下関係別の割合.....	63
4.3 不満度の「強」「弱」と親疎関係.....	63
第5章.....	66
5.1 不満程度別の戦略に関する考察.....	66
5.2 不満程度「強」と「弱」の場面における上下関係と戦略.....	67
5.2.1 日本語の不満表明: 上下関係と戦略選択の全体的傾向.....	67
5.2.2 タイ語の不満表明: 上下関係と戦略選択の全体的傾向.....	73
5.2.3 日本語とタイ語の不満表明: 上下関係と戦略選択の全体的傾向の対照.....	78
5.3 不満程度「強」の場面で用いられる言語戦略.....	79

5.3.1 「強」の場面における、上下、親疎関係と戦略の選択.....	79
5.3.1.1 「強」「上→下」に出現した戦略.....	79
5.3.1.2 「強」「同等」に出現した戦略.....	86
5.3.1.3 「強」「下→上」に出現した戦略.....	91
5.4 不満程度「強」の場面で用いられる言語ストラテ.....	97
5.4.1 「弱」の場面における、上下、親疎関係と戦略の選択.....	97
5.4.1.1 「弱」「上→下」に出現した戦略.....	98
5.4.1.2 「弱」「同等」に出現した戦略.....	102
5.4.1.3 「弱」「下→上」に出現した戦略.....	108
5.5 第5章のまとめ.....	109
第6章 不満表明の会話の日タイ対照.....	112
6.1 会話の構造と戦略.....	112
6.2 「上→下」:目下の人に対する不満表明.....	114
6.2.1 「親」「上→下」の場合一日タイの比較考察.....	114
6.2.1.1 「親」「上→下」「強」の場合.....	114
6.2.1.2 「親」「上→下」「弱」の場合.....	117
6.2.2 「疎」「上→下」の場合一日タイの比較考察.....	119
6.2.2.1 「疎」「上→下」「強」の場合.....	119
6.2.2.2 「疎」「上→下」「弱」の場合.....	122
6.2.3 目下の人に対する不満表明のまとめ.....	124
6.3 同等の人に対する不満表明.....	124
6.3.1 「親」「同等」の場合一日タイの比較考察.....	124
6.3.1.1 「親」「同等」「強」の場合.....	124
6.3.1.2 「親」「同等」「弱」の場合.....	126
6.3.2 「疎」「同等」の場合一日タイの比較考察.....	128
6.3.2.1 「疎」「同等」「強」の場合.....	128
6.3.2.2 「疎」「同等」「弱」の場合.....	130
6.3.3 同等の人に対する不満表明まとめ.....	131
6.4 目上の人に対する不満表明.....	132
6.4.1 「親」「下→上」の場合一日タイの比較考察.....	132
6.4.1.1 「親」「下→上」「強」の場合.....	132
6.4.1.2 「親」「下→上」「弱」の場合.....	134
6.4.2 「疎」「下→上」の場合一日タイの比較考察.....	134
6.4.2.1 「疎」「下→上」「強」の場合.....	134

6.4.2.2 「疎」「下→上」「弱」の場合.....	136
6.4.3 目上の人に対する不満表明まとめ.....	136
6.5 第5章のまとめ.....	137
第7章 結論.....	146
7.1 日本語とタイ語における「不満表明」の言語ストラテジーの全体傾向.....	146
7.2 「強」の場面.....	147
7.2.1 「強」の場面と上下関係.....	147
7.2.2 「強」の場面と親疎関係.....	147
7.2.3 「強」の場面で使われるストラテジー.....	147
7.2.4 「強」「上→下」の場面.....	147
7.2.5 「強」「同等」の場面.....	148
7.2.6 「強」「下→上」の場面.....	148
7.3 「弱」の場面.....	149
7.3.1 「強」の場面と上下関係.....	149
7.3.2 「強」の場面と親疎関係.....	149
7.3.3 「強」の場面で使われるストラテジー.....	149
7.3.4 「強」「上→下」の場面.....	150
7.3.5 「強」「同等」の場面.....	150
7.3.6 「強」「下→上」の場面.....	150
7.4 問題点と今後の課題.....	152
第8章 終わりに.....	153
出典一覧.....	155
例文の出所であるタイ語の映像資料.....	155
例文の出所である日本語の映像資料.....	156
参考文献.....	157

はじめに

日本語の言語行動には数多くの研究があるが、取り上げられる言語行動の種類には偏りがあり、「感謝」(岡本 1992、西原 1994 等)、「謝罪」(熊谷 1993、高田 1998 等)、「依頼」(エレン 1992、堀江 1995、中川 1998 等)などに集中している。「不満表明」についてはタイ語についても日本語についても先行研究が少なく、日タイの対照研究となるとさらに少ないというのが現状である。

Leech(1983)は、不満表明をすること自体が本質的に人の感情を害するものであることから、不満表明を「対立型発話内行為」とし、Brown and Levinson (1978) は、ポライトネスの立場から、「不満表明」を話し手と聞き手のフェイスを脅かす行為 (Face Threatening Acts, 以下 FTA) であるとしている。「不満表明」は、人間関係における摩擦を引き起こしやすい言語行動であり、特に母語話者と非母語話者の接触場面においては、お互いの文化における言語行動の違いを知らないことからくる誤解等により、母語話者同士の場合よりも、一層、話し手と聞き手との人間関係に摩擦が生じやすいと考えられる。

日本語とタイ語における不満表明においても言語行動には違いがある。例えば、日本語における不満表明はタイ語話者には不満表明とは気づかれないことも多く、逆に、タイ語における親しい関係で行われる軽い不満表明は、日本語話者にとっては強い不満表明だと受け取られやすい。このような、相違はコミュニケーションに支障をきたす危険性をはらんでいるため、日本語教育においても、学習者の母語と日本語の言語行動の違いに注目したコミュニケーション教育が重要な課題となっている。

本稿では日本語とタイ語における不満表明の言語行動について、各言語 12 本の映画(合計 24 本、45 時間 46 分)から取り出した不満表明場面の会話を分析の対象とし、日タイの不満表明を対照し、相手との社会的上下関係や親疎関係、不満の程度の差が、不満表明の発話に用いられるストラテジーとどのように関わるのかを考察する。

第1章 先行研究

感謝、謝罪、依頼、勧誘などの言語行動に比べ、「不満表明」の先行研究は少ない。日本語の「不満表明」と「不満表明ストラテジー」に関する研究には、初鹿野他(1996)、郭(2007)、牧原(2008)、タイ語における「不満表明」の研究には、Sukwisith (2004)、Pongsuriya (2006)、Jaisue (2006)、宮本 (2009)、日中・日韓対照研究には、朴 (2000)、安藤 (2001)、季 (2004,2006)などが挙げられる。これらの先行研究はいずれも「不満表明」に用いられるストラテジーや言語表現に着目している。本稿の目的とする日タイ対照研究については、管見の限りではソムチャナキット (2010)しかない。本稿は、ソムチャナキット (2010)を発展させたものである。

本章では先行研究を概観し、1) 「不満表明」の定義、2) 不満表明という言語行動、3) 不満表明に影響を及ぼす要因、4) 不満表明のストラテジーの順に紹介する。

1. 1「不満表明」の定義

不満表明の定義は研究者によって多少異なるが、日本語の不満表明に関する研究、日本語と他言語との対照研究における定義をまとめると以下ようになる。

(表1) 先行研究における「不満表明」の定義

先行研究	定義
初鹿野他(1996)	好ましくない状況への反応として、話し手が直接、あるいは間接的に行う心的態度の表出行為
季 (2004、2006)	話し手が好ましくないと思う行為や行動を引き起こした相手に対しての反応であると同時に、話し手にとって好ましくない状況を改善してもらう目的を持つ行為
郭(2007)	ある種の行動期待や当然とみなされる文化規範に反するような状況を好ましくないと感じること
ソムチャナキット (2010)	話し手(S)が、聞き手(H)の引き起こした好ましくない状況、発話、行動を指摘する発話行為

(表1)で示した定義の共通点は、「不満表明」を「最初に聞き手(H)が好ましくない状況を引き起こし、話し手(S)がその好ましくない状況に反応し、聞き手(H)に対して否定的な感情を表出すること」である。また、季 (2004、2006)の定義では、「話し手にとって好ましくない状況を改善してもらう目的を持つ行為」と記述され、初鹿野他(1996)は定義の部分では記述がないものの、「結果は、好ましくない状況の改善につながる行為を要求したり、(以下省略)」という記述があり、両研究共

に「不満表明」という言語行動を「好ましくない状況を改善する目的を持つ」ものとして捉えられていることがわかる。

次に、タイ語における「不満表明」に関する先行研究として、Sukwisith (2004)、Pongsuriya (2006)、Jaisue (2006)、宮本 (2009)が挙げられる。Sukwisith (2004)、Pongsuriya (2006)では、「不満表明」という用語ではなく「不満表明」の下位分類である「非難」を分析している。Sukwisith (2004) のまとめた「侮辱」「文句」「批判」「非難」の言語行動についての定義は以下の通りである。これらは、不満表明の研究と共通している部分があるため、参考のために提示しておく(翻訳筆者)。

(表 2) Sukwisith による「侮辱」「文句」「批判」「非難」言語行動の定義 (Sukwisith,2004)

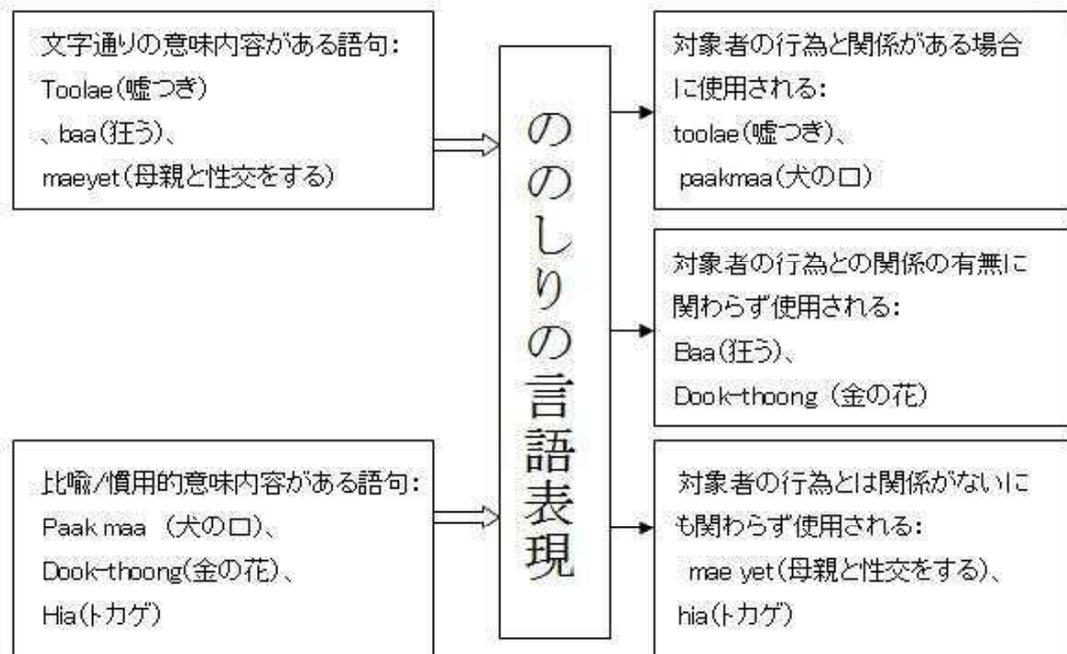
言語行動 の分類	条件			
	伝達内容の条件	基本的要件の条件	真正の条件	原理の条件
侮辱	聞き手が未来に行う行動や行為について伝える	話し手にとって聞き手が未来に行おうとする行動は間違っていることや、聞き手ができないと信じる。	話し手が聞き手を傷つけたいという希望を持つ。	話し手が聞き手を傷つける意図がある。
文句	聞き手が過去に行った行動や行為について伝える	話し手にとって聞き手が行った行動は間違っていたことや好ましくなかったことと信じる。	話し手は、聞き手が引き起こしたことに対して否定的感情を伝えたい。	話し手は、自分が否定的感情を聞き手に伝えようとする。
批判	聞き手が過去に行った行動や行為について伝える	聞き手が引き起こしたことに対して意見がある。	話し手が、聞き手に聞き手が引き起こした行動の結果に対して行動の結果の良い部分と悪い部分を伝えたい。	聞き手に自分が引き起こした結果の良かった部分や悪かった部分を伝えようとするのである
非難	聞き手が過去に行った行動や行為について伝える	話してにとって聞き手が行われた行動は間違っている、あるいは好ましくないことであった。さらに、話し手は、聞き手が引き起こしたことに対して憎みを伝えたい。	話し手は、聞き手に聞き手自身が引き起こした好ましくないことの反省させて、聞き手の感情を刺激したい。	話し手は、聞き手に聞き手自身が引き起こした好ましくないことを反省させて、聞き手の感情を刺激したい。

(表 2)に示したように、Sukwisith (2004)は、「侮辱」「文句」「批判」「非難」について考察し、その

中で「非難」のストラテジーを 1)直接ストラテジー、2)間接ストラテジー、3)付加の 3 つに分類している。また、タイ語母語話者の「非難」の特徴について論じた Pongsuriya (2006)は、タイ語の小説 4 冊を研究対象とし、タイ語母語話者が「非難」の言語行動を行う際、1)直接的手法か間接的手法か、2)被害の尺度と「非難」のストラテジーとの関係に焦点を当てて考察している。Pongsuriya (2006) のタイ語の不満表明の定義は Sukwisith (2004) とほぼ同じであるが、不満表明を行う際、聞き手が引き起こした好ましくないことがらを改善してもらおうという希望・欲求は明らかではないとしている点で、初鹿野他 (1996)と季 (2004,2006)とは若干異なっていると言える。

また、タイ語における罵り表現を研究している宮本(2009)は、罵りの言葉と言え、英語の fuck, shit, damn などいわゆる四文字言葉(four-letter words)、日本語であれば、ばかやろう、畜生、そしてタイ語であれば、aihia (トカゲ野郎)、ii dook(花の女=売春婦)などと、一般の人々にとっては「下品な言葉」(Bad language)、または「非標準語」(Nonstandard language)というイメージが強いだろうと述べている。宮本(2009)によると、1)罵り語や下劣な言葉は、タイ語に多く見られるが、それを直接使わずに内容を保持したまま、より丁寧な言葉や綺麗な言葉に言い換えることもある。それは、聞き手の面子(face)への脅しを軽減するというよりも、話者の本性を隠すことができ、話者が社会から悪く評価されない。2)罵りは下記の図 (1) のように、対象者の行為と関係あるか否かは重要ではない。宮本(2009)を基にして考慮すれば、罵りは相手の面子を刺激する度合いが高いと考えられるため、本稿でも、独立したカテゴリーとして分ける必要があると考える。

(図1) タイ語における罵りの言語表現のモデル(宮本 2009:201)



1.2 不満表明という言語行動

不満表明は日常生活の中でよく出会う言語行動のひとつであるが、言語行動とは何か、不満表明とは何かについて、簡単に述べておく。

言語行動とは、人間が各場面においてお互いにどのような態度を取り、発言するのかを指す。真田、渋谷、陳内、杉戸(1992)では、単音・音節・形態素・語・文などの各レベルで、多くの要素が構造を持ち体系をつくりあげているという意味での言語そのものでなく、そうした言語によって人と人とが何らかのコミュニケーションをとる行動を「言語行動」(linguistic behavior)という述べている。

言うまでもなく、不満表明をする際には、より明確に相手に不満の感情を伝えるために、言語表現だけでなく非言語表現も重要な役割を果たす。飛田(2001)はコンドン(1980)を参照し、言語コミュニケーション研究の分野で注目されるトピックとして(1)手のジェスチャー(指や手を使ったジェスチャー)(2)顔の表情(3)姿勢(中略)(12)修辞形態(中略)(15)パラ言語(話の速度、声の高さ、抑揚、声量、調子、リズムなど)(中略)(20)言語行動のタイミングと間の20項目を挙げて、不満表明する際には様々な非言語表現が用いられていることを示している。しかし、本稿では、非言語行動は扱わず、言語行動にのみ焦点を当てる。ここで言う言語行動とは不満表明の発話だけでなく、その発話の使用される状況、話し手と聞き手との関係、談話の展開等も含めたものを指す。

1.2.1 形式選択の過程とマイナス評価表明のモデル

まず始めに、人間がどのようなことを考慮しながら言語行動を行うのかについて論じた杉本(1985)を見てみたい。杉本(1985)は、周囲への気配りにもとづいて行われる選択の過程を、以下の4段階にまとめている。

(表3) 周囲への気配りにもとづいて行われる選択の過程 (杉本 1985)

① 周囲把握の段階(みなしの段階)	周囲や状況や話題を考えて選択する段階である。 例)生得的属性、社会的属性、立場関係、親疎関係、臨時的属性など
② 表現姿勢の制御段階(扱いの段階)	第一段階で様々な周囲や状況を考えた上でどんな表現やどんな姿勢を表すのかを決定する段階である。
③ 意味特徴の選択段階	国語研(1995)は、一つ一つの敬語形式や待遇表現の個々の行動は、それぞれが待遇表現上の意味・機能をもっていると説明している。また、南不二男(1974)の記述のように敬語形式を始めとする待遇表現の諸要素のもつ意味特

	<p>徴(南の用語では「扱いの特徴」)を8種類の枠組みとして示した。</p> <p>上げ/下げ/中立 強/弱/中立 近づき/離れ/中立 あらたまり/くだけ/中立 負わせ/負い/中立 美/醜/中立 おそれ/あなどり/中立 ためらい/すぐ/中立</p>
④ 形式の選択段階	上記の3段階を経て考慮してから、具体的な待遇表現を選ぶ段階である

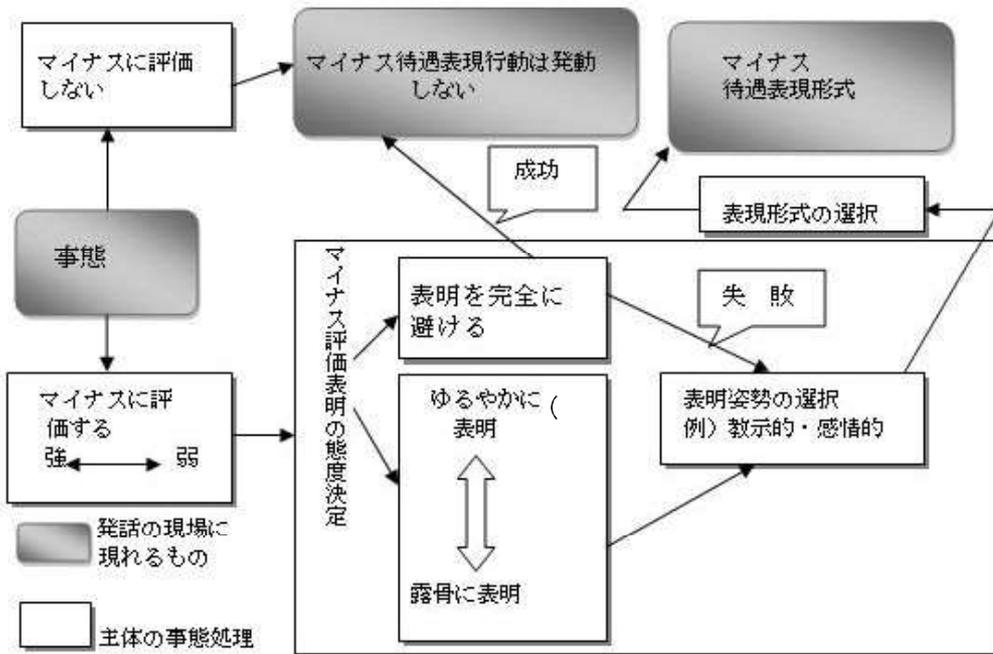
(表3)のように、杉本(1985)では、人間が普段行う言語行動は4段階の過程を経て行うものとされている。不満表明という言語行動も同様であると考えられるが、実際の言語行動においては4段階の過程を意識することなく、瞬時に判断しておこなわれると考えられる。また、異なる文化間においては、同じように4段階を踏まえたとしても、表出される発話の形式が異なったり、同じ内容でも聞き手による丁寧さの判断が異なることもある。

季(2006)は、Olshtain and Weinbach (1993:118-119)を参考に、社会義務感 (social obligation) が明確な場合の不満表現においては、韓国語を母語とする日本語学習者は礼儀などを気にせずに、相手を非難する傾向があると指摘している。しかしそれも、韓国語以外の言語を母語とする日本語学習者すべてに当てはまるとは言えない。それぞれの社会における言語行動と言語ストラテジーが異なっていれば、上記の4段階通りにならない場合も当然予測される。

「不満表明」という言語行動は、対人関係を脅かす危険性があるマイナス待遇表現¹である。牧原(2008)は、《感謝表明》は「他者への賞賛」であり積極的に伝えるのに対し、《不満表明》は「他者への非難」であり消極的に行われると述べている。また、西尾(2007)は、「不満表明」の言語行動には、まず事態を評価し、マイナス待遇表現をするかどうかを選択し、する場合はどんな言語形式を表出するかを考慮するという過程があると述べている(図2)。

¹ 西尾(2007)は、「マイナス待遇表現行動とは、話し手が表現対象を低く悪く(マイナスに)評価し、それを表明する言語行動である (p.196)」と定義している。

(図2) マイナス待遇表現行動の出産モデル(西尾 2007)



上述の形式選択の過程とマイナス評価表明のモデルを理解できるからこそ、各文化において人々は、不満表明をする際に、どのようなことに配慮し、どのような選択過程を踏まえるべきかが分かるのである。そこで、なぜ二つの文化における不満表明の在り方が異なるか、不満表明の発話行為に影響を与える要因について次節で見ていく。

1.3 不満表明の発話行為に影響を及ぼす要因

不満表明をする際、様々な配慮や状況によって戦略が異なる。李(2006)は、Brown and Levinson (1987:60) を参考に、話し手は「不満表明」を行う前に、相手との関係を考慮に入れ、どのように不満を表明するかを検討する (payoff considerations) と指摘している。

ポライトネスの先行研究である Brown&Levinson(1987)で述べられているように、フェイス・リスクの度合を計算する時に、「D 社会的距離 (Social distance)」、「P 力(Power)」、「R_x 特定の文化内における行為 x の負担度」の 3 要素を考慮しなければならない。日本語の不満表明戦略に影響を及ぼす要因について論じた郭 (2007)は、不満表明の発話行為に影響を及ぼす要因を外的要因と内的要因に分け、(表4)のようにまとめている。

(表 4) 不満表明の発話行為に影響を及ぼす要因 (郭 2007)

外的要因	内的要因
①社会的上下関係	①不満を感じた行為のひどさ
②親疎関係	②被害の可能性
③義務・権利関係	③改善の見込み
④一時的・持続的關係	④お互い様意識
⑤性別	
⑥年齢	
⑦容姿・印象・態度	

郭(2007)は、外的要因は社会的に制約を受けるもので、簡単に変えられないものであり、当事者だけでなく、第三者からみても、より客観的に捉えられるものであるとしている。それは、Brown&Levinson (1987) で述べられている「D 社会的距離 (Social distance)」と「P 力 (Power)」に相当すると考えられる。それに対して、郭(2007)は内的要因とは文化的に制約を受けるものであり、絶対的なものではなく相対的なものであると述べおり、これは「R_x 特定の文化内における行為 x の負担度」に当たるものだと考えられる。

郭(2007)は、内的要因は当事者が感じ取ったものであり、相対的・心理的・主観的なものであるため、文化によって各要因の重要度が異なると指摘する。郭(2007)が指摘した内的要因は、質問紙調査及び少人数の面接調査を分析した結果得たものである。本研究で日タイ対照研究を行うにあたり、両言語に関わる文化的側面を考慮した分析が重要であると考えられるため、外的要因だけでなく、母文化や習慣に関連する内的要因を含めて考察を行うこととする。そこで、外的要因と内的要因がどのようなものであるかについて、以下で詳しく論述する。

1.3.1 外的要因

外的要因に関しては、言語行動の研究においてよく取り上げられており、目に見える、理解しやすい要因である。外的要因には以下のようなものが挙げられる。

① 社会的上下関係の要因

地位が上か下かにより言語行動も変わる。例えば、上司は部下に対して不満表明しやすいという傾向が強い。それに対して、部下は上司に対して不満表明しにくい、あるいは表出できない社会もあるだろう。

② 親疎関係の要因

親しい関係であっても相手の面子を考えずに不満表明できない社会と、親しい関係であるからこそ相手の面子を考えなくても不満表明できる社会という2パターンが考えられるのではないだろうか。

③ 義務・権利関係

①の社会的上下関係職階の上下などを指すのに対し、③は、社会的な義務を果たせば、不満を表明する権利を認めるということである。例えば、顧客は、料理を間違えて持ってきた店員に対して、不満を表明しても当然である。

④ 一時的・持続的關係

一時的関係の場合、不満を表出しても、その人にもう二度と会わない可能性が高いため、未来の自分には何も影響を与えないため、不満を表出しやすいという可能性があるのに対して、これからずっと持続的關係を保つような相手に対する場合は不満を言わずに配慮表現を使用するという可能性もある。

⑤ 性別の要因

男女によって不満表明の傾向の差異が生じる。

⑥ 年齢の要因

年齢が違うことによる不満表明の傾向の差異が存在する。

⑦ 容姿・印象・態度

どの社会においても、同じ場面でも不満を表出するかどうか、どのようなストラテジーや言語形式を用いるかには個人差がある。

1.3.2 内的要因

内的要因は、人の心理的な部分に関わるため、外部からは判断しにくい。

① 不満を感じた行為の程度

同じ場面であっても、引き起こされた好ましくない状態・行動・発話の程度に対する判断が社会と文化によって異なるが、その程度が高い場合に不満を表明する傾向が高く、低い場合には、不満表明せずに別の言語行動を行うことになる。

② 不満表明を行うことによって被害を被る可能性

相手が引き起こした好ましくない状態・行動・発話に対して不満表明を行うことにより、将来自分が不利益を被る可能性があるかどうかを考慮して、不満表明するかしないかを選ぶ。例えば、先生に対して不満を表明すれば、先生に嫌われるかもしれないし、成績にも影響が出るであろうと考慮した場合は不満を表明しないようになる。

③ 改善の見込み

改善の見込みとは、好ましくないことを引き起こした場合、改善される可能性があると考えるかかどうかである。改善の見込みのある相手には、不満を表明するのに対して、改善の見込みのない相手には、不満を表明しない傾向がある。

④ お互い様意識

お互い様意識という内的要因は、不満を表明するか否かを選択する時に、自分もまた同じような事をするかもしれないというような理由を考えたいうえで、不満を表明しないように我慢する。郭(2007)は、次のような例を挙げている。

例 23 (しばらくがまんする。自分もたまにうるさいので。)**【9#a 院 15】**

例 24 (自分もうるさくしているかもしれないから。)**【#9a 学 38】**

例 25 (自分も勉強の時音楽ガンガンつけてるから気にしない様にできる。)**【#9a 院 7】**

(郭、2007:58)

③④については、特に日本社会に顕著であると考えられる。

日本社会の特徴について、Matsumoto(1988)、Ide(1989)、Mao(1994)などは、日本や中国の社会における「社会的立場」(social identity) という概念の重要性を指摘している。例えば、Matsumoto(1988:405) は次のように論じている。

日本人にとりわけ重大な関心事は、自分自身のテリトリーではなく、グループ内の他のメンバーとの相対的位置関係およびそのメンバーたちに受け入れられることである。フェイスを失うことは、そのグループの構成と階層関係が分かっていると他のメンバーに判断されることと関連している。…(中略)日本人は、一般に、自分の属するグループもしくは社会の他のメンバーとどのような相対的位置関係にあるかを理解し、かつ、自分が他のメンバーに依存していることを認めなければならない。あらゆる社会的交流の統制原理は、自分のテリトリーを維持することではなくて、他者との相対的位置関係を知り、その関係を維持することなのである。Matsumoto(1988:405)

このように、文化背景の要因によって各母語話者の使用する言語行動ストラテジーも異なる可能性があると思われる。

1.4 不満表明のストラテジー

「不満表明」のストラテジー(以下、ストラテジー)は、先行研究により異なっている。「不満表明」のストラテジーについて論じている先行研究として、初鹿野他(1996)、李(2004)、ソムチャナキット(2010)が挙げられる。また、ソムチャナキット(2010)では、初鹿野他(1996)、李(2004)の不満表明のストラテジーを参考にし、新たな不満表明のストラテジーを追加した。それぞれの先行研究におけるストラテジーの共通点と相違点を見ていく。

まず、初鹿野他(1996)では、(表 5)に示すように、7 種類のストラテジーが挙げられている。

(表 5) 初鹿野他による不満表明ストラテジーの分類(初鹿野他 1996:131)

<p>①改善要求</p>	<p>a. 直接改善要求(相手に好ましくない状況を変える行為を行うよう直接要求する) 例 1) <u>あの、申し訳ありませんが、もう少し静かにしていただけますでしょうか?</u></p> <p>b. 改善された結果についての言及(相手が好ましくない状況を改善してくれた場合の結果について述べる) 例 2) <u>私、よく分かりませんので、もう少しゆっくり教えていただけると助かるのですが。</u></p> <p>c. 社会的規範に言及するなど、結果的に(間接的に)好ましくない状況の改善に結び付く行為を要求することにより相手に好ましくない状況であることを認識させる。 例 3) <u>約束した時間は守るようにしようよ。</u></p>
<p>②命題内容の表出</p>	<p>a. 相手によって引き起こされた好ましくない行為、状況を同定する。 例 4) <u>どうしたの?遅れてくるなんて、珍しいじゃない。</u> 例 5) <u>すみません。〇日頃届く予定でしたよねえ。まだ届かないんですけど、どうなってるんですか。</u></p> <p>b. 相手が行ったもしくは行っている好ましくない行為または状況により引き起こされた結果を同定する。 例 2) <u>私、よく分かりませんので、もう少しゆっくり教えていただけると助かるのですが。</u></p> <p>c. 直接的に命題内容について述べるのではなく、他の状況、行為に言及することで好ましくない影響を与えている状況、行為を暗示する。 例 4) <u>どうしたの?遅れてくるなんて、珍しいじゃない。</u> 例 8) <u>まったく、もう。お前はいつもこーなんだから。</u></p>

③好ましくない状況が生起した原因・理由、またはその状況が生じた過程を問う。	例 4) <u>どうしたの？遅れてくるなんて、珍しいじゃない。</u> 例 5) <u>すみません。〇日頃届く予定でしたよねえ。まだ届かないんですけど、どうなってるんですか。</u>
④好ましくない状況が生起した事の確認。	例 5) <u>すみません。〇日頃届く予定でしたよねえ。まだ届かないんですけど、どうなってるんですか。</u>
⑤条件提示	(警告、脅し、非難など) 例 6) <u>今度から待ち合わせ時間 30 分早く言うからね。</u>
⑥代償要求	(好ましくない状況を引き起こした相手に代償を要求する。) 例 7) <u>今日はおごりだね。</u>
⑦不満感情表出	(慣用表現になっているもの。) 例 8) <u>まったく、もう。お前はいつもこーなんだから。</u>

下記の(表 6)は、李(2004)が分類した不満表明ストラテジーを示した表である。下記のストラテジーは、相手のフェイスを脅かす度合 (the degree of face threat、以下 FT 度) の低い Str1 から最も高い Str8 の順に並べられている。

(表 6) 李による不満表明ストラテジーの分類(李、2004)

不満表明ストラテジー	解説
Str1 不満を表明しない	何も言わない。または不満の原因となった相手の行動に関して一切言及しない。 例:(急に水道料金を値上げされたとき) <u>「そうですか。分かりました。」</u>
Str2 遠まわしな不満表明	相手が引き起こした好ましくない状況や相手の行動について直接的に述べるのではなく、それに関連した発言をすることによって気付かせるなど、間接的にほのめかす。 例:(返してもらった CD の傷を見て) <u>「この前の CD、ちゃんと開けた？」</u>
Str3 理由・説明の要求	不満の状況が生起した原因・理由、またはその状況が生じた過程を相手に聞いたり、確認を求める。相手に滞在的にでも責任があることを伝える。 例:(遅れた友だちに対して)

	<u>「どうしたの？」</u>
Str4 明示的な不満表明	相手の違反行為を明示的に言及する。相手によって引き起こされた(好ましくない)結果を指摘する。相手に対して、FTA を行うが、直接的に何らかの行動は要求しない。
	例:(遅れた友だちに対して) <u>「遅い!もう3回目だよ。」</u>
Str5 改善要求	相手に不満の状況を変える行為を行うよう要求する。また、同じ行動を引き起こさないよう自制を要求する。相手の行動を制約するという意味で、相手に対する「働きかけ」の度合いが強いものである。
	例:(列に割り込んだ人に) <u>「後ろにちゃんと並んでもらえますか。」</u>
Str6 代償要求	好ましくない状況を引き起こした相手に代償を要求する。
	例:(遅れてきた友だちに) <u>「昼ごはんはお詫びにおごってよ。」</u>
Str7 警告・脅かし	相手に警告を発したり、脅したりする。
	例:(宿題をやってこなかった生徒に) <u>「今度もやってこなければ、僕もうやめるから。」</u>
Str8 非難	話し手が軽蔑や非難または罵りの言葉(curse)を合意して聞き手を攻撃する。直接的な侮蔑的言動(direct insults)がこれに該当する
	例:(割り込んできた人に) <u>「ちょっと非常識じゃないですか。」</u>

(表 5)(表 6)から明らかなように、初鹿野他(1996)と李(2004)の分類は、どちらも言語形式ではなく、戦略によって分類している。初鹿野他(1996)は「不満を表明する」ものに限っているが、李(2004)は Olshtain and Weinbach (1993)及び Laforest (2002)に倣って、Str①「不満を表明しない」を加え、FT 度の度合いによって分類を行っている。李(2004)の分類では Str ①「不満を表明しない」～Str ⑧「非難」は、数値が大きければ大きいほど FT 度が高いと説明している。

また、両分類を比べて見てみると、初鹿野他(1996)の戦略⑦「不満感情表出」(「馬鹿野郎」「畜生」等のような罵り言葉)は、李(2004)の分類では、よりFT度の高いStr ⑧「非難」に分

類されている。

李(2004)は、初鹿野他(1996)と違い、明示的と非明示的の二つに戦略に区別している。Str2)遠まわしな不満表明とは、相手が引き起こしたその好ましくない状況、行動、発話を間接的に指摘することである。J.R.Searle (1979) が言語行動に関して記述しているように、間接的な発話行動 (Indirect Speech Acts)では、話し手が表出する発話は様々な意味に読み取ることができ、相手の意図を読み取ることによって相手は不満表明であると気付くのである (Searl 1087: 30)。これに対して、Str 3) 非難～Str 8)不満感情表現は、明示的な不満表明であり、相手への伝達意図が不満であることは明らかである。

初鹿野他(1996)、李(2004)を本稿の目的である日本語とタイ語の不満表明戦略の分類に用いるには以下のような問題点が存在する。

(1)各戦略の定義に不明確な点や定義の重複部分が存在すること。

具体的には、Str4 明示的な不満表明と Str8 非難の例が挙げられる。Str4 明示的な不満表明の定義は、そのまま Str8 非難の戦略に置き換え可能な程、Str8に類似している。

(2)不満表明の戦略の分類そのものは、言語の違いに関わらず普遍的であると考えられるが、各研究で扱われた言語が異なるため、日本語とタイ語の不満表明を扱うのに十分なだけの戦略が挙げられているかどうか、分類が適切であるかどうかについて検討しなければならないこと。例えば、Str8 に罵りを含めるべきかどうかも見直す必要がある。

(3)戦略の分類に関する問題ではないが、表現上はFT度の高いとされる罵りのような戦略がタイ語では親しい相手に対する不満表明がごく軽い不満の表出として用いられる点など、誰が誰に用いるかを考慮する必要があること、言語とその背景にある文化によって違いがあることについての分析が必要であると考えられる。

以上のような問題点を解決するために、ソムチャナキット(2010)では、李(2004,)、初鹿野他(1996)の分類も参考にした上で、日タイ対照研究に適した言語戦略を再考した。ソムチャット(2010) は、ソムチャナキット(2010)は、映画の中から、不満表明の発話を取り出し、文字化したデータ(日本語の映画:全 12 本 24 時間 45 分、タイ語の映画:全 12 本 21 時間 1 分)を分析対象とし、日タイの不満表明の発話に現れた戦略を分類し、不満表明戦略分類の枠組みを完成させたもので、結果は表(7)の通りである。本研究は、ソムチャット(2010)を発展させたものであり、戦略の分類は重要であるので詳細は第 2 章に譲る。

(表 7) ソムチャナキットによる不満表明ストラテジーの分類(ソムチャナキット、2010)

① A. 不満を表明しない (Not Doing complaint) / B. 不満表明する (Doing Complaint)
② C. 非言語行動 (Non-verbal) / D. 言語行動 (Verbal)
③ E. 明示的不満表明 (Explicit Complaint) / F. 非明示的不満表明 (Implicit Complaint)
E. 明示的不満表明 (Explicit Complaint)
Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)
Eb. 改善要求 (Demand for improvement)
Ec. 代償要求 (Asking for Compensation)
Ed. 警告・脅かす (Warning and Threatening)
Ee. 非難 (Using Reprimand and Insult)
Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)
Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)
Eec) 否定的な言葉 (Using Negative Words)
i. 付加方略 (Supporting Strategies)
ii. 否定的な意味を持つ言葉 (Using Word with Negative Meaning)
iii. 罵り (Using Swear Word)
F. 非明示的不満表明 (Implicit Complaint)
Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)
Fg. 比喩 (Using Metaphor)
Fh. 婉曲的な表現 (Using Euphemism)
Fi. 相手を特定せずに一般化する (Using Ambiguous Insults)
Fj. 他のものに不満を持つふりをする (Attacking others related to the target)
G. その他

1.5 「不満表明」に関する対照研究の先行研究

不満表明に関する日タイ間の対照研究がないため、日本語の不満表明において学習者が使用するストラテジーについての先行研究を紹介しておく。学習者が使用するストラテジーの特徴に関する先行研究には、初鹿野他(1996)、李(2004、2006)がある。それぞれの研究の内容は(表8)に示す通りである。

(表8) 日本語の不満表明において学習者が使用するストラテジーの特徴

	初鹿野他(1996)	李(2004)	李(2006)
被験者の母語	英語、中国語、インドネシア語、タイ語、その他	韓国語	
		JSL ² 環境・JFL ³ 環境(日本語能力試験1級合格上級レベル)	
データ収集方法	談話完成法テスト		
	8つの場面を設定	15場面を設定	15場面を設定
結果	<ul style="list-style-type: none"> ① NNS は、間接的なストラテジーの使用率が高い傾向にある ② NS は「理由を聞く」ストラテジーを多用する ③ 不満感情⁴表出の使用率が、NNS の方が高い ④ 連鎖の特徴として、使用したストラテジーは、NSの場合偏りがあり、NNS はバリエーションが豊富 	<ul style="list-style-type: none"> ① 日本語母語話者(JJ)が用するストラテジーは Str1、Str2、Str3⁵ ② 韓国語母語話者(KK)が多用するストラテジーは、Str5、Str6、Str7、Str8⁶ ③ KKの方がより相手のFT度の高い言い方をし、KK の中でも、JFL 学習環境の学習者のほうがよりFT度の高いストラテジーを使用 ④ KK の用いた言語表現には韓国語からの転移が多数観察 	<ul style="list-style-type: none"> ③ 修復可能な場面では、JJとKKのストラテジー使用率において、殆ど差がない。 ④ 「割り込み」の場面では、JJとKKとの間にストラテジーの選択に差がみられ、JJはStr1、Str2の使用率が高くなる

※表中で使用しているNSは日本語母語話者を、NNSは日本語学習者を指す

(表8)の結果から両研究に共通して言えるのは、日本語母語話者は不満表明の際に「理由を聞く」というストラテジーを多用するという点である。また、韓国語母語話者は日本語母語話者より直接的に不満を表明し、さらに韓国で外国語として日本語を学習する韓国人学習者(JFL)は、日本で第2言語として日本語を学習する韓国人学習者(JSL)より直接的に不満を表明することが分

²日本で第2言語として日本語を勉強する学習者のことをJSL(Japanese as a second language)とする。

³韓国で外国語として日本語を勉強する学習者のことをJFL(Japanese as a foreign language)とする。

⁴「ばかやろう」「いいかげんにしろ」などの発話を不満感情表出としている。

⁵Str1は「不満を表明しない」、Str2は「遠まわしな不満表明」、Str3は「理由・説明の要求」である

⁶Str5は「改善要求」、Str6は「代償要求」、Str7は「警告・脅かし」、Str8は「非難」である。

かった。李(2004)は、JFLの方がJSLに比べ、よりFT度の高い戦略を用いていることから、学習環境が学習者の不満表明戦略の選択に影響を与えていることが示唆されたと述べている。

また、初鹿野他(1996)は、日本語母語話者(以下NSとする)と日本語学習者(以下NNSとする)の不満表明行為の特徴を明らかにすることを目的とし調査を行っている。調査方法は、8つの場面における談話完成テスト(Discourse Completion Test; DCT)である。この調査では、以下の3点が明らかになった。

- 1) 全体的傾向として、ほとんどの場面でNSは暗示的、間接的な戦略の使用率が高いという特徴が見られた。
- 2) NSは理由を聞く戦略の使用頻度が最も高く、「ばかやろう」「いい加減にしろ⁷」などの不満感情表出の使用も、NSの方がNNSより使用率が高いという特徴が見られた。
- 3) 連鎖型の特徴として、NSの使用した戦略はいくつかの連鎖型に集まる傾向にあるのに対して、NNSが使用した戦略の連鎖型にはバリエーションが多かったということが分かった。

しかしながら、初鹿野他(1996)の調査対象とした日本語学習者は、母語種類や人数にばらつきがあるため、日本語学習者を一般的に観察することになっており、学習者一般の結果とは言えない。

李(2004)は、日本語母語話者と韓国語母語話者の不満表明戦略の使用を比較した上で、韓国人日本語学習者の不満表明戦略の使用傾向や母語から移転の実態を明らかにすることを目的として、日本語母語話者(以下JJ)40名、韓国語母語話者(以下KK)40名、韓国人日本語学習者JSL(Japanese as a second language)40名とJFL(Japanese as a foreign language)40名を対象に談話完成テスト(以下DCTとする)を使用して、不満表明戦略の使用傾向を分析した。調査の結果、以下の3点が明らかになっている。

- 1) JJが多く用いている戦略はStr1「不満を表明しない」Str2「遠まわしな不満表明」Str3「理由・説明の要求」であるのに対して、KKは、Str5「改善要求」Str6「代償要求」Str7「警告・脅かし」Str8「非難」のような戦略を多く用いている。
- 2) 不満表明において相手のフェイスを脅かす度合(the degree of face threat, FT度)から見ると、JJに比べKKの方がより相手のフェイスを脅かす度合の高い言い方をしている。さらに、JFLはJSLに比べ、よりFT度の高い戦略を使用しており、学習環境が学習者の不満表明戦略の選択に影響を与えていることが考えられる。

⁷ 本稿では、否定的意味を持つ言葉(Using Negative Words)に分類される。

3) 不満表明の際、韓国人日本語学習者の用いた言語表現の中には、韓国語からの転移であると思われる例が多く観察された。このことから、不満表明のような発話行為においては、母語の影響を受けやすいことが指摘された。

また、李(2006)では、(1)日本語母語話者と韓国語母語話者の不満表明ストラテジーの使用の違い、(2)「不満表明」の切り出しや終結部の発話における違いについて、日本語母語話者(JJ)と韓国語母語話者(KK)を対象に、日常生活で遭遇しやすい15場面を設定して談話完成テスト(Discourse Completion Test, DCT)を実施している。この調査では、親疎関係と上下関係に加えて相手の性別、不満を感じた程度、被害の度合、修復の可能性などにいたるまで詳細に場面を設定し、調査を行い、以下の2点を明らかにしている。

1) 量的差異から見ると、李(2006)は、李(2004)と同じようにJJが多く用いているストラテジーは Str1「不満を表明しない」Str2「遠まわしな不満表明」Str3「理由・説明の要求」であるのに対して、KKは、Str5「改善要求」Str6「代償要求」Str7「警告・脅かし」Str8「非難」のようなストラテジーを多く用いているということが分かった。

2) 修復可能な場面では、JJとKKのストラテジー使用率において、殆ど差がない。但し、「割り込み」の場面において、JJとKKとの間にストラテジーの選択に差がみられた。JJの場合、Str1「不満を表明しない」Str2「遠まわしな不満表明」の使用率がKKより高くなっている。このように、同じ修復可能な場面であっても「割り込み」のような、社会的に受け入れにくい行動・行為に対する不満表明では日韓差が大きいのではないかと考えられる。

第2章 問題の所在と本論文の概要

2.1 問題の所在

水谷(1987)は、日本語の表現の特徴として「ものを言わないのが大人の条件(p.58)」だと述べている。水谷が日本語の特徴として挙げている「ものを言わない」というのは、そのことを表現しない場合と、口には出すが全てを言うのではなく遠まわしに表現するという2つの場合が考えられる。ソムチャナキット(2010)では、日本語よりもタイ語の方が不満表明に使う語彙や表現が豊富であるという指摘をした。日本語学習者から見れば、日本語は不満を明示的に表現せず、遠まわしに言う言語にみえる。実際に日本語では不満を表明しないのだろうか、それとも遠回しに言っているのだろうか。日本語母語話者の不満表明の実態を明らかにする必要がある。

また、多くの日本語教科書は丁寧体の会話を中心のものがほとんどである。近年、普通体を使った砕けた話し言葉の会話を取り上げている教科書も増えているが、不満表明は取り上げられていないようである。日本語学習者は、日本語の教科書にも取り上げられず、実際に日本語の母語話者と接触する機会も少ない限られた場面で日本語を学ぶため、日本語ではどのようなストラテジーや表現を使用して不満を表明しているのか、想像がつかないだろう。

文化の違う国から来た日本語学習者は、不満を表明する際に、1) 本人が行おうとする不満表明を正確に伝えることと、2) 相手のフェイスを脅かす度合いを軽減すること、という2つの点に配慮していると考えられる。しかし、文化によって不満表明の表現方法やフェイスを脅かす度合いを軽減する方法が異なるため、意図したように不満が伝わらなかったり、人間関係に摩が生じたりする可能性が考えられる。

日本語においてもタイ語においても、不満の程度が異なると、それに応じて不満表明をするかどうか、どのような表現を使うかが変わる。例えば、(1)(2)のように不満がない場合や、あるいは多少の不満はあっても不満を表明するほどのことではない場合、日本語でもタイ語でも相手のフェイスを侵すようなFTAを行われたい。(1)~(4)は作例で、どちらとも親しい友人関係にある女子大学生の会話である、タイ語には意識だけをつけておく。

例(1) A は、友人の B のペンを無くしてしまった。が、そのペンは、安物で新しくもないため、B は、気にせず普通の会話を進める。

01A : ごめん。このあいだ貸してもらったペン、無くしちゃったみたい。

02B : そうなの。

03A : ごめん。

04B : ううん、大丈夫。もうぼろぼろだったし。

(作例)

例(2) A は、友人の B のペンを無くしてしまった。が、そのペンは、安物で新しくもないため、B は、気にせず普通の会話を進める。

01A : เอ้ย แก ขอโทษนะ เราทำปากกาที่แกให้ยืมเสียหายอะ

感嘆詞 あなた すみません 文末詞 私 する ペン 関係代名詞 あなた 貸す 機能 無くなる 文末詞

(ねえ、あなた、ゴメンね。昨日貸してくれたペンを無くしたんだけど・・・)

02B : เออ ไม่ใช่ไรแก แท่งละ 5 บาท

応答 大丈夫 あなた 本 にあたり 5 パーツ

(うん。大丈夫だよ、君。5パーツぐらいのペンだから。)

(作例)

例(1)(2)の場合、日本語でもタイ語でも B は FTA を行わずに、[04B]「う～ん、大丈夫だよ。もうぼろぼろだから。」[02B]「うん。大丈夫だよ、君。5 パーツぐらいのペンだから。」と相手の謝罪を受け入れて、気にしなくてもよいという趣旨の発話で関係の修復を行って会話が終わる。実際には多少の不満があっても、弱い不満であれば例(1)(2)のように不満を表明しないことを選択する場合もある。

では、不満が強い場合にはどうなるだろうか。

例(3) A は、期末試験の直前に友人の B に貸してもらったノートを無くしてしまった。B は、そのノートがないと試験の準備も出来ないため、A に不満を表明した。

01A: ごめん！ノートをどこかで無くしちゃった。

02B: えっ！うそ！

03A: 頑張って探したんだけど・・・。

04B: 困ったなあ、試験があるのに・・・。

(作例)

それに対して、例(3) の場合、Aに貸したノートが無くなり、試験の準備ができないBは、強い不満を感じて、[04B]「困ったなあ、試験があるのに・・・」と、FTA を行っている。[04B] の発話は自己主張表現の「困ったなあ。」と「試験があるのに・・・」と同じストラテジーが二回使用されている。例(3)のいような場合でも、もっと FT 度の高い不満表明が用いられる可能性も考えられるが、筆者の観察では、日本語の場合はタイ語の場合に比べてかなり控えめであると感じられる。例(4)はタイ語の例である。

例(4) Aは、期末試験の直前に友人のBに貸してもらったノートを無くしてしまった。Bは、そのノートがないと試験の準備も出来ないため、Aに不満を表明した。

01A: เอ้ย แก เราทำสมุดเลคเชอร์ของแกหายอะ หาเท่าไรก็ไม่เจอเนี่ย

感動詞 あなた 私 する ノート の あなた 無くなる 文末詞 探す いくら 強調詞 見つけない 強調詞
(ねえ、あなた、あなたに貸してもらったノートを無くしちゃったみたい。どれだけ探しても見つからなかった。)

02B: เอ้ย อย่าล้อเล่นดิแก

感嘆詞 しないで 冗談する 文末詞 あなた
(おい、冗談を言わないでよ)

03A: จริง ๆ หาไม่เจอเลยอะ ทำไงดีวะ

本当に 反復記号 見つけない 強調詞 文末詞 する どう 良い 文末詞
(冗談じゃない。見つからない。どうしよう。)

04B: อ้าว ขวยแล้ว แล้วเราจะอ่านอะไรสอบวะ อุตส่าห์จดมาทั้งหมดเนี่ย

感嘆詞 ついていない 完了形 それから 私 未来形 読む 何 試験 文末詞 努力する 書く 来る 中
学期 強調詞

(えー↑。困ったな。試験勉強に何を読むの。学期の初めから真剣にノートに書き取ったのにな。)

05A: เอ้ย แก ขอโทษๆ

感嘆詞 あなた すみません 反復記号 反復記号
(ねえ、あなた、ごめんごめんごめんね)

(作例)

例(4)の場合、Bは強い不満を感じているため、[04B]で幾つかの不満表明のストラテジーを連続して用いている。注意喚起や驚きを表現する「ฮ่าว(えー↑)」、自己主張表現の「ทวยแล้ว(困つたな)」、修辭的な疑問の「แล้วเราจะอ่านอะไรสอบวะ(試験勉強に何を讀むのー)」、自己主張表現の「อุตสำหรับจดมาทั้งเทอมเนี่ย(学期の初めから真剣にノートに書き取ったのにな)」の4つである。タイ語の発話の終わりが「言わないでよー」のように長く延ばされている点も、「言わないでよ」のように短く発話するのに比べて、表現を和らげる効果がある。今回は音調等については考察できなかったが、参考までに付け加えておく。

日本語とタイ語の作例を比較すると、不満を感じない、もしくは不満をあまり感じない場合の作例(1)(2)においては、日タイのどちらの言語でもFTAを行わずに、相手との友好関係を保持する「大丈夫」や「ไม่เป็นไร」という発話が見られる。それに対して、強い不満を感じる場合の作例(3)(4)では、両言語ともに複数のストラテジーを連鎖的に使用して不満を表明している。しかし、用いられているストラテジーの数に違いが見られ、先行研究においてもタイ語や韓国語の場合、日本語よりも多様なストラテジーが連続して使用されることが指摘されている。

ここで、日タイの不満表明の特徴を示す例を今回のデータの中からいくつか挙げておく。(5)は、目上から目下に対して、(6)は同等の相手に対して不満表明を行っている日本語の例である。

例(5)(遅れてきた葬儀社の社員Bに対して、客のCが強い不満表明を行っている。)

01A: 怒ってるよ。怒ってるよ。頼むよ。佐々木さん!

02B: すいません。

03C: 遅っせー! 5分も過ぎてんだぞ。5分も!

04B: 申し訳ありません。

05C: おめえら 死んだ人間で食ってんだろ

06A: 義兄さん

07C: 早くしろ!

(おくりびと)

例(6)(遅れてきたBに、同僚のAが強い不満表明を行っている。)

01A: 遅い!

02B: 取材が押しちゃって

03A: 遅い!

04B: すみません すみません

(涙そうそう)

二つの例はどちらも不満の程度の強い例である。例(5)は、立場上目上と考えられる客が、葬儀社の社員に対して不満を表明している場面で、[01A]「遅っせー！ 5分も過ぎてんだぞ。5分も！」と、否定的な言葉＋主張表現(相手の罪や望ましくない行動や結果を肯定文で指摘すること)が使われている。また、修辭的疑問の[05C]「おめえら 死んだ人間で食ってんだろ」と改善要求[07C]「早くしろ！」の使用が見られる。また、同等の相手に対する不満表明の場面(6)においても、否定的な言葉の「遅い」が見られる。日本語では、例(5)(6)のように不満の程度が強い場合、相手のフェイスを侵す可能性の高い(FT 度の高い)ストラテジーが多く用いられる可能性が高いと考えられる。しかし、タイ語では、FT 度の高いストラテジーを用いても不満の程度の強い場面とは限らない。例(7)(8)は友人に対して不満表明を行っているタイ語の例である。ソムチャナキット(2010)でも指摘したように、タイ語には皮肉と罵りが多いという特徴があるが、それらは「弱」の場面でも現れる。

例(7)(ダンスをやめようとする B アートに対して、友人の A が強い不満を表明している。)

01A: โออาร์ท ไอเหี้ย มึงจะรีบกลับเลยทำไมวะ อยู่คิดหาทางกันก่อนดี มึงเดินเป็นอะ

奴 アート(人名) 奴 トカゲ お前 未来形 急ぐ 帰る すぐ なぜ 男性の文末詞 いる 考える 探す 方法
お互いに 先に 依頼形 お前 ダンス できる 文末詞
(アート、バカ野郎、何で早く家に帰るんだ？一緒にいて色々考えようよ。お前踊れるから。)

02B: ไม่เดินอะ ไม่ชอบให้ใครมาบังคับ

しない ダンス 文末詞 しない 好き させる 誰 来る 強制する
(踊らない。強制されるのは嫌だ。)

03C: โออาร์ท แล้วอาร์ทจะทิ้งพวกเราไปเฉยๆ ได้ไงอะ

感嘆詞 アート(人名) それで アート(人名) 未来形 捨てる 私たち 行く そのまま 反復記号 可能形 どのように 文末詞
(ああ、アート。何もせずに私達を捨てるわけ。)

04A: ไอสัตว์อาร์ท มึงรับผิดชอบหน่อยดิวะ เฮ้ย ไอเหี้ย ไม่ใช่มีคนเดียววะวัย รุ่นพี่ก็เล่นงานทุกคนอะ

奴 動物 アート(人名) お前 責任を持つ ちょっと 依頼形 文末詞 感嘆詞 奴 トカゲ ではない お前一人よ 文末詞 先輩 も やる 皆 文末詞
(アートめ、動物野郎。いい加減にしろよ。おい、トカゲ野郎。おめえ 1人じゃないんだよ。皆が先輩に怒られるんだよ。)

(ラックオー)

例(8)(コンタクトレンズの洗浄液について質問するAに対して、友人のBが弱い不満を表明している。)

A01: แล้วยี่อะ

それで これ 文末詞

(それで、これは何?)

B02: น้ำยาล้างคอนแทคไจ

液体 洗浄 コンタクト 文末詞

(コンタクトレンズの洗浄液ですよ)

A03: ใช้ทำอะไรอะ

使う する 何 文末詞

(何のために)

B04: น้ำยาล้างคอนแทค เอาไว้เช็ดดูมึงมั่งไอ้สัตว์ นี่มึงเิงจริงหรือเปล่า หรือมึงแก้งเิงอะ

液体 洗浄 コンタクト 用 拭く お尻 お前 かもしれない 動物野郎 これ お 前 愚か 本当に
確認疑問詞 それとも ふりにする 愚か 文末詞

(コンタクトレンズの洗浄液ってお前の尻を拭くのかよ！動物野郎！本当に頭が悪いか、頭
が悪いふりにするのかい？)

(プロ)

例(7) は不満の程度が「強」の場面、例(8) は「弱」の場面であり不満の程度が異なる二つの場面であるが、どちらの場面でも多様な戦略(下線部)が使用されている。注目していただきたいのは、タイ語の場合には「強」の場面だけでなく、「弱」の場面でも、多様な戦略が用いられ、特に「ไอ้สัตว์(動物野郎)」や「ไอ้เหี้ย(トカゲ野郎)」のような罵りが多いことがわかる。タイ語の「ไอ้สัตว์(動物野郎)」や「ไอ้เหี้ย(トカゲ野郎)」は、喧嘩を誘発しそうなひどい言葉にみえるが、例(7) の場合は相手の感情を傷つけようとするよりも、仲間意識を表す積極的なポライトネス(Positive Politeness)となっている。

以上のように不満の強い場面と弱い場面の日本語とタイ語の違いを例示したが、場面内容や状況が異なれば様々な不満表明が見られると考えられる。不満表明の戦略について全体の傾向、「強」の場面、「弱」の場面の順に、日本語とタイ語を対照して考察していく。

2.2 本論文の研究目的

「不満表明」は、人間関係に摩擦を生じやすい行為であるため、摩擦を軽減させるために様々な戦略が用いられる。しかし、どのような戦略をもちいて軽減するのかは文化や言語によって違いがあると考えられる。先行研究では、どのような戦略が存在するかについては分析されているが、国や地域それぞれにおける「不満表明」の言語行動を対照分析の試みは少なく、言語間の違いについては十分に考察されていない。特に、不満表明に関するタイ語と日本語の対照研究は管見の限り見当たらない。

本稿は先行研究で紹介したソムチャナキット(2010)を発展させたものである。ソムチャナキット(2010)では、日本語とタイ語の不満表明戦略の分析枠組みを整備し、全体の使用傾向の違いを考察したが、場面との関係や人物間の上下関係、親疎関係がどのように不満表現に影響を及ぼすのかという点については分析できなかった。本稿では、強い不満表明の場面と弱い場面を取り出し、1)~4)に注目して分析し、日本語とタイ語の不満表明を対照し考察する。

- 1) 不満表明の発話に用いられた戦略だけを独立して分析するのではなく、不満表明が行われている場面において、不満の程度の「強」「弱」の違いがどのように戦略の選択に影響するのかを見る。
- 2) 話し手と聞き手の上下関係、親疎関係がどのように戦略の選択に影響するかを見る。
- 3) 1)2)について、日本語とタイ語の不満表明にどのような違いがあるかを対照する。
- 4) 同じ戦略であっても、使用される言語形式等に日本語とタイ語において違いがあるかどうかを対照する。

2.3 データ収集法と分析の手順

2.3.1 データ

本稿で使用するのは、ソムチャナキット(2010)と同じデータである。ソムチャナキット(2010)では、映画の中から、不満表明の発話を前後の発話を含めて場面ごとに取り出し、文字化したデータを分析の対象とした。研究対象とする映画は、内容や登場人物の性格・性質が極端なものにならないように配慮し、ギャング映画や喧嘩、戦争を背景とした映画は扱わず、様々な年代、性別、職業の人物が登場する映画を選択した。映画の数は、日本語の映画は全 12 本 24 時間 45 分、タイ語の映画は全 12 本 21 時間 1 分である。

従来の「不満表明」に関する研究では、談話完成テスト(Discourse Completion Test:DCT)や小説を用いてデータを収集した研究が多い。DCT は大量のデータが扱えるという点が優れているが、双方向のコミュニケーションである自然会話とは大きく異なっている。小説の場合は話し言葉としての特徴が観察できないという難点がある。そのため、ソムチャナキット(2010)では、(表 9)の映画

を用いてデータを収集し、分析を行った。映画はフィクションではあるものの、現実の世界を反映したものであり、脚本家が映画の背景にあるその国の文化に基づいて制作したものであるため、談話完成テストや小説に比べより現実に近い言語行動が観察できると考える。

尚、使用する日本語のデータは2004年～2008年の映画、タイ語のデータは1998年～2009年の映画である。

(表 9) 本語とタイ語の映画データ一覧

日本語映像資料	タイ語映像資料
1. 『イキガミ』(2008)	1. กอด(2008)
2. 『一リットルの涙』(2005)	2. เขาชนไก่(2006)
3. 『おくりびと』(2008)	3. จดหมายรัก(2004)
4. 『さよなら、クロ:世界一幸せな犬の物語』(2003)	4. เลื่อม(2005)
5. 『砂時計』(2008)	5. ปิดเทอมใหญ่หัวใจว้าวุ่น(2008)
6. 『世界の中心で、愛をさけぶ』(2004)	6. ฝัน-หวาน-อาย-จูบ(2008)
7. 『手紙』(2006)	7. รักสามเศียร(2008)
8. 『東京タワー』(2007)	8. หนึ่งคิดถึงเป็นอย่างยิ่ง(2009)
9. 『NANA』(2005)	9. A Moment in June ฝนขณะรัก(2009)
10. 『NANA2』(2006)	10. Happybirthday(2008)
11. 『涙そうそう』(2006)	11. O-negative รักออกแบบไม่ได้(1998)
12. 『ハチミツとクローバー』(2006)	12. SeasonsChangeเพราะอากาศเปลี่ยนแปลงบ่อย(2006)

2.3.2 分析手順

既に述べたように、場面の性質や人物間の上下関係や親疎関係がどのように不満表現に影響を及ぼすのかを明らかにするためには、ストラテジーや発話の単位ではなく、その状況全体と不満の発話の前後を見る必要があるため、本稿では不満表明の場面全体を取り出して考察する。分析の手順は以下の通りである。

- (1) (ソムチャナキット、2010)の不満表明の定義に従って場面の内容、登場人物の言及した内容や音調から「不満表明」であるかを判断し、不満表明の場面を抽出する。「不満表明」は、話し手(s)が、聞き手(H)の引き起こした好ましくない状況、発話、行動を指摘する発話行為である(ソムチャナキット、2010)。」
- (2) 不満表明の発話だけでなく、不満表明の場面の会話全体をひとまとまりの談話として映像資料から抽出し、日本語とタイ語に文字化する。タイ語については、逐語訳と翻訳をつける。

- (3) 日本語とタイ語の文字化資料を各 2 名の母語話者に見せ、話し手の不満の度合いの強さによって「強」「中」「弱」の 3 つの不満の程度に分類する。タイ語母語話者の一名は筆者である。本稿では「強」の場面と「弱」の場面との比較を中心に分析し、「中」の場面は扱わない。
- (4) 日本語とタイ語のデータを話し手と聞き手の親疎関係と上下関係によって分類し、それぞれにおいて不満表明のストラテジーの使用数を調べる。
- (5) 日本語とタイ語の不満表明を対照する。

ストラテジーの分析枠組みとして、ソムチャナキット(2010)の分類を用いる。第三章で詳しく紹介する。

第3章 ソムチャナキット(2010)における戦略の分類

日本語とタイ語を対照した「不満表明」の研究は、管見の限りではソムチャナキット(2010)しかない。本稿は、ソムチャナキット(2010)を基礎として発展させた論文であり、同じ戦略分類を分析枠組みとして使用する。本章では、ソムチャナキット(2010)の研究内容を詳しく紹介し、本稿で用いる戦略分析の枠組みについて説明する。

3.1 ソムチャナキット(2010)の研究目的

ソムチャナキット(2010)の目的は、日本語とタイ語の「不満表明」を分析対象として、以下の二点を明らかにすることであった。

- 1) 日タイの「不満表明」を分析する基礎となる戦略の分類枠組みを確定すること
- 2) 日タイ両言語間にどのような相違点・共通点があるのかの全体的な傾向を示すこと

ソムチャナキット(2010)では、映画の中で不満表明が行われている場面の会話をとりだし、文字化したものを分析対象とし、先行研究における不満表明の言語戦略の分類と照合し、戦略の分類枠組みを完成した。日本語とタイ語の全データについて、どのような不満表明戦略が出現しているかを分析した。

3.2 「不満表明」の定義

第1章で述べたように、不満表明の定義は研究者によって多少異なっているが、ソムチャナキット(2010)では、初鹿野他(2006)と李(2004、2006)の定義に倣い「不満表明」を「話し手(S)が、聞き手(H)の引き起こした好ましくない状況、発話、行動を指摘する発話行為」と定義した。

3.3 分析対象と分析方法

ソムチャナキット(2010)の分析対象となるデータは、本稿と同じ日本語の映画(全12本 24時間45分)とタイ語の映画(全12本 21時間1分)である。分析方法は、以下の通りである。

- (1) 不満表明の場面の選定
- (2) 文字化
- (3) 不満表明の発話の特定
- (4) データに現れた戦略と先行研究の戦略の分類と対照し、日本語とタイ語の例文を記載した不満表明戦略の分類の完成
- (5) 日本語とタイ語のデータに現れた戦略を分析し、各戦略の使用頻度を比較。

データから取り出した不満表明の発話は、以下のような方法で各ストラテジーに分けた。以下に例を挙げる。Eea,Eec 等の記号は、後述するストラテジーの分類記号である。

例) ว่าไหนนะ ลามก
言う どのように 文末詞 スケベ
何だと、スケベ!
①Eea ②Eec

*Eea = 修辭的疑問

Eec = 否定的な言葉

**①②の番号は、その発話中に出現した順番である。

上記の例では、「何だと、スケベ」は2つのストラテジーと数え、①「Eea 修辭的疑問」と、②「Eec 否定的な言葉」の二つとする。ソムチャナキット(2010)では、発話全体の構造やパターンは考察していない。

3.4 「不満表明」の言語ストラテジー

(表 10)は、ソムチャナキット(2010)において作成した不満表明ストラテジーの分類である。(表 10)に示されるように、「不満表明」の言語ストラテジーは、まず、第一段階として好ましくないことに対して不満を表明するかどうかで分かれる。次に、不満表明を言語化するか非言語行動のみで伝えるかに分かれる。

本稿の目的は、タイ語と日本語の両言語において不満表明の際にどのようなストラテジーが現われるのかを考察することであるため、A. 不満表明しない(Not Doing Complaint)場合とC. 非言語行動(Non Verbal)は、分析の対象外として扱わず、B) 不満を表明するの中の D. 言語行動(Verbal)のみに焦点を当てて、分析を行っている。

言語行動が行われるときにも、表情や音調、応答の遅滞や沈黙等の言語以外の要素が現れるが、今回は分析対象としていない。

表(10)「不満表明」の言語ストラテジー (ソムチャナキット,2010)

「不満」の言語行動 (Complaint Speech Acts)

A.不満を表明しない (Not Doing complaint)

B.不満を表明する (Doing Complaint)

- C. 非言語行動 (Non-verbal)
- D. 言語行動 (Verbal)

(Explicit Complaint)

E. 明示的不満表明

Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)

Eb. 改善要求 (Demand for improvement)

Ec. 代償要求 (Asking for Compensation)

Ed. 警告・脅かし (Warning and Threatening)

Ee. 非難

(Using Reprimand and Insult)

Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)

Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)

Eec) 否定的な意味 (Using Negative Words)

Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies)

Eec2) 否定的な意味を持つ言葉

(Using Word with Negative Meaning)

Eec3) 罵り・禁忌 (Using Swear Word)

(Implicit Complaint)

F. 非明示的不満表明

Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)

Fg. 比喩 (Using Metaphor)

Fh. 婉曲的な表現 (Using Euphemism)

Fi. 相手を特定せずに一般化する (Using Ambiguous Insults)

Fj. 他のものに不満を持つふりをする

(Attacking others related to the target)

3.5 分析結果(1) 不満表明ストラテジーの分類結果

3.5.1 明示的な不満表明と非明示的な不満表明

不満表明ストラテジーには、E) 明示的な不満表明と F) 非明示的な不満表明がある。まず、E) 明示的な不満表明、F) 非明示的な不満表明とは何かについて以下にまとめておく。

3.5.1.1 E) 明示的な不満表明

明示的な不満表明とは、非明示的なものとは異なり、その発話の中に何らかの形で好ましくない状況を引き起こしたことを指摘する言葉や意味があるものを指す。このストラテジーに用いられる言語形式は、命令形式だけでなく、言語ストラテジーによって様々である。ソムチャナキット(2010)では、明示的な不満表明の分類は以下の通りである。

Ea)理由・説明要求

Eb)改善要求

Ec)代償要求

Ed)警告・脅かし

Ee)非難

Eea)修辭的非難

Eeb)主張表現

Eec) 否定的な言葉

(1) Supporting Strategies

(2) 否定的な意味を持つ言葉

(3) 罵り

2.5.1.2 F) 非明示的な不満表明

非明示的な不満表明とは、明示的なものとは逆に、その発話の中に直接的に好ましくない状況を引き起こしたことを指摘する言葉や意味がないものを指す。タイ語における「不満表明」の先行研究である Sukwisith (2004)は、不満表明ではなく「非難」という用語を用いているが、タイ語における間接的⁸非難表明ストラテジーを次のように下位分類している。

Ff) 皮肉 (Using Verbal Irony)

Fg) 隠喩 (Using Metaphor)

Fh) 婉曲的な表現 (Euphemism)

Fi) 相手を特定せずに侮辱する (Using Ambiguous Insults)

Fj) 他のものに不満を向ける (Attacking others related to the target)

⁸ 間接的な言語行動というのは、Sukwisith(2004)の定義では、「1. 曖昧な言葉を用いて聞き手が文脈を解析することにより非難されることが分かる。2. 誰を非難しているかをはっきりとせず、聞き手が文脈を解析することにより非難されることが分かる」とされている。

以上の非難表明言語ストラテジーの下位分類は、タイ語のデータで見られたストラテジーであるため、ソムチャナキット(2010)における分析では殆ど日本語には見られなかった。また、タイ語のデータを分析した結果、Sukwisith (2004)で「Ff) 皮肉」に分類されていた発話は、「冗談を言う」と名付けた方がより適切であると思われる発話が多かったため、ソムチャナキットは非明示的不満表明言語ストラテジー分類に「冗談を言う」を新たに追加し、「Ff) 皮肉」を「Ff) 皮肉・冗談」と呼ぶこととする。

ソムチャナキット(2010)の明示的な不満表明と非明示的な不満表明の分類をまとめると以下の通りとなる。全てのストラテジーには、データに現れた用例をつけた。

タイ語(TH)と日本語(JP)の例文は特に断りのない限り、全てデータに現れたものである。タイ語には語釈と括弧内に日本語訳をつけた。話し手とは、不満を表明している側であり、不満の原因となっている側を聞き手、相手と呼ぶ。

(表 11) ソムチャナキット(2010)の不満表明ストラテジー

E) 明示的不満表明	
Ea) 理由・説明要求	
相手の行動や結果が好ましくないため、その原因や理由を問うものである。質問・命令の形式が多い。	
TH-9	เมื่อคืนไปไหนทำไมไม่มารับ 昨夜 行く どこ 何故 ~ない 来る 迎える (昨夜どこに行ったの? <u>何で迎えに来なかったの?</u>)
TH-10	ต้นมาที่นี่ทำไมอะหิะ น้าโยพาดันมาทำไมคะ トン(名前) 来る ここ なぜ 文末詞 ヨー伯父さん 連れる (名前) 来る なぜ 女性の文末詞 (トン、どうしてここまで来てるの? <u>ヨー伯父さん、なぜトンを連れて来たんですか?</u>)
JP-11	「おい 理由は <u>何だ?</u> 」
JP-12	「 <u>何で</u> 俺に言わなかった」
Eb) 改善要求	
季(2004)は、改善要求とは「相手に不満の状況を変える行為を行うよう要求する」ことであるとしている。また、同じ行動を引き起こさないよう自制を要求する、相手の行動を制約するという意味で、相手に対する「働きかけ」の度合いが強いものであるとも記述している。更に、改善要求について研究している牧原(2008)で指摘されているように命令や依頼の形式が改善要求スト	

ラテジーには多く用いられる。

TH-13 ตอง เหมามากแล้ว ไปนอนไป

トーン(名前) 酔う 大変 した 行く 寝る 行く
(トーン、すごく酔っ払ってるよ。寝ろ!)

TH-14 อย่าเปลี่ยนเรื่องขวาน

～しないで 変更 話 クワーン(人名)
(クワーン、話を逸らさないで)

JP-15 「だから俺に嘘言うな!」

JP-16 「ハチって… もっとかわいい名前つけてよ」

JP-17 「携帯もマナモードにしときなさい」

Ec) 代償要求

代償要求は、話し手が相手に代償を求める目的で発話される発話行為である。

TH-18 วันนี้เลี้ยงข้าวด้วย

今日 おごる 食事 依頼形
(今日はおごりだね)

JP-19 今日はおごりだね

Ed) 警告・脅かし

Ed) 警告・脅かしという分類は、今度その好ましくないことを引き起こさないように、話し手が聞き手に警告したり脅かしたりして聞き手の行動を強いる言語行為である。

TH-20 ถ้าย้ายไปอีก นวลจะไม่นั่งรถพี่อีกแล้ว พี่ก็จรวบ

もし 消える 行くまた ヌアン(人名)未来形 ~ない 乗る 車 あなた もう 怠ける 待つ

(今度また来なかったら、もう二度とあなたのタクシーに乗らないわ! 待ちたくない)

TH-21 เดี่ยวมึงโดน

後すぐ お前 打撃する
(やってやる)

TH-22 เชน ถ้ำไปอะ เมาเล็กกัน

シェーン(人名) もし 行く 文末詞 私たち 別れる ~し合う
(シェーン、行くんだったら私達終わりよ！)

Ee)非難

非難の言語分類は、聞き手の面子を刺激する度合い(FTA: Face Threatening Acts) の高いもので、聞き手の悪い点・弱点を明示的に責める発話である。形式的に明示的なものではなくても、意味の面から考えると、聞き手への感情的な叱責が強く感じられるものである。ソムチャナキット(2010)では、非難を更に a) 主張表現、b) 修辭的疑問、c) 否定的な意味を持つ言葉の3つに分けた。

Eea)修辭的非難

疑問的非難とは、応答を求めない疑問文を用いて非難を表出することである。疑問的非難では、よく疑問詞の「何」「誰」「どこ」などが使われる。

TH-23 นี่ผมฟู แล้วจะร้องไห้หาอะไรเนี่ย

こら ションプー(人名) そして 未来形 泣く 何のため 強調する
(ねえ、ションプー、一体何で泣いているのよ)

TH-24 ทำไมน้ำ ทำไมน้ำ

何で おじさん 何で おじさん
(何だよ！何でなんだよ！)

TH-25 มาแล้วหรืออาจารย์ ทำไมมาช้าจังเลย

来る 完了形 疑問詞 先生 何故 来る 遅い 感嘆詞 文末詞
(来たの？先生、一体どうしてこんなに遅くなったのよ)

JP-26 「何だよ 急に」

JP-27 「何だよ さっきから 川野君 川野君って」

JP-28 「こんな成績じゃ あなた国会議員の息子なのよ

恥ずかしいと思わないの」

「トラネスのタクミが女と住んでんだろ！」

Eeb)主張表現

話し手は、肯定文や否定文を用いて聞き手が引き起こした好ましくないことに関する情報を直接的・間接的に聞き手に情報を伝える言語ストラテジーである。

- TH-29 นี่มันวันเกิดแฉฉฉฉฉ
 これ 誕生日 アーン(人名) 文末詞
 (今日はあたしの誕生日だよ！)
- TH-30 เฮีย บอรัถถถถถ
 おい 掲示板 俺 文末詞 文末詞
 (おい、俺の掲示板だぞ！)
- TH-31 เฮีย ไฉ่เป็ด กูรู้นะมึงคิดจะทำอะไรอยู่อะ
 おい ~野郎 ペッド(人名) 俺 知っている 文末詞 お前 思う する 何 ~ている 文末詞
 (おい、ペッドめ、お前が何を企んでいるのか分かってるんだぞ！！！！)
- JP-32 「そんなじゃないもん！」
- JP-33 「5分も過ぎてんだぞ 5分も！」
- JP-34 「お母さんを… お母さんを殺したの お父さんじゃん」

Eec) 否定的な言葉

初鹿野他(1996)は、不満感情表出⁹⁾は慣用表現になっているものであると述べている。タイ語と日本語の両言語では、否定的な意味を持つ言葉を指す。否定的な意味を持つ言葉とは、その言葉自体が否定的な意味を持っている言葉で、その社会に所属している人々が否定的な意味で解釈する言葉を指す。また、ソムチャナキット(2010)においては、それぞれの社会での禁句言葉とされている「タブー語」も、この分類に含めることとしている。

否定的な言葉は、1)Supporting Strategies、2)否定的な意味を持つ言葉、3)罵りの3つに下位分類が出来る。

1)Supporting Strategies

Supporting Strategies とは、名前・間投詞・名詞・助動詞などの単語を付け加えることによって、聞き手の欠点を表すためのものではなく、聞き手の欠点に対して自分の感情や不満を表すことができる表現の分類である。

- TH-35 ไฉ่สัตว์อาร์ท มึงรับผิดชอบหน่อยดิอะ
 野郎 アート(人名) お前 責任がある ちょっと ~なさい
 (アート動物野郎、いい加減にしなさいよ)

⁹⁾ 初鹿野他(1996)で取り挙げている例は、「まったく」「もう」「いい加減にしろ」等。

- JP-36 「おい ヤス なんとかしろよ」
 JP-37 「何だよ 続けろよ ほら やれって
 …たくっ 何がお笑いコンビだよ 心気くせえツラしてよ」
 JP-38 「こら りっちゃん 走っちゃダメでしょう」

(2) 否定的な意味を持つ言葉

否定的な意味を持つ言葉とは、所属している社会によってその行為が不正確、不適切や不善であることを指摘するための言葉である。人間は、物事に対して「良」か「不良」かを評価している。「良」と「不良」は対をなしていると考えられるため、否定的な意味を持つ言葉とは、肯定的な意味、つまり良い意味を持つ言葉の反対の言葉を指す。

- TH-39 ฉันไม่กินหรอก เงินสกปรก
 俺 ない 食べる よ お金 汚い
 (俺食べないよ。汚いお金だからね)

- TH-40 ไอ้บ้า หน้าไม่อาย มายืนฉี่ตรงนี้ได้ไงเนี่ย อี้
 馬鹿野郎 恥知らずの 来る 立つ 小便する ここ どう これ いや
 (馬鹿野郎、恥知らずの男だね、ここで立って小便するなんて、いやだ)

- JP-41 「何だよ 続けろよ ほら やれって
 …たくっ 何がお笑いコンビだよ 辛気くせえツラしてよ」
 「うっさいねえ あんたに関係ないでしょ

(3) 罵り

罵り言葉は、その社会で禁止される言葉や未洗練な言葉やフォーマルな場面で言うべきではない言葉である。Crystal(1987)を参照して論述した宮本(2009)は、罵り言葉は宗教的な場面や法律的な場面、その他のフォーマルな場面において見られる、複雑で洗練された言語表現の正反対に位置するものとして、憎悪、敵意、欲求不満、驚き、といった感情を表現するタブーとされる言葉であると述べている。罵りは、相手の面子を刺激する度合いが最も高いと考えられる。

- TH-42 มองเหี้ยไร ไอ้หน้าลิง
 見る トカゲ 何 猿顔野郎
 (何を見てんだよ？サル顔野郎)

- TH-43 ไอ้ห่า
 奴 コレラ
 (コレラ野郎！)

JP-44 「この野郎！」

F) 非明示的不満表明

Ff) 皮肉(Using Verbal Irony)・冗談 (Joke)

不満表明の機能を持った「冗談を言う」という言語ストラテジーは、ソムチャナキット(2010)で集められた日本語の用例には見られなかったが、タイ語の用例では頻繁に観察された。冗談の形をとりながらも、皮肉の意味を持たせる場合である。

Sukwisith (2004) における皮肉の定義は下記の通りである。

- (1) 誠実の反対の言葉
- (2) ありえないことを表す言葉
- (3) 大袈裟な表現
- (4) 聞き手には適切ではない丁寧さを用いた表現
- (5) 特に声調を上げる。

TH-45 ไม่มาพรุ่งนี้เลยละ
否定形 来る 明日 全然 文末詞
(明日来てもいいよ)

TH-46 โห้ย โคตรแมนเลยว่ะ
あら 非常に 男前 確かに 文末詞
(すっごく男前ね)

JP-47 「何だよ 続けるよ ほら やれって
…たくっ 何がお笑いコンビだよ 辛気くせえツラしてよ

Fg) 隠喩(Using Metaphor)

Sukwisith (2004) は、「非難する人の発話を強調して隠喩ストラテジーを用いることにより、非難される人に罪悪感を覚えさせたり、代表的なものとの違いを感じさせたりし、もっと効果的に相手の面子を脅かすことができる(p.76) (筆者翻訳)」と述べている。ソムチャナキットの集めた映像資料のデータには見られなかったため、Sukwisith (2004)で取り上げた事例を参考にす

TH-48 คนหนึ่งก็เป็นนักศึกษามหาวิทยาลัย อีกคนก็เป็นถึงลูกเจ้าเมือง พอทะเลาะกันแล้วยังกับแม่ค้า
あるひと も である 大学生 さらに 人 も である ほど 子供 首長
~すると 喧嘩し合う と ~のように 女の商人
(一方は大学生で、一方は首長の娘なのに、女の商人のように喧嘩するなんて。)

Fh) 婉曲的な表現(Using Euphemism)

Sukwisith(2004)は Stern(1968)と Allan and Burridge(1991)の定義に従い、婉曲的な表現とは「話者が話者自身、聞き手、会話の参加者の面子を保つために、タブーとされている言葉の不快感を抑えたり、避けたり、隠したりする言葉である (p.85) (筆者翻訳)」と記述している。婉曲的な表現(Using Euphemism)は、隠喩(Using Metaphor)とは違って、「XはYのようにZ」ではなく、ある言葉をより綺麗な言葉に言い換えることである。

Sukwisith(2004)は、婉曲的な表現を文のレベルではなくて、語句のレベルで論じている。例えば、タイ人は「肉体を売る」という表現は強いと考えているため、「肉体」を使わずに、「小さな田んぼ」というように婉曲的な表現を使う。日本語の場合も同様に、「肉体を売る」の婉曲的な表現として「春をひさぐ」という表現がある。

TH-49 พวกหล่อนนะทำงานบ้านเป็นหรือ บางคนนะหุงข้าวยังไม่เป็นเลย เคยแต่ขายที่นาแปลงเล็ก

あなた達 文末詞 家事をする できる ~か? ある人 文末詞 ご飯を炊く まだ 出来ない 全然 したことがある だけ 売る 田んぼ 小さいの

(あなたたちに家事がこなせるんですか? ご飯を炊くことすら出来ない人もいるから。小さな田んぼを売る経験があっただけでね。(肉体を売るという意味))

Fi) 相手を特定せずに一般化する。(Using Ambiguous Insults)

Sukwisith(2004)は、「相手を特定せずに侮辱することは、ただ聞き手一人を対象として非難するだけではなく、幅広い意味の言葉の選択を考えて、多くの人を対象にして表出することである」と説明している。また、「非難される対象者は、自分と話し手との背景を考えたり、その文脈を分析したりすることにより、自分が対象者であるかどうかを話し手の発話意図から理解することができる (p.87) (筆者翻訳)」と記述している。

TH-50 คนปากหมามันชอบเอาเรื่องของคนอื่นไปเที่ยวเล่าให้ใครๆ ฟัง

人 口 犬 代名詞 好き 取る 話し ~の 他人 行く 回す 語る あげる 人々 聞く

(口の悪い人は他人のことをほかの人に教えるのが好きですね。)

Fj) 他のものに不満を持つふりをする。(Attacking others related to the target)

Sukwisith (2004) の定義では、この戦略はあることに対して不満を表明するふりをする一方で、本音は聞き手を非難したいという意図を持っていると述べられている。この戦略は、上述した「Fi) 相手を特定せずに一般化する」戦略と類似しているが、この戦略の場合には、特定の人称代名詞や名前を使うことがある。つまり、不満を表明するターゲットを変えることである。ターゲットが変わっても、「Fi) 相手を特定せずに一般化する」戦略と同様、文全体の意味を解釈した場合に、聞き手が自分を非難していることが分かる表現である。

TH-51 “แหมm ใจต่าง มึงนี่ะวัน ๆ เอาแต่นอน ไม่ได้ทำอะไรให้มันเกิดประโยชน์เลยจริง ๆ ดูซิกูดูตส่าห้เสียข้าวสุกเลี้ยง มึงนะ เคยคิดทำอะไรให้กูบ้าง”

感動詞 ワンちゃん お前 これ 文末詞 日々 ~ばかりしている 寝る していない する 何させる 代名詞 役に立つ 全然 本当に 見る ~なさい 俺 せっかく 費やす 白ご飯 飼う 育つ お前 文末詞 したことがある 考える する 何 あげる 俺 助動詞

(ワンちゃんよ、ずっと寝ているね。何の役にも立たないね。餌をやってあげたのに、私に何かやってあげようとは思わないのかなあ？何かしてくれないの？)

Sukwisith (2004) p. 90

G) その他

「~のに」・「~くせに」の助動詞で終わる日本語の表現である。「~のに」・「~くせに」が用いられた文脈を見ることによって話し手が聞き手に何を伝達しようとしたのかを判断できるが、「~のに」・「~くせに」の言語形式だけでは言い挿し文となっているため、不満表明が明示的か非明示的かを容易に判断することができない。そのため、ソムチャナキット(2010)では、日本語の「~のに」・「~くせ」を用いた表現は今後の課題としている。

TH-52 ไส่ย เป็นเพื่อนกันก็ดีอยู่แล้ว

感嘆詞 である 友達 ~し合う も 良い 進行形 完了形
(ほら、友達同士だったら良いのに~)

TH-53 นี่ถ้าเธอรู้จักหนักแน่นมากกว่านี้ละ มั่นใจในตัวเอง เธอก็คงไม่ต้องพาเราไปดูตัวที่บ้านเธอตามที่พ่อของเธอสั่งหรือ

実は もし あなた 知る 安定する これよりも 文末詞 自分自身を持つ あなた も 恐らくしなくても良い 連れる 僕 行く お見合い で あなたの家 の通り あなたのお父さん 指示する 文末詞

(もしあなたがもっと安定したら、お父さんの指示通りにあなたの家までお見合いに

行かなくても良かったらう)

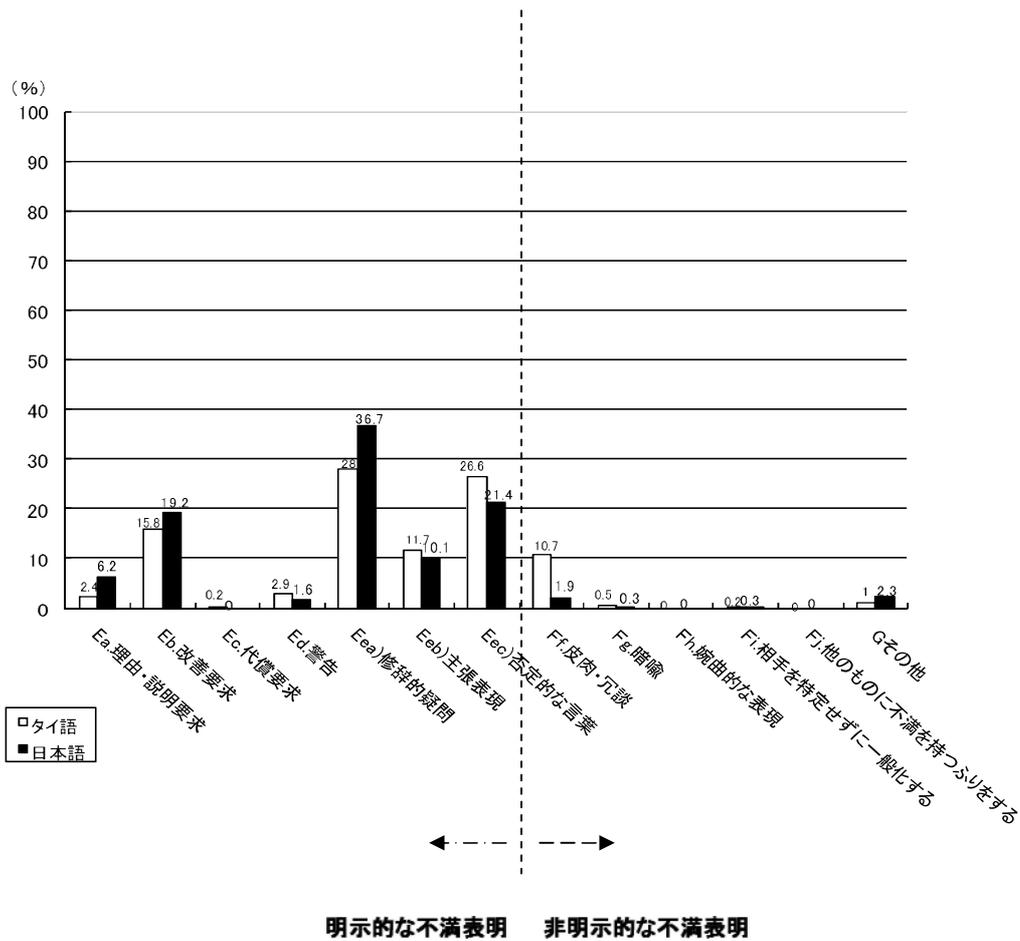
JP-54 「うっそお ずーと思ってたくせに」

JP-55 「えー またバイト? せっかく 東京出てきたのに」

3.6 分析結果(2) 日本語とタイ語の不満表明におけるストラテジーの使用傾向

ソムチャナキット(2010)では、日本語とタイ語の映画のデータを用いて、両言語の「不満表明」において、どのようなストラテジー・表現が、どのような頻度で用いられるのかを調査し、考察した。考察の結果は、以下の図3の通りである。

(図3) 両言語における不満表明言語分類の出現比率



不満表明は「明示的な不満表明」と「非明示的な不満表明」の2つに大別される。図3が示している通り、全体的な傾向としては、両言語とも、明示的な不満表明の出現比率が、非明示的な不満表明よりも高いということが分かる。両言語において、出現比率の高い分類の第1位から第4位までは共通していた。両言語において最も出現比率の高い不満表明の言語戦略は、「Eea) 修辭的疑問」であったが、「Eea) 修辭的疑問」の出現率はタイ語では28%なのに対して、日本語では36.7%となっていて、両言語において差が見られた。このことから、タイ語よりも日本語の方が、「Eea) 修辭的疑問」を好んで使用するということが明らかになった。また、「Ff.皮肉・冗談」の出現率は、タイ語では10.7%に対して、日本語では1.9%で、大差があることがわかる。

次に、占めている割合の高い非難表明の言語戦略の種類に注目し考察していきたい。ソムチャナキット(2010)では、「Ee) 非難」を「Eea) 修辭的疑問、Eeb) 主張表現、Eec) 否定的な言葉」の3つに下位分類しているが、Ee) 非難に注目して、出現頻度を分析すると、以下の(表12)のようにまとめられる。

(表12) 非難分類の出現割合

Ee)非難の分類	タイ語		日本語	
	合計		合計	
	数	%	数	%
a) 修辭的疑問	115	45.6	113	54.3
b) 主張表現	48	19.1	31	14.9
c) 否定的な言葉	89	35.3	64	30.8
合計	252	100.0	208	100.0

(表12)に示された通り、非難の言語戦略の下位分類の中で、最も出現比率の高いのは、「Eea) 修辭的疑問」であることが両言語間に共通していることが分かる。一方で、タイ語のEea) 修辭的疑問の出現割合が45.6%であるのに対して、日本語では54.3%であり、他の非難分類と比べて差があることがわかる。

また、日本語とタイ語において、非難の言語戦略の下位分類の出現割合は、2番目に高いのがEec) 否定的な言葉(タイ語が35.3%、日本語が30.8%)、3番目がEeb)主張表現(タイ語が17.6%、日本語が14.8%)であり、両言語で共通していた。

3.7 まとめ

ソムチャナキット(2010)では、日本語とタイ語の「不満表明」の言語行動において、どのようなストラテジーや表現が、どのような頻度で使用されているのかを調査した結果、以下の5点が明らかになった。

- 1) 両言語において、明示的不満表明の言語ストラテジーの出現比率が、明示的な不満表明の言語ストラテジーよりも高い。
- 2) 両言語において、出現比率の高い不満表明のストラテジーの第1位～第4位までが共通している。(①修辭的疑問、②否定的な言葉、③改善要求、④主張表現)
- 3) ストラテジー全体の中で占めている割合が高い「Ee)非難」のストラテジーを3つに下位分類して考察を行った結果、日本語とタイ語の出現比率の高い順番が共通している。(①修辭的疑問、②否定的な言葉、③主張表現)
- 4) 「Eec)否定的な言葉」の中で「罵り・卑罵語」は、日本語よりもタイ語の方が豊富であることが明らかになった。具体的には、タイ語の場合「格言」や「ことわざ」の使用が見られたのに対して、日本語にはその表現が見られず、タイ語では身体部位(足= ตีน、口= ปาก)、精神的な異常を指す言葉(愚かな = โง่、間違い = ผิด)、動物の語彙(犬 = หมาก、トカゲ = คางคก)の使用が見られたのに対して、日本語には見られなかった。
- 5) 非明示的な不満表明の言語ストラテジー「Ff)皮肉・冗談」の出現比率はタイ語 10.7%に対して、日本語が 1.9%であり、他の非明示的な不満表明の言語ストラテジーと比べ、両言語において大きな差が見られた。

3.8 各ストラテジーの詳細

以上がソムチャナキット(2010)の不満表明ストラテジーの分類枠組みの概略であるが、説明が不十分であるので、各ストラテジーの詳細および先行研究との関係について以下に順に説明する。

3.8.1 E) 明示的不満表明 (Explicit Complaint)

Ea)理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)

Ea)理由・説明要求は、「相手の行動や結果が好ましくないため、その原因や理由を問うものである。」質問形式が殆どである。不満表明の場面に出現する疑問文は、全てEa)理由・説明要求になる訳ではなく、Eea)修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)になる場合もある。本稿では、その疑問文に対しての答えが求められているかを文脈から判断し、例(56)のように、答えが求められている場合はEa)理由・説明要求、例(57)のように、求められていない場合はEea)修辭的疑問であるとする。

例(56)-JP 女性Aは、片思いしている男性Bを見て逃げ出した。BはAに話があるため、逃げるAの後を追った。Aは驚いて一生懸命に走ったが、疲れて走れなくなりBに対して不満を表明する。

A「何で追いかけるのよ」

例(57)-JP 男子高生のAとBは、よく喧嘩をする。ある日、いつもと同じように喧嘩をして、怪我をしたため、保健室に連れて行かれた。手当てを受けた後、男性の指導教員が来て、その二人に対して不満を表明する。

教員「お前たち またか おい 理由は何だ?」

『さよなら』

例(56)の場合、不満を表明した後に続く発話を見なければ Ea)理由・説明要求であるか Eea)修辭的疑問であるかを判断しにくい。例(57)は、「理由は何だ?」のように理由を求めていることを明確に示しているため、Ea)理由・説明要求であると考えられる。

例(58)-TH 3カ月後にはオケストラコンテストがあるため会員の全員が一生懸命練習している。が、A(男性)は、恋愛の問題がありバンドの練習を欠席した。数日経って戻ってきた時ある友達のB(男性)はAに対して不満を表明した。

ໄປໂປມ ໄປໂທນມາວະ

奴 ポム(人名) 行く どこ 来る 文末詞

(ポムめ、どこに行ってきたかい?)

(プロ)

Eb)改善要求 (Demand for improvement)

季(2004)は、改善要求とは「相手に不満の状況を変える行為を行うよう要求すること、あるいは同じ行動を引き起こさないよう自制を要求することであり、相手の行動を制約するという意味で、相手に対する「働きかけ」の度合いが強いものである」と記述している。牧原(2008)は、命令や依頼の形式が改善要求ストラテジーには多く用いられると指摘している。

牧原(2008)の改善要求のストラテジーは(表13)で示されたように広義であり、ソムチャナキット(2010)の分類とは異なっている。

(表 13) 牧原(2008)による日本語における改善要求のストラテジー

改善要求の言語ストラテジー	
A :	<p>基本的な《改善要求》</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 自分の不利益を告知する (1) (うるさくて)聞こえないよ。 ② 不利益をもたらしている相手の行為を指摘する (2) うるさいよ。 ③ 期待される望ましい事態を反実仮想として告知する (3) もう少し静かにしてくれとうれしいんだけど。 ④ 不利益によって引き起こされた不満の感情を表明する。 (4) あー、イライラする。 ⑤ 行為の改善を要求する。 (5) 静かにして。
B :	<p>《改善要求》が人間関係を損なう危険性を緩和するための配慮表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 疑問文にして問いかける。 (6) うるさくない？ ② 自らの不利益を遠まわしに告知する。 (7) すみません。話がよく聞こえないんですけど。 ③ 不利益をもたらした相手の行為を遠回しに指摘する。 (8) あのう、ちょっと話し声が… ④ 程度を下げる副詞を添えたりなどする。 (9) ちょっとうるさいんですけど。 ⑤ 状況提示による間接的な行為要求を行う。 (10) 図書館内は、基本的に私語は禁止だと思うんですが… ⑥ 副詞節を用いるなどして、改善要求の実行を躊躇していることを示す。 (11) ちょっと言いにくいんだけど、もう少し静かにしてくれる？ (12) <u>聞こえない訳じゃないんだけど</u>、もう少し静かだとありがたいなあ。

牧原(2008)では、話者(S)が聴者(H)より不利益を受けているため、話者(S)は聴者(H)に改善要求することができ、聴者(H)は現在行っている不利益付与行為を止める又は改善することができるとし、改善要求には、「遅れた?」「遅いから心配したよ」などの質問の形式や遠まわしな表現も含めている。これらはソムチャナキット(2010)では改善要求には含めず、改善要求の言語ストラテジーは、「～てください」「～て」「～しなさい」等の依頼形、命令形や禁止形を使った発話に限定する。例えば、「うるさくない?」は、話者は最終的にラジオの音を小さくしてもらいたいという意図を

持っているかもしれないが、言語表現から意図は判断できない。ソムチャナキット(2010)では、「うるさくない？」という発話は、非難の一部に入る修辭的疑問の言語ストラテジーであり、相手の好ましくない行動を責める働きかけをすると考える。

例(59)-JP Aは、Bの性格をみて勝手にニックネームを付けたが、Bは気に入らず、Aに対して不満を表明する。

B 「ハチって… もっとかわいい名前付けてよ」

『NANA』

例(60)-JP 新入社員 A は女性の先輩 B に仕事を頼まれたが、うまく出来ず、先輩に叱られている。その時、A の携帯が鳴ったため、先輩 B は A に対して不満を表明する。

B 「携帯もマナモードにしときなさい」

『NANA』

例(61)-TH 食事する前に、手を洗わずに食事しようとする息子に対して、母親が不満を表明する。

อาตี้ ไปล้างมือก่อน

アーティー(愛称) 行く 洗う 手 先に

(アーティー(愛称)、先に手を洗いなさい)

(ゴート)

Ec) 代償要求 (Asking for Compensation)

代償要求は、字義通りに好ましくないことを同じもので代償する場合と、その代わりに代償として別のことを要求する場合の二つの場合がある。今回の映像資料から収集したデータには、大小要求の発話は見られなかったため、実例を挙げてみたい。

例(62) 待ち合わせに遅れた友達に対して

วันนี้เลี้ยงข้าวด้วย

今日 おごる 食事 依頼形

(今日はおごりだね)

『実例』

日本語とタイ語の両言語において、例(62)のような発話はあり得そうな発話である。

Ed) 警告・脅かし (Warning and Threatening)

Ed) 警告・脅かしという分類は、好ましくないことを繰り返し引き起こさないよう、話し手が聞き手に対して警告や脅かしを行う言語行為である。季(2004)に挙げられた例文「今度もやってこなければ、僕もうやめるから。」のように、相手に条件を与えるものである。

例(63)(64)は、聞き手が好ましくないことを引き起こした場合には損害を与えることを、話し手が聞き手に対して警告をする事例である。

例(63)-JP A(男性)は、B(男性)よりも年上であるが、元々同じバンドのメンバーであった。ある日、B はコンサートでベースギターを弾いている時、前の彼女である C を見つけた。コンサートが終わった後、A に電話を掛けて C の電話番号を尋ねたが、電話する勇気があるかどうか分からないと言った。A は、それを聞いて B に対して不満を表明する。

「もう会う気がないのならー ナナは俺がもらう」

『NANA』

例(64)-TH A は、仕事中にぼーっとしていたため、友達に不満を表明される。

กินแรงนะมีง้อะ ทำงานไม่เท่ากัน แบ่งเงินไม่เท่ากันนะเว้ย

食べる 力 文末詞 お前 文末詞 仕事する 否定形 等しい お互い 分ける お金 否定形 等しい お互い 文末詞 文末詞

(他人にたかるんじゃないよ、お前。働いた分のお金しかもらえないぞ)

(ラック)

Ee) 非難 (Using Reprimand and Insult)

Ee) 非難は、聞き手の悪い点・弱点を明示的に責める言語行為であり、形式的には明示的なものではなくても、意味的に考えると聞き手への感情的な叱責が強く感じられるものである。また、ソムチャナキット(2010)でも指摘されているように、Ee) 非難聞き手の面子を刺激する度合い(FTA: Face Threatening Acts) の高い分類であると考えられる。

ソムチャナキット(2010)では、Ee) 非難をEea) 修辭的疑問、Eeb) 主張表現、Eec) 否定的な意味を持つ言葉の3つに分類した。

Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)

修辭的疑問とは、応答を求めない疑問文を用いて非難を表出することである。字面の意味は、答えを要求する疑問文であるが、実際には、相手からの答えを求めず明示的に相手の引き起こした好ましくないことを指摘している。

- (1) ใครบอก
- (2) ใครบอกเธอ
- (3) 何なんだよ
- (4) 何で?

文の形からだけでは、応答を要求しているのか否か判断するのが難しいが、(1)のようなタイ語の「ใครบอก (誰が言った?)」や(3)のような日本語の「何なんだよ」という表現は聞き手からの応答は求めていないと考えられる。(1)の場合、タイ語の「ใครบอก(誰が言った?)」という表現は、字義通り訳せば「誰が言った」になるが、意識すると「私は何も言ってない」「そんなことない」「あなたが考えていることは違う」という意味を持った表現である。また、日本語の(3)「何なんだよ」の場合も、聞き手からの応答を求めず、ただ自分の不満を表現しているのと考えられる。

例(65)-JP Aは、彼氏であるCのところに引っ越した友人のBに会うために、Cの家に来たが、管理人に聞くとBはそこに住んでないと言う。Bが本当はそこに住んでいることを知っているAは、その管理人に不満表明した。

A: 「トラネスのタクミが女と住んでんだろ！」

『NANA2』

「でしょ」「だろ」は、相手に事情・事柄を確認する機能を持っているため、聞き手を非難したい場合にも、日本語の助動詞、「でしょ」「だろ」を文末に置くことによって、聞き手が引き起こした好ましくないことを確認すると同時に、そのことに対して非難することができる。

例(66)-TH AとBは友達である。男性Aはくだらないことを言ったため、Bに不満を言われる。

B: ได้หมด มึงไม่มีอะไรจะพูดใช้มะ

奴 レーム(人名) お前 否定形 ある 何 未来形 話す 確認疑問詞

(レーム野郎、もっと良い話はないの?)

(ラック)

Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)

本稿では、b)主張表現を 1)話し手が肯定文や否定文を使って好ましくないことに対するの感想を表明する、2)相手が引き起こした好ましくないことの結果や悪い事を指摘する、3)好ましくない行動に関わる情報を提供することと定義する。

例(67)-JP Aは、彼氏であるCのところに引っ越しした友人のBに会うために、Cの家に来たが、管理人に聞くとBはそこに住んでないと言う。Bが本当はそこに住んでいることを知っているAは、その管理人に不満表明した。

A:「そんなわけねえよ!

トラネスのタクミが女と住んでんだろ!

隠さなくても知ってたよ 知り合いなんだから!」

『砂時計』

例(68)-TH Aは、不注意で缶を蹴り飛ばしてしまいBの車に缶を当てしまった。Bは、車から降りてAに不満を表明する。

ทำรถผมชนะไ้ย

コレラ 車 俺 高い 文末詞 文末詞

(コレラ野郎、俺の車は高いぞ)

(ラックオ)

Eec) 否定的な言葉 (Using Negative Words)

初鹿野他(1996)は、不満の感情表出¹⁰は慣用表現になっているものであると述べている。タイ語と日本語の両言語では、否定的な意味を持っている言葉を指す。否定的な意味を持っているということは、その言葉自体が否定的な意味を持つことを指す。即ち、その言葉自体の意味を解釈した場合、その言葉が使用される社会に所属している人が皆、悪いと評価する言葉を指す。本稿では、それぞれの社会で禁句言葉とされている「タブー語」も、この分類に含むこととする。

c)否定的な言葉は、以下に示す通り 1)Supporting Strategies、2)否定的な意味を持つ言葉、3)罵りの3種類に下位分類できる。

(1) 付加方略 (Supporting Strategies)

Supporting Strategiesとは、Sukwisith(2004)が記述しているSupporting Strategiesの分類である。Sukwisith(2004)は、直接的手法(Direct Strategies)と間接的手法(Indirect Strategies)の他に、また付加方略(Supporting Strategies)という手法があると述べる。この手法は、聞き手の欠点を表すためのものではなく、聞き手の欠点に対して自分の感情や不満を表すものであると記述している。Sukwisith(2004)は、付加方略を直接的手法、間接的手法、Supporting Strategiesの3つに分けているが、ソムチャナキット(2010)では、「不満表明」を大きく明示的表明と非明示的表明に分けて分析を行っているため、付加方略(Supporting Strategies)は明示的なストラテジーである非難としている。

¹⁰ 初鹿野他(1996)で取り挙げている例は、「まったく」「もう」「いい加減にしる」等。

(表 14) Sukwisith(2004)の Supporting Strategies の下位分類 (ソムチャナキット、2010)

Supporting Strategies の言語ストラテジー	
1. 話し手と聞き手との関係に関わる語句	1.1 不作法な人称代名詞 例) กู(俺)、มึง(お前)、แม่(お前の母)、ฉัน(あいつ)等
	1.2 不作法な呼称 例) หนู(奴)、อึ(女性を蔑む呼び語)、นัง(女性の呼び語)、นาง(女性の呼び語)等
	1.3 不作法な文末詞 例) ぞ(ぞ)、วะ(わ)
2. マイナス的間投詞	2.1 不満を表現する間投詞 例) อ้อ、อู๋、หนอย、เฮ้อ 等
	2.2 好ましくないことを表す間投詞 例) อ้อ 等

更に、Sukwisith(2004)は、直接的、間接的という用語を用いているが、本稿では、ソムチャナキット(2010)と同様、明示的、非明示的という用語を用いることとする。Sukwisith(2004)では、直接的な発話は、その文の意味が字義通りに解釈することができる発話で、間接的な発話は、字義通りに解釈することが出来なく、文脈から判断することによってその文の意味を掴むことが出来ると論じている。しかしながら、本稿においては、其々の不満の発話は明示的か非明示的かを考察したいため、明示的と非明示という用語を用いる。

(表 14)に示した通り、Supporting Strategies とは、人称代名詞、呼称、文末詞、間投詞を付け加えることによって、聞き手の欠点を表すためのものではなく、聞き手の欠点に対して自分の感情や不満を表すことができるストラテジーである。つまり、付加方略は、字義通りに、不満表明の発話の一部であり、付加することによって不満を表明する効率を高めるものであると考えてよからう。Supporting Strategies はどのようなストラテジーであるか、具体的な例を挙げてみたい。

- a1. **What the heck** are you doing !
- a2. **What the fuck** did you say!
- a3. Get Your **Damn Car** Off the Sidewalk!
- b. 余計なことし**やがって!**
- c. ทำ**หี้อะไร!**

まず、英語の例を見てみると、英語 a1,a2、a3 の場合、a1 の heck は、俗語で地獄・他獄、a2 の

fuck は、性交、a3 の Damn は悪いという意味である。単独で発言することもできるが、heck と fuck は、疑問詞の「どこ」「どのようにして」「誰」「何」等と一緒に用いることが多い。それに対して、damn は、sukwisith(2004)の Supporting Strategies の下位分類と同じように、ものの前に付加することが殆どである。

a1、a2、a3 で用いられている heck, fuck, damn を削除し、「What are you doing」「What did you say」「Get your car off the sidewalk」という文にしたとしても、疑問文だという事実は変わらない。しかし、それらの言葉を入れるからこそ、不満感情を表出することが可能となっている。日本語の例文 b. の場合、「～やがる」の動詞連用形が用いられている。日本語の「やがる」の動詞は、英語の「heck」と同じように、聞き手を罵り卑しめる時に使う言葉である。b.を「余計なことして！」に言い換えるたとしても、伝達しようとしている意味が通じないわけではないが、「～やがる」の動詞を使用するからこそ、感情表出動詞文となっている。タイ語の例文の c. は、動詞の後ろに「^๕ตลก(トカゲ)」がつくと非難文となる。「^๕ตลก(トカゲ)」という語は、罵り言葉として単独で使えるだけでなく、動詞や名詞の後ろに付けると、感情表出文にすることができる。

例(69)-JP 漫才師を目指している二人は、仕事の休憩時間に練習している。それを見た上司が二人に対して不満を表出する。

「何だよ 続けろよ ほら やれって
…たくっ 何がお笑いコンビだよ 心気くせえツラしてよ 」

『手紙』

日本語の「…たくっ」は、不満を感じた時に使われる間投詞である。不満を感じていない場合には使用せず、話し手が聞き手に対して不満を表明したい時にしか使えないであろう。

例(70)-JP Aは死亡予告証を届ける役人である。そして、ある人に死亡予告証を渡そうとするが、相手から不満を表明された

。

「余計なことをしやがって!なんで こんなとこまでわざわざ来やがった
俺は手術1時間前に死ぬんだぞ もう だませねえだろう 」

『イキガミ』

日本語の「～やがる」は、聞き手を罵り卑しめる時に使われる。不満を感じていない場合には、「～やがる」は使用されない。また、「やがる」は単独で用いることができないため、「動詞+やがる」という動詞連用形と共に使われる。「～やがる」の前に置かれる動詞は、不満の感情を付け加えて

使われる付属語であるため、明瞭に Supporting Strategies に適合する。

例(71)-JP 同じバンドメンバーの男性Aは、バンドのボーカリストのBを訪問した。しかし、Bは、Aを見ると機嫌が悪くなり、同じバンドメンバーのCに電話して不満を表明した。

「このバカ息子 なんて あたしんとこよこすんだよ」

『NANA』

例(72)-TH A は、仕事中にぼーっとしていたため、友達に不満を表明される。

ได้ยืมมองเหี้ยอะไรอยู่รีบทำให้เสร็จ

奴 ユ(人名) 立つ 見る トカゲ 何 進行形 急ぐ する させる 終わる

(ユ野郎、一体何を見てんだ？早く終わらせよう)

(ラック)

(2) 否定的な意味を持つ言葉 (Using Word with Negative Meaning)

Sukwisith (2004) は、否定的な意味を持つ言葉とは、所属社会によりその行為が不正確、不適切や不善であること指摘するための言葉であると記述している。また、タイ語では好ましくないこととした状態・結果を描写する「形容詞」、諺や慣用句のような「格言」を使う場合が多く見られる。

c) 否定的な言葉の下位分類である(2)否定的な意味を持つ言葉と(3)罵りとの区別は何であろうか。(2)否定的な意味を持つ言葉は、上述の通り所属社会によりその行為が不正確、不適切や不善であることを指摘するための言葉で、人間の物事に対する「良」か「不良」という評価を基にした判断である。それに対して、(3)罵りは、その所属社会における「不良」という評価だけではなく、多くの「タブー語」「禁忌語」が含まれていることから、話者と聞き手の両方のフェースに対して損害を与えかねる言葉であると言える。

(表 15) タイ語・日本語における否定的な言葉(ソムチャナキット、2010)

タイ語	เพื่อใจ (くだらない) โง่ (愚かな) บ้า (気が狂った) เสียด (おせっかいをする)等
日本語	やばい、うるさい、うっせー、ふざけるな、ひどい、ずるい、卑怯、ケチ、馬鹿、理不尽、悪い、嘘つけ、ムカつく等

例(73)-JP 納棺師であり社長でもある A(男性)と部下の B(男性)は、客に遺体を引き取りを頼まれた。しかし、2人は、待ち合わせ時間に5分遅れてしまった。そして、男性の客は、社長のAと部下のBに不満を表明する。

「遅っせー! 5分も過ぎてんだぞ 5分も！」

『おくりびと』

例(74)-TH タイでは、大学へ入学すると、数カ月間毎晩新入生は集まって、先輩の指示通りに活動しなければならない。A(男性)、B(男性)、C(男性)は、罰ゲームに当たって3人でダンスのステップを考えて先輩の前で披露しなければならなかったが、Cは、先輩たちが嫌いなためダンスの練習に協力しない。何人かの友達がやってきて、Aに頼んだが、Aさんは考えを変えない。そして、女性のEは、それに対してAさんに不満を表明する。

คนเห็นแก่ตัว

人 利己的な

(わがままな人！)

(ラックオ)

(3) 罵り・禁忌 (Using Swear Word)

Sukwisith(2004)は、否定的な意味を持つ言葉の分類を所属社会は、ある行動・行為・資格に対して、「不正確」「不適切」「悪」と評価される語句であるとしている。話し手が聞き手に対して否定的な意味を持つ言葉を表出する際、聞き手の引き起こした好ましくない行動・行為・資格を指摘すると同時に、聞き手に対する支持性や信頼性を下げる働きかけもあると定義する。それに対して、罵り言葉は、その社会で禁止される言葉や未洗練な言葉やフォーマルな場面で使うや言うべきではない言葉であると述べている。さらに Crystal(1987)を参照して論述した宮本(2009)は、罵り言葉は宗教的な場面や法律的な場面、そしてその他のフォーマルな場面において見られる複雑で洗練された言語表現の正反対に位置するものとして、憎悪、敵意、欲求不満、驚き、といった感情を表現するタブーとされる言葉であると述べている。罵り語や禁忌語は、相手の面子を刺激する度合いが最も高いと考えられる。

タイ語における罵り言葉は、幾つかあるが、下記の(表16)にまとめた。

(表 16) タイ語・日本語における罵り

タイ語	ไล่เหี้ย(トカゲ野郎) ไล่สัตว์(動物野郎) ไล่หน้า (コレラ野郎)
日本語	バカ野郎

(表 16)で示したように、タイ語では、色々な罵り言葉があるのに対して、日本語ではあまり見られず、僅かである。

3.8.2 F) 非明示的不満表明 (Implicit Complaint)

タイ語における非難表明言語ストラテジーに関して記述している Sukwisith (2004)は、不満表明ではなく「非難」という用語を用いているが、タイ語における間接的¹¹非難表明言語ストラテジーを、Ff) 皮肉 (Using Verbal Irony)、Fg) 隠喩(Using Metaphor)、Fh) 婉曲的な表現 (Euphemism)、Fi) 相手を特定せずに侮辱する (Using Ambiguous Insults)、Fj) 他のものに不満を向ける (Attacking others related to the target)、の5つに分けている。しかし、本研究で収集したデータを分析した結果、非明示的不満表明は、日本語には見られなかった。本稿で使用した F)非明示的不満表明の言語ストラテジーは、タイ語の先行研究の Sukwisith(2004)を引用にしたため、現実には日本語にもあるのかに関して作例で考察していく。

Ff) 皮肉(Using Verbal Irony)・冗談 (Joke)

Sukwisith (2004) では、皮肉は以下のように定義されている。

- (6) 事実と反対の言葉
- (7) 現実では起こりえないことを表す言葉
- (8) 大袈裟な表現
- (9) 聞き手に適切でない丁寧さの表現
- (10)音調の上昇

また、本稿で扱う冗談は、人を笑わせたり楽しませたりする冗談ではなく、不満表明の機能を持つ「冗談」を指すし、冗談の形をとりながらも、皮肉の意味を持たせる場合である。筆者が集めた日本語の用例には見られなかったが、タイ語の用例では頻繁に観察された。

日本語の「皮肉」は、例(75)が挙げられる。

¹¹ 間接的な言語行動というのは、Sukwisith(2004)の定義では、「1. 曖昧な言葉を用いて聞き手が文脈を解析することにより非難されることが分かる。2. 誰を非難しているかをはっきりとせず、聞き手が文脈を解析することにより非難されることが分かる」ということである。

例(75)-JP Aはいつも待ち合わせに遅刻するが、ある日、珍しく待ち合わせの時刻通りに来た。そのAに対して、友人であるBが言う皮肉。

「どうしたの？ 今日具合でも悪いの？ 心配だなあ。」

『作例』

例(75)では、皮肉を用いずに不満を表明するのであれば、「なんでいつも時間通りに来られないの？」ということもできる。(21)の発話を文字通りに解釈すると、友人の体調を気遣って、心配している発話だと解釈されるが、時間通りに来ることができたAの体調が悪いはずもなく、このような場面で敢えて過度な心配することによって、非明示的に相手を責める皮肉となっている。

例(76)-TH ある遅刻場面

ไม่มาพรุ่งนี้เลยละ

否定形 来る 明日 強調詞 文末詞

(明日来たら?)

『作例』

例(76)は、タイ語において遅刻場面によく見られる発話である。話し手は、非明示的に遅刻した聞き手に対して不満を表明した発話である。言語形式のみ見れば、遅刻したことを指摘する語はないが、文全体の意味を解釈すると不満表明の発話だと理解される。また、タイ語「ไม่...ละ(～したら?)」の表現は、通常提案の表現として用いられるが、「เลย」や「ซะเลย」の強調詞を付け加えることにより、全体的の意味が強調され、「皮肉+冗談」に変わり不満表明の表現になっている。

例(77)-TH AとBは雑誌社の同僚である。出張先で、Bは約束があるからと言ってAを急かす。しかし、写真家であるAは気にせずに写真を撮り続けたため、遅くなってしまった。そして、そのことによりBは不満を表明した。

โทษครับ พี่เต็นครับ เมื่อไหร่จึงจะถ่ายเสร็จครับ จะไปรถที่รถนะครับ โทษนะครับ เจ๊ ๆ ด้วยนะครับ

すみません 文末詞 テンさん 文末詞 いつ お前 未来形 撮影 終わる 文末詞 俺 未来形 帰る
もう 文末詞 俺 行く 待つ で 車 ね 文末詞 すみません ね 文末詞 早く ね 文末詞
(すみません、テン先輩。お前はいつ終わるでしょうか。俺、そろそろ帰るんですけど。俺、車で待っていますね。すみません。早くしてください。)

(ハッピー)

例(77)は、文の意味ではなく言語形式から成り立った皮肉の例である。タイ語において親しい友人の間柄では、丁寧さを表わす文末詞の「ครับ」は用いられないが、この場面においてBは丁寧

さを表す文末詞「ดั่ง」を付けて大袈裟に丁寧に表示している。その一方で、タイ語で避けるべき表現とされるぞんざいな人称代名詞の「ฉัน」(お前)と「ฉัน」(俺)を用いており、相手に不満を表明している。

Fg) 隠喩 (Using Metaphor)

Sukwisith (2004) は、「もっと効果的に相手の面子を脅かすようにするためには、非難する人の発言を強調して隠喩戦略を用いることにより、非難される人に悪いことや比べる代表的なものとの違いがあると感じさせることができる(p.76) (筆者翻訳)」と述べている。今回の映像資料のデータには、日本語の事例が見られなかったため、作例から考察していきたい。

例(78)-JP クラスメイトで鍋パーティーをすることになり、みんなで仕事を分担して食材や鍋の準備を進めている。大根を切る作業を頼まれたAさんであるが、Aさんはほとんど包丁を使ったことがなく、手元が非常に危なっかしい。そのAさんを見て、Bさんが不満表明をした。

「Aさんって、お坊ちやまだねえ。」

『作例』

例(78)の例では、BさんはAさんの身なりやマナーなど上品な行いを見て「お坊ちやま」と表現したのではなく、包丁も満足に使えないAさんに対して「お坊ちやま」と言っている。そのため、「大切に育てられすぎて、自分では何もできない」ということを暗に示す発言となっている。

例(79)-TH 男性Aと女性Bは、2年前まで付き合っていたが、家族の背景の差が大きく異なるため、AはこっそりとBから離れていた。2年後、2人は再会する。Bが2年前の話をしてAに不満を表明しようとする、Aの方も、Bに不満を表明する。

หรือคิดเองไม่เป็น ทำอะไรด้วยตัวเองก็ไม่ได้ ต้องเปลี่ยนไปทางไหนที่ ทางนี้ที่ ทำตัวไร้ค่าอย่างกับปูเสฉวนนะ

疑問詞 考える 自分で できない する 何 で 自分 も できない しなければならない 変える 行く あちら こちら 行為する 価値のない のように ヤドカリ 文末詞

(自分で考えられないのかよ！自分で何もできないわけ？あっちこっちふらふら動いて、**ヤドカリ**のようにふらふら歩いているじゃないか)

(ファン)

ヤドカリの左に行ったり右に行ったりしてふらふら歩く様子から、タイ語では自分で自分のことを決められない人をヤドカリに例えて表現し、信頼性のない人間であることを意味する。タイ語の事例から、Fg) 隠喩(Using Metaphor)の戦略では、殆ど比喩を表す「อย่าง(のように)」を付けて表されている。

Fh) 婉曲的な表現 (Using Euphemism)

Sukwisith (2004) は「Stern(1968)と Allan and Burrige(1991)の定義に従い、婉曲的な表現とは話者が話者自身、聞き手、会話の参加者の面子を保つために、タブーとされている言葉の不快な意味を抑えたり、避けたり、隠したりする言葉である (p.85) (筆者翻訳)」と記述している。婉曲的な表現(Using Euphemism)は、隠喩(Using Metaphor)とは違って、「XはYのようにZ」ではなく、単にある言葉をより綺麗な言葉に言い換えることである。Sukwisith (2004) が指摘した婉曲的な表現というものは、文のレベルではなくて、語句のレベルである。すなわち、非明示的不満表明の婉曲的な表現とは、全体の言い方が婉曲的であるのではなく、表出すれば話者と聞き手のフェースを侵害する可能性のある言葉を、侵害度を軽減しさらに綺麗な言葉に言い換えることである。具体的な例を取り上げ見れば、タイ語の場合、「ขายตัว(肉体を売るという意味)」は、強い言葉であるため、「ขายที่นาผืนน้อย(小さな田んぼを売る)」に言い換える。タイ人は、「肉体を売る」という表現が強いと考えているため、「肉体」を使わずに、「小さな田んぼ」というような婉曲的な表現を使う。また、「ที่นาผืนน้อย」は、女性器のより綺麗な言い方である。「เนื้อสด(新鮮な肉)」を使用することもある。日本語の場合にも、「肉体を売る」の婉曲的な表現といえば、「はるをひさぐ」という表現があるであろう。

Fi) 相手を特定せずに一般化する (Using Ambiguous Insults)

Sukwisith (2004) は、「相手を特定せずに侮辱することは、ただ聞き手 1 人を対象として非難するだけでなく、幅広い意味の言葉の選択を考えて、多くの人を対象にして表出することであると説明している。また、非難される対象者は、自分と話し手との背景を考えたり、その文脈を分析したりすることにより、自分が対象者であるかどうかを話し手の発話意図から理解することができる (p.87) (筆者翻訳)」と記述している。聞き手の所属する性質を使うのは、殆どである。例えば、聞き手が男性であれば「男性の皆」、日本人であれば「日本人の皆」などである。

例(80)-JP Aさん(女)とBさん(男)は恋人同士であるが、BさんはAさんに内緒で外で他の女性と会っていた。そのことに気がついたAさんは、Bさんに対して不満を表明している。

「ばれなかったらいいと思って、そうやって男の人はいつも外で遊んでるでしょ。」

『作例』

例(80) 男性のAさんは、バンコクに行く途中で女性のBさんと出会い、最初是一緒にバンコクに行こうとしたが、結局Aさんは、Bさんを捨てて1人でバンコクに行くことにした。しかし、ある日警察署で偶然にBさんと再会する。いつも男性に捨てられていたBさんは、Aさんのことも含めてAさんに不満を表明する。

例(81)-TH 男性 A は、バンコクに行く途中で女性 B と出会い、最初は一緒にバンコクに行こうとしたが、結局 A は B を捨てて 1 人でバンコクに行くことにした。しかし、ある日警察署で偶然に B と再会する。いつも男性に捨てられていた B は、A のことも含めて A に不満を表明する。

ผู้ชายมันก็เฮงชวยเหมือนกันทั้งหมด ชอบทิ้งฉันไว้คนเดียว

男性 代名詞 酷い 同じ 全部 よく 捨てる 私 ておく 一人

(**男性は全部一緒なんだ！**みんな私のことを捨てちゃうのよ)

(ゴート)

例(81)は、男性 1 人の相手に対して不満を表明する場面であるが、話者は、聞き手のことだけを特定せずに、男性の皆という言葉を使って遠まわしに不満を表明する。とはいえ、その場にいる人が自分のことに対して不満を表明していることが分かる。

Fj) 他のもに不満を持つふりをする (Attacking others related to the target)

Sukwisith (2004) の定義では、この戦略はあることに対して不満を表明するふりをするが、本音は聞き手を非難したいという意図を持っていると述べられている。Fj) 他のもに不満を持つふりをするという戦略は、上述した Fi) 相手を特定せずに一般化すると類似しているが、Fj) 他のもに不満を持つふりをする場合、特定人称代名詞や名前を使うことがある。つまり、不満を表明するターゲットを変えることである。ターゲットが変えられても、Fi) 相手を特定せずに一般化する戦略と同様、文全体の意味を解釈すると、聞き手が今自分を非難していることが分かる表現である。

第4章 全体的傾向

4.1 日タイの不満度別の全体的傾向

まず、日本語とタイ語のデータに表れた不満表明の場面を、「強」「中」「弱」の3つの程度に分けて分析を行う。日タイの母語話者(各2名)に母語の映像の文字化資料を見せて不満の程度を「強」「中」「弱」に分けてもらった。各場面の不満の程度は、不満表明の発話にだけに注目するのではなく、不満の発話の前後の文脈とその状況全体を見て、話し手が強い不満を持っているのか弱い不満なのかを判断してもらった。

その結果は(表 17)の通りである。実数はそれぞれの場面数を表し、パーセントは場面総数に占める割合である。

日本語の資料で最も出現頻度の高いのは「強」の 50.5%(50)で、次に「弱」の 27.3%(27)、「中」の 22.2%(22)と続いている。タイ語では、「弱」の 50.0%(50)、「強」の 27.0%(27)、「中」の 23.0%(23)の順である。

最も出現割合が高い場面が、日本語では「強」の 50.5% (50)であるのに対し、タイ語では「弱」の 50.0%(50)である点が注目される。出現頻度率は、当該のストラテジーを使った場面数を全場面数で割ったものである。本稿で注目したいのは、なぜ日本語とタイ語の第1位と第2位が逆であるかという点である。そこで、本稿では両言語における不満程度の「強」と「弱」の共通点と相違点を明らかにすることに焦点を当てて分析する。

(表 17) 不満度別の場面数

場面の不満度	日本語(場面数)	タイ語(場面数)
強	50.5%(50)	27.0%(27)
中	22.2%(22)	23.0%(23)
弱	27.3%(27)	50.0%(50)
合計	100.0%(99)	100.0%(100)

(表 17)で示した日本語とタイ語における不満度別の場面数の全体的な傾向から、以下のようなことがわかる。

1) 日本語では、「強」が 50.5%(50)であり、最も場面数が多い。なぜ不満表明「強」の場面が最も多く見られたのだろうか。日本語は、ものを言わない言語と言われているが、今回の資料からみると、実際に現れた場面には、「強」の場面が多いことが指摘できる。日本語では、不満を感じても、

不満の程度が低い「弱」の場合には、FTA を行わずに、不満表明を回避することが多いが、不満の程度が強く、不満を表明せざるを得ない状況において不満を表明するために、「強」の場面数の割合が高くなったのではないかと考えられる。

2) タイ語では、「弱」が 50.0% (53)であり、最も場面数が多い。なぜ不満表明「弱」の場面が最も多く見られたのだろうか。ソムチャナキット(2010)で指摘したように、日本語と異なり、タイ語では、Eec.) 否定的な言葉の使用が多いが、親しい関係の場合、親しさや仲間同士を強調したいために否定的な言葉を使うのであり、強い不満表明の場面とは限らない。タイ語では、仲間内の関係が表し得る、からかい、冗談、皮肉のようなポジティブ・ポライトスを行うことが多いため、「弱」の場面の不満表明が多く現れたのではないかと考えられる。日本語母語話者から見れば、言葉や表現自体が強い不満に感じられる表現が使用されていても、実際には、FTAを軽減する手法のポジティブ・ポライトス(Positive Politeness)として不満表明が行われ、相手のフェイスへの侵害度が軽減され、タイ語の母語話者には不満の程度が「弱」と捉えられる場合が多い。

次に日本語とタイ語の両言語について、不満程度の「強」「弱」ごとの上下関係と親疎関係による異同を見る。

4.1.1 相手との上下関係による全体的傾向

言語行動を行う際、話し手は様々な要素を考慮しているが、本稿では特に相手との上下関係や親疎関係を取り上げて分析を行う。其々の「強」と「弱」のデータをさらに上下関係と親疎関係別に分けた結果を、以下順に見ていく。

(表 18)は、今回の資料にあらわれた不満表明の場面数を、相手との上下関係の違いによって示したものである。

(表 18)上下関係別の場面数

	日本語			タイ語		
	強	弱	%	強	弱	%
上→下	16	11	35.0%(27)	8	7	19.5%(15)
同等	20	16	46.8%(36)	16	42	75.3%(58)
下→上	14	0	18.2%(14)	3	1	5.2%(4)
合計	50	27	100.0%(77)	27	50	100.0%(77)

両言語とも、不満の程度が「強」であるか「弱」であるかに関わらず同等関係の場面が、最も事

例数が高い。しかし、日本語の 46.8%に対し、タイ語は 75.3%と大きな差がある。この結果から、日本語では、どの関係の相手に対しても不満を表明する傾向があるのに対して、タイ語は、「同等」の場面での不満表明が特に多いということがわかる。また、タイ語では、「下→上」が 5.2%と非常に事例数が少ない。タイ語において、下の人が上の人に対して不満を全く表明しないとは言えないが、下の人が上の人に対して不満を表明しにくいという傾向は存在する。上から下への不満表明も日本語の場合に比べると少ない。

4.1.2 相手との親疎関係による全体的傾向

(表 19)は、今回の資料にあらわれた不満表明の場面数を、相手との親疎関係の違いによって示したものである。

(表 19) 親疎関係別の場面数

	日本語			タイ語		
	強	弱	%	強	弱	%
親	24	13	48.1%(37)	15	42	74.0%(57)
疎	26	14	51.9%(40)	12	8	26.0%(20)
合計	50	27	100.0%(77)	27	50	100.0%(77)

日本語は、「親(48.1%)」「疎(51.9%)」であり、親疎関係における大きな違いは見られない。それに対して、タイ語は「親(74.0%)」「疎(26.0%)」と大きな差が見られた。この結果から、日本語では、相手が親しいかどうかに関わらず不満を表明するのに対し、タイ語では、親しい相手に対して不満を表明する傾向にあるということがわかる。ソムチャナキット(2010)の分析では、日本語はタイ語ほど Eec.) 否定的な言葉を使用しないことが明らかになっている。この結果と今回のデータを合わせて考察すると、日本語では、否定的な言葉よりも「～んですか?」「～んだろう」「～でしょ」「～ないんですか」等のような文末表現が用いられ、言語形式自体は丁寧さを維持したままで、親しくない相手に対しても不満表明が行われていることが指摘できる。一方で、タイ語の場合は、フェイスを侵す度合いの高い分類と考えられる Ed.)警告・脅かし(Warning and Threatening)、Ee.)非難(Using Reprimand and Insult)、Eec.) 否定的な言葉 (Using Negative Words)を使って、親しい相手に対して不満表明を行っている。

次に、日本語とタイ語の不満表明の程度「強」「弱」別に、其々の場面を詳しく見ていく。

4.1.3 不満の程度「強」「弱」の違いに関する考察

(表 20)(表 21)は「強」と「弱」の場面数の場面総数に対する割合を上下、親疎でまとめた表である。「中」程度の不満は省く。

(表 20)日本語とタイ語の「強」場面の上下親疎関係別の場面数

親疎関係 人間関係	「親」の関係		「疎」の関係		合計	
	日本語	タイ語	日本語	タイ語	日本語	タイ語
①「上→下」の関係	18.0% (9)	11.1% (3)	14.0% (7)	18.5% (5)	32.0% (16)	29.6% (8)
②「同等」の関係	22.0% (11)	40.7% (11)	18.0% (9)	18.5% (5)	40.0% (20)	59.2% (16)
③「下→上」の関係	8.0% (4)	3.7% (1)	20.0% (10)	7.4% (2)	28.0% (14)	11.1% (3)
合計	48.0% (24)	55.5% (15)	52.0% (26)	44.4% (12)	100.0% (50)	100.0% (27)

(表 21)日本語とタイ語の「弱」場面の上下親疎関係別の場面数

親疎関係 人間関係	「親」の関係		「疎」の関係		合計	
	日本語	タイ語	日本語	タイ語	日本語	タイ語
①「上→下」の関係	11.1% (3)	14.0% (7)	29.6% (8)	0.0% (0)	37.9% (11)	14.0% (7)
②「同等」の関係	33.3% (9)	70.0% (35)	26.0% (7)	14.0% (7)	55.2% (16)	84.0% (42)
③「下→上」の関係	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	2.0% (1)	0.0% (0)	2.0% (1)
合計	44.4% (12)	84.0% (42)	55.6% (15)	16.0% (11)	100.0% (27)	100.0% (50)

まず合計に注目すると、日本語では「強」の不満表明は、相手との上下関係に関わらず全てに不満表明が現れるが、「弱」の不満表明では同等の関係が 55.2%(16)と多い。目上の相手に対しても「強」の場面では不満表明が 28.0%(14)と多いが、「弱」の場面では今回日本語のデータに表れなかった。目上に対しては小さな不満は表明しない傾向があると言える。目上に対する不満表明で特徴的なのは、不満が強く相手との関係が疎の場合には 20.0%(10)と不満表明が多いが、親の場合は 8.0%(4)と少ない点である。

タイ語では、同等の相手に対する不満表明の割合が、「強」59.2%(16)、「弱」84.0%(42)と、突出して高い。しかも、「強」「弱」どちらの場合も「強・親」40.7%(11)、「弱・親」70.0%(35)と「親」の相手に

対する不満表明の多さが目立っている。タイ語では親しい同等の相手に対する不満表明が特に多いといえる。目上に対する不満表明は、いずれも目立って低く、「弱」の場面の親しい目上に対する不満表明の例は2.0%(1)であった。

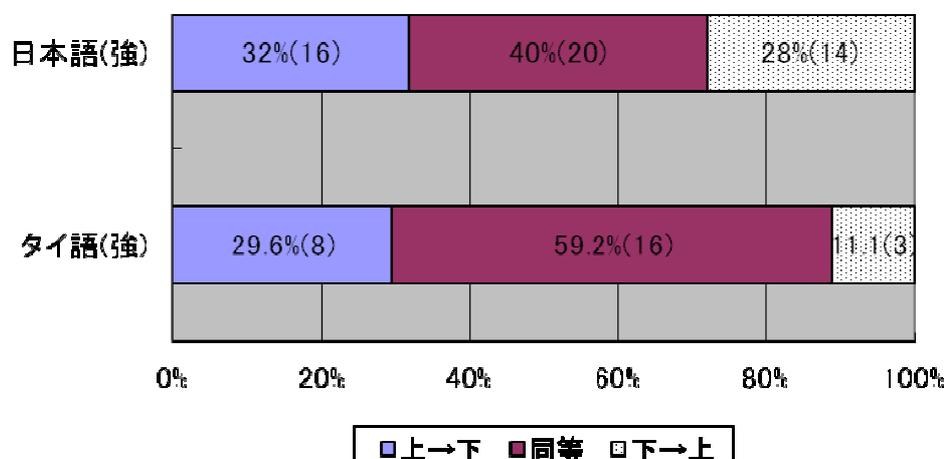
本稿では、話し手と聞き手との関係(上下関係、親疎関係)を考慮しながら分析していくため、(表 20)(表 21)の其々の言語のデータを、さらに上下親疎関係別に分けた。次に、タイ語において場面数の半分以上を占めている「弱」の場面で表れている不満表明と、日本語においてもっとも場面数が多く見られた「強」の場面で表れている不満表明を見て行く。

4.2 不満度の「強」「弱」と上下関係

(1)「強」の場面における上下関係別の割合

本節では、日本語とタイ語における親疎上下関係の特徴を述べる。(図 4)(図 5)は、日本語とタイ語の「強」の場面における上下関係別の場面数の割合で、(図 6)(図 7)は、「弱」の場面における親疎関係別の場面数の割合である。

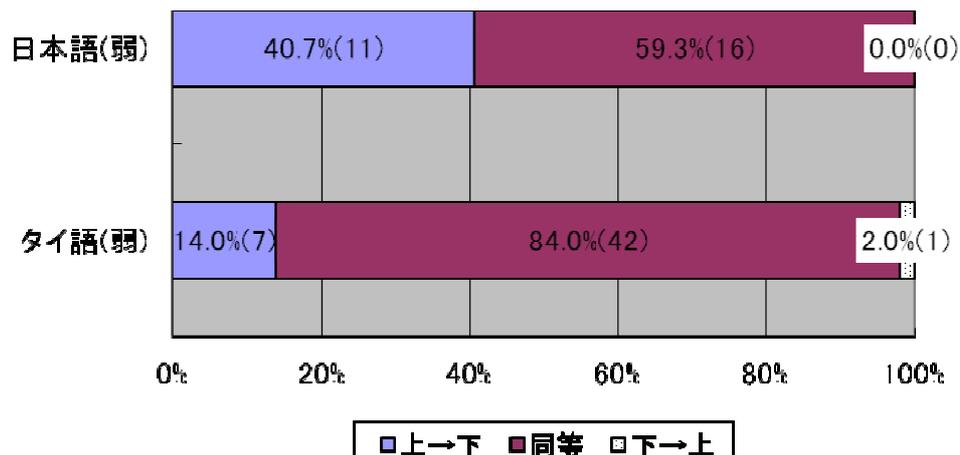
(図 4)日本語とタイ語の「強」場面の上下関係別の割合



日本語では「強」の場面における不満表明は、同等の相手に対する不満表明が、59.2%(16)で最も多い。次に多いのは、「上→下」の 32%(16)で、最も少ないのは「下→上」の 28%(14)である。しかしながら、日本語の「下→上」と「上→下」には、大きな差がなく、最も割合の多い「同等」に比べても、大きく差がないため、日本語では、どの関係の相手に対しても不満を表明すると考えられる。それに対して、タイ語では、日本語と順番は同じで、「同等」の 59.2%(16)、「上→下」の 29.6%(8)、「下→上」の 11.1%(3)となっている。

(2)「弱」の場面における上下関係別の割合

(図 5) 日本語とタイ語の「弱」場面の上下関係別の割合



日本語では「弱」の不満表明は、「強」の場面と同様に「同等」55.2%(16)が最も多い。次に多いのは、「上→下」の37.9%(16)で、最も少ないのは、「下→上」の6.9%(2)である。

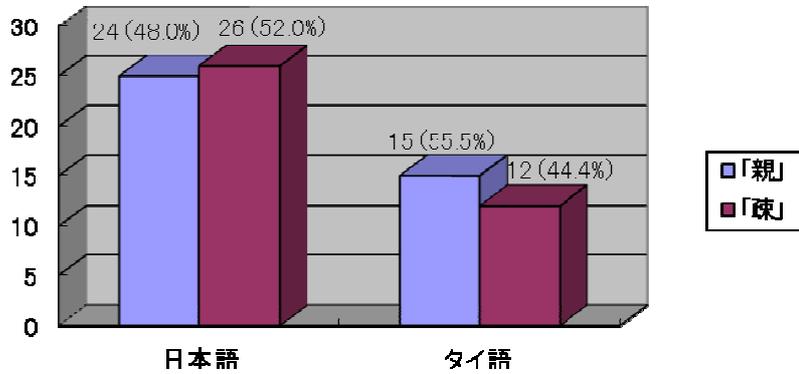
タイ語では、日本語の「弱」と同様の順位で、「同等」71.2%(42)が最も多く、「上→下」の13.2%(7)、「下→上」の7.6%(4)と続く。

「強」「弱」どちらの場面でも、両言語ともに「同等」「上→下」と「下→上」の順番に割合が多い。しかしながら、日本語に比べ、タイ語の「同等」の場面と他の場面には大きな差があり、同等の相手に対する不満表明が突出して多いことが分かる。

4.3 不満度の「強」「弱」と親疎関係

次に、両言語の「強」「弱」場面の親疎関係による違いを見る。(図 6)は、日本語とタイ語の「強」場面の親疎関係別の割合、(図 7)は「弱」の場面の割合である。

(図 6)日本語とタイ語の「強」場面の親疎関係別の割合



(図 6)によると、「強」の場面においては日本語の場合親しい相手と親しくない相手に不満を表明する割合にはほとんど差はない。タイ語の場合は、親しい相手に対する場合の方が約 10%多い。

(図 7)日本語とタイ語の「弱」場面の親疎関係別の割合

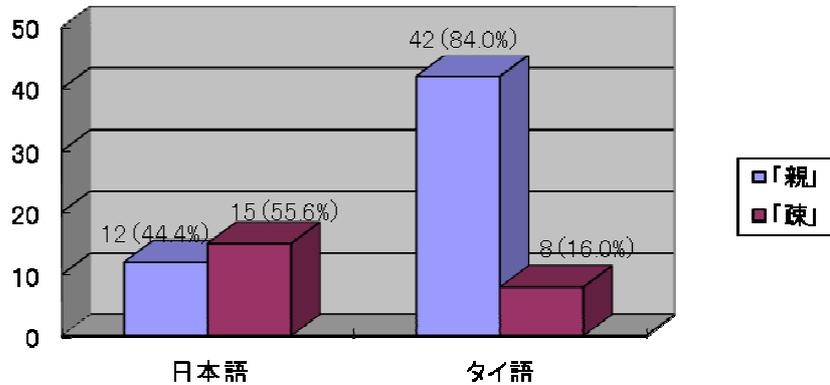


図 4 日本語とタイ語の「弱」場面の親疎関係別の割合

「弱」の場面では、日本語は親しい相手に対する不満表明の方が約 10%多く、タイ語の場合は親しい相手に対する不満表明が 84.0%と圧倒的に多い。日本語での「強」「弱」とタイ語での「強」の場面では、「親疎」関係による差は多くても 10%程度であり、「親」の相手に対しても、「疎」の相手に対しても不満は表明し得ると考えられるが、タイ語の「弱」の不満表明は親しい相手に対する場合の割合が著しく多いことがタイ語の特徴である。

以上のように、1)日本語とタイ語の不満表明全体に「強」「中」「弱」の場面が占める割合、2)「強」「弱」の場面と上下関係、親疎関係の全体的な特徴を見てきた。次に各場面で用いられる戦略に注目し以下の3つの点を明らかにしたい。

- 1) 両言語において、「強」の場面では、戦略の使用に違いがあるのか。
- 2) 両言語の「強」の場面において、相手との上下関係によって、戦略の使用に違いがあるのか。
- 3) 両言語の「強」の場面において、相手との親疎関係によって、戦略の使用に違いがあるのか。

第5章では、1)～3)の順に考察していく。

第5章 不満の程度の差によるストラテジーの使用傾向

5.1 不満程度別のストラテジーに関する考察

第4章では、日本語とタイ語の不満表明を「強」「中」「弱」に分け、1) 全不満表明場面の中で不満の「強」「弱」がどのような割合で現れるのか、2) 3) どのような相手に不満を表明するのか、すなわち、全不満表明場面の中で上下関係、親疎関係別場面数の割合を見た。

- 1) 場面総数に占める、「強」「中」「弱」の不満度別場面の割合
- 2) 場面総数に占める「上下」「同等」「下上」の不満表明の割合
「強」「弱」の不満度別場面数に占める「上下」「同等」「下上」の不満表明の割合
- 3) 場面総数に占める「親」「疎」の不満表明の割合
「強」「弱」の不満度別場面数に占める「上下」「同等」「下上」の不満表明の割合

第5章では、不満の強い場面「強」と弱い場面「弱」のそれぞれにおいて、日本語とタイ語ではどのようなストラテジーが使用されるかを見る。

本稿における不満程度「強」は、場面の内容や不満の要因から判断したのではなく、母語話者が会話のデータを見て、不満の程度が強いかわいかに判断したものである。各場面において不満の程度の「強」「弱」によって、使われる不満表明の言語ストラテジーや言語形式は異なると考えられる。不満程度の高い場面では、相手に直接に自分の抱いている不満を表したい場合には、Eec. 否定的な言葉 (Using Negative Words) (i. 付加方略 (Supporting Strategies)、ii. 否定的な意味を持つ言葉 (Using Word with Negative Meaning)、iii. 罵り (Using Swear Word) を含む) 等が使用されるであろうし、自分の不満は表したいが、相手のフェイスを侵略するリスクも軽減したいという場合は、代わりに他の不満表明のストラテジーを選択することもあるだろう。

不満表明のストラテジーについて、まず、上下関係とストラテジーの関係の全体的傾向を見る。次に、「強」「弱」のそれぞれの場面について、具体的な会話例を示しながら上下関係、親疎の関係とストラテジーの選択をみてい

く。

- (1) 上下関係とストラテジーの関係の全体的傾向
 - 1) 日本語の「強」と「弱」の場面における上下関係別のストラテジーの選択の全体的傾向
 - 2) タイ語の「強」と「弱」の場面における上下関係別のストラテジーの選択の全体的傾向
 - 3) 日本語とタイ語の「強」と「弱」の場面における上下関係別のストラテジー選択の全体像を

見る。

- (2) 「強」の場面: 上下関係と親疎関係による戦略選択の違い
 - 1) 「上下」と親疎関係
 - 2) 「同等」と親疎関係
 - 3) 「強」の場面の「下上」と親疎関係
- (3) 「弱」の場面: 上下関係と親疎関係による戦略選択の違い
 - 1) 「上下」と親疎関係
 - 2) 「同等」と親疎関係
 - 3) 「強」の場面の「下上」と親疎関係

5.2 不満程度「強」と「弱」の場面における上下関係と戦略

5.2.1 日本語の不満表明: 上下関係と戦略選択の全体的傾向

(表 22)は日本語の「強」場面において、(表 24)は日本語の「弱」の場面において、「上→下」「同等」「下→上」のそれぞれの相手に対して、どのような戦略を用いて不満表明が行われたかを示したものである。それぞれの表から「上→下」「同等」「下→上」のどの場合にも使われる戦略と相手との上下関係によって使用が限定されている戦略があることがわかる。また、二つの表を対照すると「強」と「弱」という不満度の違いによっても戦略選択が異なることがわかる。日本語の「強」と「弱」の場面に現れた戦略選択の特徴をまとめると以下のようになる。

ただし、日本語では、「弱」「下→上」については、不満表明の場面そのものが少なく、不満の程度が低い場合には、目上の相手に対して不満表明そのものをしない傾向がある。「下上」の不満表明は、「強」では 14 場面が観察されたが、「弱」では 0 場面であり、戦略のデータそのものがない。

＜日本語の不満表明ストラテジー選択の全体的傾向＞

- 1) 「強」「弱」のどちらの場面でも⑤Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation) と②Eb. 改善要求(Demand for Improvement)が多い。

⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation):

「強」「上→下」33.3%(20)、「強」「同等」47.9%(34)、「強」「下→上」30.0%(12)

「弱」「上→下」32.3%(10)、「弱」「同等」44.4%(16)

② Eb. 改善要求(Demand for Improvement):

「強」「上→下」11.7%(7)、「強」「同等」25.3(18)、「強」「下→上」15.0%(6)である。

「弱」「上→下」12.9%(4)、「弱」「同等」11.1%(4)

「強」の場面では、次に Ea. 理由・説明要求(Asking for Reason and Explanation)の「上→下」6.7%(4)、「同等」12.7(9)、「強」「下→上」10.0(4)が多く、「弱」の場面では、⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)の「上→下」9.7%(3)、「同等」16.6%(6)と① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)の「上→下」3.2%(1)、「同等」5.6%(2)と⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)の「上→下」6.5%(2)、「同等」13.9%(5)が多い。

- 2) 非明示的ストラテジーが少ない。

⑩ 日本語のデータに現れた非明示ストラテジーは、Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)の「強」「同等」1.4%(1)と「弱」「上→下」3.2%(1)と「同等」2.8%(1)のみである。

- 3) ⑨罵り・禁忌が非常に少ない。不満度「強」の場面においてさえ、「上→下」に現れた 3.3%(2)のみである。
- 4) 「同等」の関係では、⑥Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)が 2.8%(2)と少なく、② Eb. 改善要求(Demand for Improvement)が 25.3(18)と多い。

(表 22)(表 24)の後に、日本語の不満表明ストラテジー選択の全体的傾向の詳細をまとめた(表 23)(表 25)をつけておく。

(表 22) 日本語「強」の場面:上下関係とストラテジー

	上→下	同等	下→上
E. 明示的不満表明			
① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)	6.7%(4)	12.7(9)	10.0(4)
② Eb. 改善要求(Demand for Improvement)	11.7%(7)	25.3(18)	15.0%(6)
③ Ec. 代償要求(Asking for Compensation)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
④ Ed. 警告・脅かす(Warning and Threatening)	1.7%(1)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)	33.3%(20)	47.9%(34)	30.0%(12)
⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)	21.7%(13)	2.8%(2)	27.5%(11)
⑦ Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies)	18.3%(11)	7.0%(5)	5.0%(2)
⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉 (Using Word with Negative Meaning)	3.3%(2)	2.9%(2)	12.5%(5)
⑨ Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)	3.3%(2)	0.0%(0)	0.0%(0)
F. 非明示的不満表明			
⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)	0.0%(0)	1.4%(1)	0.0%(0)
⑪ Fg. 比喩 (Using Metaphor)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑫ Fh. 婉曲的な表現 (Using Euphemism)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑬ Fi. 相手を特定せず一般化する (Using Ambiguous Insults)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑭ Fj. 他のものに不満を持つふりをする (Attacking Others Related to the Target)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
合計	100.0%(60)	100.0%(71)	100.0%(40)

□ 0.0%- 1%未満 □ 1%- 10%未満 ■ 20%未満 ■ 20%以上

(表 23) 日本語不満表明ストラテジー全体的傾向の詳細

日本語「強」の場面

(1)「上→下」「同等」「下→上」の全てに 10%以上使用されたストラテジー

- ⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation) 33.3%(20) 、47.9%(34)、 30.0%(12)
- ② Eb. 改善要求(Demand for Improvement) 11.7%(7)、 25.3(18) 、15.0%(6)

(2)全く使われなかったストラテジー

- ③ Ec. 代償要求(Asking for Compensation)
- ⑪ Fg. 比喩 (Using Metaphor)
- ⑫ Fh. 婉曲的な表現 (Using Euphemism)
- ⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する(Using Ambiguous Insults)
- ⑭ Fj. 他のものに不満を持つふりをする(Attacking Others Related to the Target)

(3)「上→下」「同等」「下→上」其々で使われるストラテジー(10%以上)

「上→下」の特徴は、⑤⑥⑦のストラテジーが集中的に使用されている。

- ⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)
- ⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)
- ⑦ Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies)
- ② Eb. 改善要求(Demand for Improvement)

「同等」の特徴は、⑤と②のストラテジーが集中的に使用されている。

- ⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)
- ② Eb. 改善要求(Demand for Improvement)
- ① Ea. 理由・説明要求(Asking for Reason and Explanation)

「下→上」の特徴は、⑤と⑥のストラテジーが集中的に使用されている。

- ⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)
- ⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)
- ⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)
- ① Ea. 理由・説明要求(Asking for Reason and Explanation)

(表 24)日本語の「弱」の上下関係とストラテジー

	上→下	同等	下→上
E. 明示的不満表明			
① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)	3.2%(1)	5.6%(2)	0.0%(0)
② Eb. 改善要求(Demand for Improvement)	12.9%(4)	11.1%(4)	0.0%(0)
③ Ec. 代償要求(Asking for Compensation)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
④ Ed. 警告・脅かす(Warning and Threatening)	3.2%(1)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)	32.3%(10)	44.4%(16)	0.0%(0)
⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)	9.7%(3)	16.6%(6)	0.0%(0)
⑦ Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies)	29.0%(9)	5.6%(2)	0.0%(0)
⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉 (Using Word with Negative Meaning)	6.5%(2)	13.9%(5)	0.0%(0)
⑨ Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
F. 非明示的不満表明			
⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)	3.2%(1)	2.8%(1)	0.0%(0)
⑪ Fg. 比喩 (Using Metaphor)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑫ Fh. 婉曲的な表現 (Using Euphemism)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する (Using Ambiguous Insults)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑭ Fj. 他のものに不満を持つふりをする (Attacking Others Related to the Target)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
合計	100.0%(31)	100.0%(36)	0.0%(0)

□ 0.0%– 1%未満 □ 1%– 10%未満 ■ 20%未満 ■ 20%以上

(表 25) 日本語不満表明ストラテジー全体的傾向の詳細

日本語「弱」の場面

日本語では、「弱」「下→上」については、場面数0でストラテジーのデータそのものがない。

(1)「上→下」「同等」の両方に表れたストラテジー

- ⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation) 32.3%(10) 、44.4%(16)
- ② Eb. 改善要求(Demand for Improvement) 12.9%(4)、11.1%(4)

(2)全く使われなかったストラテジー

- ③ Ec. 代償要求(Asking for Compensation)
- ⑨ Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)
- ⑪ Fg. 比喩 (Using Metaphor)
- ⑫ Fh. 婉曲的な表現 (Using Euphemism)
- ⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する(Using Ambiguous Insults)
- ⑭ Fj. 他のものに不満を持つふりをする(Attacking Others Related to the Target)

(3)「上→下」「同等」其々で使われるストラテジー(10%以上)

「上→下」の特徴は、⑤⑦②のストラテジーが集中的に使用されている。

- ⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)
- ⑦ Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies)
- ② Eb. 改善要求(Demand for Improvement)

「同等」の特徴は、⑤⑥⑧②のストラテジーが集中的に使用されている。

- ⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)
- ⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)
- ⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)
- ② Eb. 改善要求(Demand for Improvement)

5.2.2 タイ語の不満表明:上下関係と戦略選択の全体的傾向

次に、タイ語の戦略選択の全体的傾向を見る。(表 26)はタイ語の「強」場面において、(表 28)はタイ語の「弱」の場面において、「上→下」「同等」「下→上」のそれぞれの相手に対して、どのような戦略を用いて不満表明が行われたかを示したものである。タイ語の「強」と「弱」の場面に現れた上下関係別戦略選択の特徴をまとめると以下のようになる。

ただし、タイ語では、「下→上」については、不満表明の場面そのものが少なく、「強」「弱」どちらの場面においても、目上の相手に対しては不満表明そのものをしない傾向がある。「下上」の不満表明は、「強」3 場面、「弱」1 場面のみであり、戦略のデータそのものが少ないため、戦略の使用傾向の割合は参考と考えていただきたい。

<タイ語の不満表明戦略選択の全体的傾向>

1) タイ語では、「強」「弱」のどちらの場面でも⑤Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)と⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)、⑦ Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies)が多い。

⑤Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation):

「強」「上→下」34.3%(12)、「強」「同等」29.6%(24)

「弱」「上→下」21.2%(7)、「弱」「同等」26.6%(21)

⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)

「強」「上→下」14.3%(5)、「強」「同等」16.1%(13)

「弱」「上→下」12.1%(4)、「弱」「同等」16.4%(13)

⑦ Eec1) 付加方略(Supporting Strategies)

「強」「上→下」11.4%(4)、「強」「同等」21.0%(17)

「弱」「上→下」12.1%(4)、「弱」「同等」17.7%(14)

「強」の場面では、次に② Eb. 改善要求(Demand for Improvement)と⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)が多い。② Eb. 改善要求(Demand for Improvement)は、「上→下」8.6%(3)、「同等」11.1%(9)で、⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)は、「上→下」5.7%(2)、「同等」11.1(9)である。

「弱」の場面では、次に、⑧ Eec2)否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)の「上→下」18.2%と⑥「同等」19.0%(15)が多い。

2) 「強」「弱」どちらの場面においても非明示的不満表明が使用されている。特に目上から目下の相手への不満表明では、⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)が、「強」「上下」8.6%(3)、弱「上下」9.1%(3)と多い。直接的なストラテジーを避けるためであると考えられる。

(表 26)(表 28)の後に、タイ語の不満表明ストラテジー選択の全体的傾向の詳細をまとめた(表 27)(表 29)をつけておく。

(表 26) タイ語の「強」の場面: 上下関係とストラテジー

	上→下	同等	下→上
E. 明示的不満表明			
① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)	2.8%(1)	1.2%(1)	0.0%(0)
② Eb. 改善要求(Demand for Improvement)	8.6%(3)	11.1%(9)	40.0%(2)
③ Ec. 代償要求(Asking for Compensation)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
④ Ed. 警告・脅かす(Warning and Threatening)	8.6%(3)	1.2%(1)	0.0%(0)
⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)	34.3%(12)	29.6%(24)	20.0%(1)
⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)	14.3%(5)	16.1%(13)	20.0%(1)
⑦ Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies)	11.4%(4)	21.0%(17)	20.0%(1)
⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉 (Using Word with Negative Meaning)	5.7%(2)	11.1%(9)	0.0%(0)
⑨ Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)	5.7%(2)	2.5%(2)	0.0%(0)
F. 非明示的不満表明			
⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)	8.6%(3)	5.0%(4)	0.0%(0)
⑪ Fg. 比喩 (Using Metaphor)	0.0%(0)	1.2%(1)	0.0%(0)
⑫ Fh. 婉曲的な表現 (Using Euphemism)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する (Using Ambiguous Insults)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑭ Fj. 他のものに不満を持つふりをする (Attacking Others Related to the Target)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
合計	100.0%(35)	100.0%(81)	100.0%(5)

□ 0.0%- 1%未満 □ 1%- 10%未満 ■ 20%未満 ■ 20%以上

(表 27) タイ語の不満表明ストラテジー選択の全体的傾向の詳細

タイ語「強」の場面

タイ語では、「下→上」については、「強」「弱」どちらの場面においても不満表明の場面そのものが少ないが、参考としてストラテジーの使用傾向の割合を挙げておく。

タイ語「強」の場面

(1)「上→下」「同等」の両方に表れたストラテジー

- ⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation) 34.3%(12) 、29.6%(24)
- ⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion) 14.3%(5)、16.1%(13)
- ⑦ Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies) 11.4%(4)、21.0%(17)

(2)全く使われなかったストラテジー

- ③ Ec. 代償要求(Asking for Compensation)
- ⑫ Fh. 婉曲的な表現 (Using Euphemism)
- ⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する(Using Ambiguous Insults)
- ⑭ Fj. 他のものに不満を持つふりをする(Attacking Others Related to the Target)

(3)「上→下」「同等」「下→上」其々で使われるストラテジー(10%以上)

「上→下」の特徴は、⑤⑥⑦のストラテジーが集中的に使用されている。

- ⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)
- ⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)
- ⑦ Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies)

「同等」の特徴は、⑤と②のストラテジーが集中的に使用されている。

- ⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)
- ⑦ Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies)
- ⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)
- ② Eb. 改善要求(Demand for Improvement)
- ⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)

(表 28) タイ語の「弱」の上下関係とストラテジー

	上→下	同等	下→上
E. 明示的不満表明			
① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)	3.0%(1)	0.0%(0)	0.0%(0)
② Eb. 改善要求(Demand for Improvement)	15.2%(5)	7.6%(6)	100.0%(1)
③ Ec. 代償要求(Asking for Compensation)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
④ Ed. 警告・脅かす(Warning and Threatening)	6.1%(2)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑤ Eea 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)	21.2%(7)	26.6%(21)	0.0%(0)
⑥ Eeb 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)	12.1%(4)	16.4%(13)	0.0%(0)
⑦ Eec1 付加方略 (Supporting Strategies)	12.1%(4)	17.7%(14)	0.0%(0)
⑧ Eec2 否定的な意味を持つ言葉 (Using Word with Negative Meaning)	18.2%(6)	19.0%(15)	0.0%(0)
⑨ Eec3 罵り・禁忌(Using Swear Word)	0.0%(0)	3.8%(3)	0.0%(0)
F. 非明示的不満表明			
⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)	9.1%(3)	6.3%(5)	0.0%(0)
⑪ Fg. 比喩 (Using Metaphor)	3.0%(1)	1.3%(1)	0.0%(0)
⑫ Fh. 婉曲的な表現 (Using Euphemism)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する (Using Ambiguous Insults)	0.0%(0)	1.3%(1)	0.0%(0)
⑭ Fj. 他のものに不満を持つふりをする (Attacking Others Related to the Target)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
合計	100.0%(33)	100.0%(79)	100.0%(1)

□ 0.0%- 1%未満 □ 1%- 10%未満 ■ 20%未満 ■ 20%以上

(表 29) タイ語の不満表明戦略—選択の全体的傾向の詳細

タイ語「弱」の場面

タイ語では、「下→上」については、「強」「弱」どちらの場面においても不満表明の場面そのものが少なく、② Eb. 改善要求(Demand for Improvement) 1 個のみであるが、参考として戦略の使用傾向の割合を挙げておく。

(1)「上→下」「同等」の両方に表れた戦略

- ⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation) 21.2%(7) 、26.6%(21)
- ⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)
18.2%(6)、19.0%(15)
- ⑦ Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies) 12.1%(4)、17.7%(14)
- ⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion) 12.1%(4)、16.4%(13)

(2)全く使われなかった戦略

- ③ Ec. 代償要求(Asking for Compensation)
- ⑫ Fh. 婉曲的な表現 (Using Euphemism)
- ⑭ Fj. 他のものに不満を持つふりをする(Attacking Others Related to the Target)

(3)「上→下」「同等」其々で使われる戦略(10%以上)

「上→下」の特徴は、⑤⑦②の戦略が集中的に使用されている。

- ⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)
- ⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)
- ② Eb. 改善要求(Demand for Improvement)
- ⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)
- ⑦ Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies)

「同等」の特徴は、⑤⑥⑧②の戦略が集中的に使用されている。

- ⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)
- ⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)
- ⑦ Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies)
- ⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)

5.1.3 日本語とタイ語の不満表明:上下関係と戦略ー選択の全体的傾向の対照

上下関係と戦略ー選択の全体的傾向について、日本語とタイ語を比較すると以下のよう
にまとめられる。

＜日タイの比較:上下関係と戦略ー選択＞

- 1) タイ語は、日本語に比べて F.非明示的不満表明の使用が多い。
- 2) タイ語では多様な戦略ーが使用される傾向があり、日本語では、⑤Eea) 修辭的疑問
(Using Rhetorical Interrogation)、② Eb. 改善要求(Demand for Improvement)、⑦ Eec1) 付
加方略(Supporting Strategies)の3つの戦略ーに集中している。
- 3) 両言語で、⑤Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical rogation)が「強」「弱」どちらの場面でもよく
使われる。それ以外によく使われる戦略ーは日本語とタイ語では異なる。
日本語:② Eb. 改善要求(Demand for Improvement)
タイ語:⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)
⑦ Eec1) 附加方略(Supporting Strategies)
- 4) 不満度の「強」「弱」によって異なる戦略ーは、
日本語「強」:①Ea. 理由・説明要求(Asking for Reason and Explanation)
「弱」:⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)
① Ea. 理由・説明要求(Asking for Reason and Explanation)
⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)
タイ語「強」:② Eb. 改善要求(Demand for Improvement)
⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative eaning)。
「弱」:⑧ Eec2)否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)

5.3 不満程度「強」の場面で用いられる言語ストラテジー

5.2 では、不満の「強」「弱」の場面における。上下関係とストラテジー選択の全体像を見た。5.3 では、不満程度の強い「強」の場面について、どのような言語ストラテジーが使用されているを「上→下」「同等」「下→上」順番に親疎関係と共に見ていこう。各表に、ストラテジーの出現回数を示す。

5.3.1 「強」の場面における、上下、親疎関係とストラテジーの選択

まず、「上→下」「同等」「下→上」のそれぞれにおいて、日本語とタイ語のストラテジー選択がどのように異なるかを見てみよう。

5.3.1.1 「強」「上→下」に出現したストラテジー

(表 30) 「強」「上→下」に出現した不満表現

出現した不満表明の分類	日本語		タイ語	
	親	疎	親	疎
E. 明示的不満表明				
① Ea. 理由・説明要求	6.1%(2)	7.1%(2)	10.0%(1)	0.0%(0)
② Eb. 改善要求	9.1%(3)	14.3%(4)	0.0%(0)	12.0%(3)
③ Ec. 代償要求	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
④ Ed. 警告・脅かす	3.0%(1)	0.0%(0)	0.0%(0)	12.0%(3)
⑤ Eea) 修辭的疑問	27.3%(9)	39.3%(11)	40.0%(4)	32.0%(8)
⑥ Eeb) 主張表現	21.2%(7)	21.4%(6)	40.0%(4)	4.0%(1)
⑦ Eec1) 付加方略	24.2%(8)	10.7%(3)	0.0%(0)	16.0%(4)
⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉	3.0%(1)	3.6%(1)	0.0%(0)	8.0%(2)
⑨ Eec3) 罵り・禁忌	6.1%(2)	0.0%(0)	0.0%(0)	8.0%(2)
F. 非明示的不満表明				
⑩ Ff. 皮肉・冗談	0.0%(0)	0.0%(0)	10.0%(1)	8.0%(2)
⑪ Fg. 比喩	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑫ Fh. 婉曲的な表現	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑭ Fj. 他のものに不満を持つふりをする	0.0%(0)	3.6%(1)	0.0%(0)	0.0%(0)
合計	100.0%(33)	100.0%(28)	100.0%(10)	100.0%(25)

□ 0.0%– 1%未満 □ 1%– 10%未満 ■ 20%未満 ■ 20%以上

(1) 両言語の共通点

1) 「上→下」「親疎」に関わらず日タイ両言語において使われる戦略

表(6)に示すように、両言語において、⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)、⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion) の使用が見られた。表(6)に示したように、不満程度「強」の場面において、「上→下」の関係で行われる不満表明には、日本語の場合は⑤、⑥、⑦、タイ語の場合には⑤、⑥の戦略の出現数が多い。

2) 「親」の場面で、両言語ともに見られた戦略

「親」の場面では、両言語ともに見られた戦略は、① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation) である。

3) 「疎」の場面で、両言語ともに見られた戦略

「親」の場面では、両言語ともに見られた戦略は、② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)、⑦ Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies)、⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉 (Using Word with Negative Meaning) である。

4) 日タイ両言語において使われない戦略

日タイ両言語において使われない戦略は、③ Ec. 代償要求 (Asking for Compensation)、⑪ Fg. 比喩 (Using Metaphor)、⑫ Fh. 婉曲的な表現 (Using Euphemism) と⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する (Using Ambiguous Insults) である。

(2) 両言語の相違点

両言語での戦略の相違は、① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)、② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)、④ Ed. 警告・脅かす (Warning and Threatening)、⑦ Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies)、⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉 (Using Word with Negative Meaning)、⑨ Eec3) 罵り・禁忌 (Using Swear Word)、⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke) と⑭ Fj. 他のもものに不満を持つふりをする (Attacking others related to the target) に見られた。

日本語とタイ語の特徴は、以下の点が指摘できる。

1) 日本語にしか出現しない言語ストラテジー

ア. 日本語の「親」の場面でしか出現しない言語ストラテジーは、② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)、④ Ed. 警告・脅かす (Warning and Threatening)、⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉 (Using Word with Negative Meaning) と⑨ Eec3) 罵り・禁忌 (Using Swear Word) である。

例(82)-JP ② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)の例

上司が会社を辞めたい部下に対して不満を表明する。

01A: 書き込み見た人から会社にも何回か問い合わせがあったみたい。CMの方も降りなきゃならなくなると思う。どうして言ってくれなかったの？

02B: すみません

03A: (神山のため息)もう少し早く分かってれば、やりようがあったのに。

04B: 俺 辞めたほうがいいんですよ？

05A: ちょっと待って② 誰もそんなこと言ってないわよ

06B: いや 辞めます

07A: 武島君

『手紙』

日本語の会話例(82)の「ちょっと待って」はEb. 改善要求 (Demand for improvement)の事例である。本稿では、「～て」の依頼形は、相手の行動を止める表現であるため、Eb. 改善要求とする。

例(83)-JP ④ Ed. 警告・脅かす (Warning and Threatening)の例

A(男性)は、B(男性)よりも年上であるが、元々同じバンドのメンバーであった。ある日、Bはコンサートでベースギターを弾いているとき、前の彼女であるCを見つけた。コンサートが終わった後、Aに電話を掛けてCの電話番号を尋ねたが、電話する勇気があるかどうか分からないと言った。Aは、それを聞いてBに対して不満を表明する。

01A: ナナのダチの携帯番号教えてやるよ 合いたきゃ電話しろ

02B: 今さら どのツラさげてナナに会えっつんだ

03A: もう会う気がないんならーナナは俺がもらう④

『NANA2』

03Aは、「もう会う気がないんならーナナは俺がもらう」のように、BがAの期待していること通りに行わなければ、AはBが好ましく思わない行動をするということを述べて脅している発話である。

例(84) ⑧ Eec2)否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)と⑨ Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)の事例

例(84)-JP 最初にタレントマネジャーのAは、⑨(罵り・禁忌)を使ってスタジオに遅れて来た歌手のBに対して、不満を表明したが、その後⑧(否定的な意味を持つ言葉)を使って途中で会話に入ったCに対して不満を表明する。

- 01A: 田辺！**馬鹿野郎**⑨ 何やってたんだ
02B: すいません 寝坊しました
03A: お前は まったく
04C: もういいから 早くスタンバイして 早く
05A: **ふざけんな!**⑧

『イキガミ』

01A の「馬鹿野郎」のような「馬鹿」+「野郎」は、本稿で⑨ Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)とする不満表明のストラテジーである。また、05A の「ふざけんな」は、「ふざける」という否定的な動詞であり、さらに「ふざけるな」という否定的な定型表現にもなるため、⑧ Eec2)否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)のストラテジーである。

イ。日本語の「疎」の場面にしか出現しない言語ストラテジーは、⑭ Fj. 他のものに不満を持つふりをする(Attacking others related to the target)である。

例(85)-JP ⑭ Fj. 他のものに不満を持つふりをする(Attacking others related to the target)の事例

女性Aは会社の新入社員であり、まだ仕事がきちんとこなせない。女性の先輩に作業を頼まれたが、ちゃんと出来ていなかったため、先輩に不満を表明された。

- 01A: 小松さん！
02B: はい
03A: あなた コピーもまともにとれないの？全部 ゆがんでるわよ！
04B: ごめんなさい・・・
05A: **なんで こんな使えない子 雇うのかしら!**⑫

『NANA』

05A の「何でこんな使えない子雇うのかしら」は、「何で」の疑問詞が付いているが、相手に答えを要求している疑問文ではなく、B を雇った人間に対して不満を表明している。不満の対象となる聞き手に対して直接不満を言わずに第 3 者に対する不満を述べて、聞き手に自分の不満を津伝えている。⑭ Fj. 他のもに不満を持つふりをする(Attacking others related to the target)ストラテジーの例である。

2) タイ語にしか出現しない言語ストラテジー

ア. タイ語の「親」の場面にしか出現しない言語ストラテジーは、① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)、⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)である。日本語では、Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)の使用が見られなかったが、タイ語では、親疎関係問わず、Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)の使用が見られた。

例(86)-TH ① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)と⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)の例

A は、記憶喪失になった妻が昔のことを思い出せるように、初めて二人が出会った場所へ連れて行くことにした。しかし、会議の日程に変更があり、妻を思い出の場所に連れて行っている日に、会議が行われることになった。そのことを全く知らない A に、上司が電話をかけてきて不満を表明する。

01A: มีประชุมด่วนอะ ทำไมไม่มา ①

ある 会議 緊急 文末詞 なぜ 否定形 来る

(緊急会議があるぞ。なんで来ない?)

02B: แต่ประชุม มันอีกสองวันข้างหน้าไม่ใช่หรอครับ นี่ผมยังอยู่สุดหีบอยู่เลย

しかし 会議 代名詞 後 2日 さき じゃない 確認疑問 文末詞 これ 僕 まだ いる サッタヒーブ(地名)

進行形 強調詞

(でも、会議はあさってではないですか? 今、まだサッタヒーブにいます。)

03A: นี้คุณไม่ได้เช็คเมลหรือไง เค้าเดือนมาเป็นวันนี้แล้ว นี่ยังมีอะไรสำคัญกว่างานอีกหรือคุณราเชนทร์ อย่างนี้ก็แล้วกัน คุณก็

อยู่ที่นั่นแหละ อยู่ไปเลย⑩ ผมได้คุณออก

これ あなた していない チェック メール 確認疑問 彼ら 変える 来る なる 今日 完了形 これ まだ 未来形 ある 何 大切 より 仕事 他に 確認疑問 さん ラーシェーン(人名) こう しましょうか あなた 強調詞 いる あそこ 文末詞 いる いく 強調詞 私 あなたを首にする

(メール見てなかったのか? 今日に変わったんだぞ。仕事よりも一体どんな大事なことがあ

るんだ？

じゃ、こうしようか。そこにずっと住めば？あなたをクビにする。）

(ファン)

上司のAは、最初に01Aの「ทำไมไม่มา(何で来ない?)」と、Bが会議に参加しなかった理由を尋ねている。そして、会話の終わりに03Aの「อย่างนี้ก็แล้วกัน คุณก็อยู่ที่นั่นแหละ อยู่ไปเลย(じゃ、こうしようか。そこにずっと住めば?)」という皮肉のストラテジーを用いた不満表明を行っている。

イ. タイ語の「疎」の場面にしか出現しない言語ストラテジーは、④ Ed. 警告・脅かす(Warning and Threatening)、⑨ Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)と⑩ Ff. 皮肉・冗談(Using Verbal Irony and Joke)である。

例(87)-TH ④ Ed. 警告・脅かす(Warning and Threatening)(15) ⑨ Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)の事例

Bは、不注意で缶を蹴り飛ばしてしまいAの車に缶を当ててしまった。Aは車から降りてBに不満を表明する。

01A: ข้า^⑨รถแพงนะโว้ย

コレラ 車 俺 高い よ ぞ

(コレラ! 俺の車高いんだぞ)

02B: อ้าว ไฉนหึ้ย กูบอกขอโทษแล้วนี่หว่า

感嘆詞 トカゲ野郎 俺 言う すみません 完了形 じゃないか

(おい。トカゲ野郎。謝ったじゃないか)

03A: มึงตำใครไฉนหึ้ย

お前 罵る 誰 トカゲ野郎

(トカゲ野郎って誰のこと?)

04C: พี่องอาจ

呼称 オンアート(人名)

(オンアートさん)

05A: ปุ่นคบกับไอ้หนักเลงอย่างนี้หรือ

ブン(人名) 付き合う と やつ やんちゃな人 このような 確認疑問

(こんな人と友達なの)

06C: เอ้อ คำ คำเป็นแฟนปุ่นคะ สวัสดิ์คะ

言い淀み 彼 彼 である 恋人 บุน(人名) さよなら

(ええ、彼は私の恋人だよ。じゃね)

07A: ภูเก็ตแต่ฉันนี่มีง④

俺 否定形 終わる これで よ お前

(まだ終わっていないぞ)

(ラックオ)

01A の「हां(コレラ)」は、タイ語では、罵り語・禁忌語である。19 世紀頭にコレラがタイにおいて大流行し、死者が多く出た。怖がった庶民は「コレラ」という言葉を口にしなくなり、現在ではタブー語とされている。その時から、タイ語の「हां(コレラ)」や「野郎」がつく「ไอहां(コレラ野郎)」という定型表現は、罵り語として使用されるようになった。また、会話の終わりには、年上の A は、07A の「ภูเก็ตแต่ฉันนี่มีง(まだ終わっていないぞ)」と B に不快な言い方で警告している。

5.3.1.2 「強」「同等」に出現した不満表現

「同等」関係の場合、どの言語やどの社会においても、不満を表明する傾向があると考えられる。今回の映像資料では、友達、恋人、同僚、夫婦のような「同等」関係が見られた。

(表 31) 「強」「同等」に出現した不満表現

出現した不満表明の分類	日本語		タイ語	
	親	疎	親	疎
E. 明示的不満表明				
① Ea. 理由・説明要求	15.4%(8)	2.8% (1)	1.7% (1)	0.0%(0)
② Eb. 改善要求	11.5% (6)	34.3% (12)	12.1% (7)	8.7% (2)
③ Ec. 代償要求	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
④ Ed. 警告・脅かす	0.0%(0)	0.0%(0)	1.7% (1)	0.0%(0)
⑤ Eea) 修辭的疑問	42.3% (22)	34.3% (12)	32.8% (19)	21.7% (5)
⑥ Eeb) 主張表現	17.3% (9)	5.7% (2)	12.1% (7)	26.1% (6)
⑦ Eec1) 付加方略	1.9% (1)	14.3% (5)	19.0% (11)	26.1% (6)
⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉	9.6% (5)	5.7% (2)	10.3% (6)	13.0% (3)
⑨ Eec3) 罵り・禁忌	0.0%(0)	0.0%(0)	3.4% (2)	0.0%(0)
F. 非明示的不満表明				
⑩ Ff. 皮肉・冗談	1.9% (1)	2.8% (1)	5.2% (3)	4.3% (1)
⑪ Fg. 比喩	0.0%(0)	0.0%(0)	1.7% (1)	0.0%(0)
⑫ Fh. 婉曲的な表現	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑭ Fj. 他のものに不満を持つふりをする	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
合計	100.0%(52)	100.0%(35)	100.0%(58)	100.0%(23)

□ 0.0%- 1%未満 □ 1%- 10%未満 ■ 20%未満 ■ 20%以上

(1) 両言語の共通点

1) 「上一下」「親疎」に関わらず日タイ両言語において使われるストラテジー

表(7)に示すように、両言語において、② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)、⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)、⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)、⑦ Eec1) 付加方略(Supporting Strategies)と⑧ Eec2)否定的な意味を持つ言

葉(Using Word with Negative Meaning)、⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)の使用が見られた。

2) 「親」の場面で、両言語ともに見られたストラテジー

「親」の場面で、両言語ともに見られたストラテジーは、① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)である。

3) 日タイ両言語において使われないストラテジー

日タイ両言語において使われないストラテジーは、③ Ec. 代償要求(Asking for Compensation)、⑫ Fh. 婉曲的な表現 (Using Euphemism)、⑬ Fh. 婉曲的な表現 (Using Euphemism)と⑭ Fi. 相手を特定せずに一般化する(Using Ambiguous Insults)である。

(2) 両言語の相違点

両言語での不満表明ストラテジーの相違は、① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)、④ Ed. 警告・脅かす(Warning and Threatening)、⑨ Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)、⑪ Fg. 比喩(Using Metaphor)に見られた。

日本語とタイ語の特徴は、次のようである。

1) 日本語にしか出現しないストラテジー

不満程度が「強」の場面において、人間関係が「同等」の場合に、日本語にしか出現しない言語ストラテジーはなかった。

2) タイ語にしか出現しない言語ストラテジー

ア. タイ語の不満程度が「強」で人間関係が「同等」の中でも、「親」の場面にしか出現しない言語ストラテジーは、④ Ed. 警告・脅かす(Warning and Threatening)、⑨ Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)、⑪ Fg. 比喩(Using Metaphor)である。

例(88)-TH ④ Ed. 警告・脅かす(Warning and Threatening)の事例

休みの日に、旦那であるAは仕事に行こうとするが、妻Bは一緒に家にいてほしいと思っており、Aと喧嘩になり、不満を表明する。

01A: นี่หวาน หวานกำลังจะทำให้เซตตเครื่องอะ งานเซตมันก็ปั่นปั่นแบบนี้อะแหละ หวานยังไม่ชินอีกหรือไง แล้วครั้งนี้มันสำคัญกับเจามากนะหวาน

これ ワーン(人名) ワーン(人名) している 未来形 させる 落ちる 飛行機 文末詞 仕事 シェーン(人名) 代名詞 も 急に このように 文末詞 文末詞 ワーン(人名) まだ ~ない 慣れる もう 疑問詞 そして 今

回 代名詞 大切 と 私たち ととも よ ワーン(人名)

(ワーン!、飛行機に間に合わなくなるかもしれないよ。僕の仕事はこんなだ。まだ慣れていないのか。今回の仕事は私たちにとって大切なんだよ。)

02B: อย่ามาเรียนนะ เซน มันสำคัญกับใครกันแน่ ตัวเซน เซนก็มีแต่ตัวเองทั้งนั้นอะ ไม่เคยคิดถึงหวานหรือ

～しないで 来る 私たち よ シェーン(人名) 代名詞 大事 と 誰 お互い 確かに 自分 シェーン(人名) シェーン(人名) も ある だけ みずから 全然 文末詞 したことない 考える こと ワーン(人名)

(私たちって言わないでよ。誰にとって大切だって?。あなたは自分のことしか考えてないじゃない。私のことを考えてないじゃない。)

03A: อย่ามาชวนทะเลาะตอนนี้ได้มะ จะทะเลาะเมื่อไหร่ก็ได้ แต่ขออภัยล่วงหน้าไม่ใช่วันนี้ ตอนนี่ เพราะว่าเซนต้องไปแล้ว เรื่องบ้า ๆ พวกนี้เนี่ย เราคุยกันตั้งหลายทีแล้วไงหวาน

～しないで 来る 誘う 喧嘩 今 可能形 疑問詞 未来形 喧嘩 いつでも できる しかし 頼む 文末詞 ワーン(人名) ではない 今日 今 から シェーン(人名) 義務形 行く 完了形 話 馬鹿 反復記号 たち これ 強調詞 私たち 話す お互いにも 回数 完了形 ワーン(人名)

(今喧嘩しないで。喧嘩はいつでもいいけど、今日、今しないで、お願い。もう行かなきゃ。こんな馬鹿な話何回もしたよ。)

04B: เซน เซนปฏิเสธคนอื่นเพื่อหวานสักครั้งไม่ได้หรือเซน ในหัวเซนมีแต่งาน ๆ ๆ มีแต่คนอื่น ๆ อะ นี่มันวันหยุดนะเซน มันก็เป็นวันของหวานด้วยนะเซน

シェーン(人名) シェーン(人名) 断る 他の人 のため ワーン(人名) 一度 できない 疑問詞 シェーン(人名) 中 頭 シェーン(人名) ある だけ 仕事 反復記号 ある だけ 他の人 反復記号 文末詞 これ 代名詞 休み よ シェーン(人名) 代名詞 も である 日 の ワーン(人名) も よ シェーン(人名)

(シェーン、私のために断ってくれない? 頭の中、仕事のことと他人のことばかり。今日は休みなんだよ、私の休みでもあるんだよ。)

05A: อยู่บ้านเฉย ๆ เนี่ย ใคร ๆ เค้าก็อยากอยู่กับทั้งนั้นแหละหวาน แล้วนี่มันอะไร ห๊ะ ฐู่มั้ยนี่อะไร แล้วจะให้อยู่เฉย ๆ ได้ไงเล่า หวาน เซนขออภัย เข้าใจเซนหน่อยได้มั๊ยงานมันกำลังไปได้ดี ซึ่งมันก็หมายถึงความสุขแล้วก็ชีวิตที่ดีขึ้นของเราสองคน

いる 家 じっとしている 強調詞 誰 反復記号 代名詞 も ~したい いる お互いに 全然 文末詞 ワーン(人名) そして これ 代名詞 何 感嘆詞 分かる 確認疑問詞 これ 何 そして 未来形 する させる いる じっとしている 可能形 じゃない 文末詞 シェーン(人名) 頼む 分かる シェーン(人名) ちょっと できますか 仕事 代名詞 している 行く 可能形 良い 代名詞 代名詞 も 意味をする 幸せ そして 生活 代名詞 良い 上がる の 私たち 2人

(家でじっとしているのは、誰でもしたいことだよ。でも、これは何だ!?分かるでしょ、これは何だ。じっとしているできるのか? ワーン、お願い。私を分かってくれ。今、仕事だんだん良くなって来て、私たちの生活が良くなって幸せになるにきまっているよ。)

06B: เซน ถ้าไปอะ เราเลิกกัน

シェーン もし 行く 文末詞 私たち 別れる お互いに

(行ったら、私たちもう終わりだよ)

(ファン)

例(88)は、夫婦喧嘩の会話であり、06Bの「เซน ถ้าไปอะ เราเลิกกัน(行ったら、私たちもう終わりだよ)」は、④ Ed. 警告・脅かす(Warning and Threatening)のストラテジーである。

例(89)-TH ⑨ Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)の事例
ダンスをやめようとするBアートに対して、友人のAが強い不満を表明している。

01A: ไออาร์ท ไอเหี้ย⑨ มึงจะรีบกลับเลยทำไมวะ อยู่คิดหาทางกันก่อนดี มึงเดินเป็นอะ

奴 アート(人名) 奴 トカゲ お前 未来形 急ぐ 帰る すぐ なぜ 男性の文末詞 いる 考える 探す 方法 お互いに 先に 依頼形 お前 ダンス できる 文末詞

(アート、トカゲ野郎、何で早く家に帰るんだ？一緒にいて色々考えようよ。お前踊れるから。)

02B: ไม่เดินอะ ไม่ชอบให้ใครมาบังคับ

しない ダンス 文末詞 しない 好き させる 誰 来る 強制する

(踊らない。強制されるのは嫌だ。)

03C: ไออาร์ท แล้วอาร์ทจะทิ้งพวกเราไปเฉยๆ ได้ไงอะ

感嘆詞 アート(人名) それで アート(人名) 未来形 捨てる 私たち 行く そのまま

反復記号 可能形 どのように 文末詞

(ああ、アート。何もせずに私達を捨てるわけ。)

04A: ไอสัตว์⑨ อาร์ท มึงรับผิดชอบหน่อยดิวะ เฮ้ย ไอเหี้ย⑨ ไม่ใช่มีคนเดียวนะเว้ย รุ่นพี่ก็เล่นงานทุกคนอะ

奴 動物 アート(人名) お前 責任を持つ ちょっと 依頼形 文末詞 感嘆詞 奴 トカゲ ではない お前 一人 よ 文末詞 先輩 も やる 皆 文末詞

(アートめええ、動物野郎。いい加減にしろよ。おい、トカゲ野郎。おめえ1人じゃないんだよ。皆が先輩に怒られるんだよ。)

(ラックオー)

タイ語において、01Aと04Aの「ไอเหี้ย(トカゲ野郎)」や、04Aの「ไอสัตว์(動物野郎)」は、罵り語として不満の場面でよく見られた。

例(90)-TH ⑪ Fg. 比喩(Using Metaphor)の事例

男性Aと女性Bは、2年前まで付き合っていたが、家柄の差が大きく異なるため、AはこっそりとBから離れていた。2年後、2人は再会する。Bが2年前の話をしてAに不満を表明しようと

すると、Aの方も、Bに不満を表明する。

01A: เธอเคยคิดเพื่อเราบ้างมั๊ยว่าพ่อของเธอจะมองคนอย่างเราว่ายังไง หรือคิดเองไม่เป็น ทำอะไรด้วยตัวเองก็ไม่ได้ ต้อง
เปลี่ยนไปทางนู่นที่ ทางนี่ที่ ทำตัวไรค์อย่างกับปูเสฉวนนะ

あなた したことがある 考える もしものために 私 ちょっと 疑問詞 と 父親 の あなた 未来形 見る
人 のように 私 どのように 疑問詞 考える 自分で できない する 何 で 自分 も できない しなけれ
ばならない 変える 行く あちら こちら 行為する 価値のない のように ヤドカリ 文末詞

(私のことまで考えてくれた?あなたのお父さんは、どのように私のことを考えているとか。自
分で考えられないのかよ!自分で何もできないわけ?あっちこっちふらふら動いて、ヤドカリの
ようにふらふら歩いているじゃないか)

02B: ก็ได้ ชั้นมันปูเสฉวน จันก็ถือว่าชั้นไม่เคยมาที่นี่ แล้วเราก็ไม่ต้องเจอกันอีก

も 可能形 私 代名詞 ヤドカリ それでは も と考えれる 私 したことない 来る ここ そして 私たち も
否定形 義務形 合う お互いに また

(いいよ。私はヤドカリだよ。じゃ、ここに来た事がないように考えたらいいし、もう会わなくてもいい。)

(ファン)

例(90)の場合、元彼氏 A は、いつも父親の使命どおりに行動をするお嬢様の B をヤドカリにたとえている。タイ語では、ヤドカリは、まっすぐ歩けず、右に行ったり左に行ったりするため、自分で自分のことを決められない人によく例えられる。この場合、「อย่างกับ(のように)」が付くため、比喩のストラテジーである事がはっきり分かる。

4.2.1.3 「強」「下→上」に出現した不満表現

(表 32)に示したように、「下→上」の人間関係における不満表現は、両言語において事例数の割合がもっとも少なかった。さらに、タイ語は日本語の半分以下の事例数であった。タイ語では、不満度が「強」の場面であっても、下から上に対して不満を表明しにくいようである。また、下記の(表 32)のように、今回のデータに表れた戦略は、日本語において用いられる戦略には多様性が見られるのに対して、タイ語は、② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)、⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)と⑦ Eec1) 付加方略(Supporting Strategies)の3種類だけであった。

(表 32) 「強」「下→上」に出現した不満表現の有無表

出現した不満表現の分類	日本語		タイ語	
	親	疎	親	疎
E. 明示的不満表現				
① Ea. 理由・説明要求	18.2%(2)	6.9%(2)	0.0%(0)	0.0%(0)
② Eb. 改善要求	9.1%(1)	17.2%(5)	0.0%(0)	40.0%(2)
③ Ec. 代償要求	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
④ Ed. 警告・脅かす	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑤ Eea) 修辭的疑問	36.3%(4)	27.6%(8)	40.0%(2)	20.0%(1)
⑥ Eeb) 主張表現	9.1%(1)	34.5%(10)	40.0%(2)	20.0%(1)
⑦ Eec1) 付加方略	9.1%(1)	3.5%(1)	0.0%(0)	20.0%(1)
⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉	18.2%(2)	10.3%(3)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑨ Eec3) 罵り・禁忌	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
F. 非明示的不満表現				
⑩ Ff. 皮肉・冗談	0.0%(0)	0.0%(0)	20.0%(1)	0.0%(0)
⑪ Fg. 比喩	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑫ Fh. 婉曲的な表現	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑭ Fj. 他のものに不満を持つふりをする	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
合計	100.0%(11)	100.0%(29)	100.0%(5)	100.0%(5)

□ 0.0%– 1%未満 □ 1%– 10%未満 ■ 20%未満 ■ 20%以上

(1) 両言語の共通点

1) 「下→上」「親疎」に関わらず日タイ両言語において使われる言語ストラテジー

表(8)に示すように、両言語において、⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)が使われる。

2) 「親」の場面で、両言語ともに見られた言語ストラテジー

「親」の場面で、両言語ともに見られた言語ストラテジーは⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)である。

3) 「疎」の場面で、両言語ともに見られた言語ストラテジー

「疎」の場面で、両言語ともに見られた言語ストラテジーは② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)と⑦ Eec1) 付加方略(Supporting Strategies)である。

4) 日タイ両言語において使われない言語ストラテジー

日タイの両言語において、本研究の対象となるデータに見られなかったストラテジーは、③ Ec. 代償要求(Asking for Compensation)、④ Ed. 警告・脅かす(Warning and Threatening)、⑨ Eec3) 罵り・禁忌 (Using Swear Word)、⑪ Fg. 比喩(Using Metaphor)、⑫ Fh. 婉曲的な表現 (Using Euphemism)、⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する (Using Ambiguous Insults)である。

(2) 両言語の相違点

日本語タイ語の両言語において、① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)、② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)、⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)、⑦ Eec1) 付加方略(Supporting Strategies)、⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)、⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)のストラテジー相違が見られた。

不満度「強」「下→上」の場面における、不満表明のストラテジーの日本語とタイ語の特徴は、次のようである。

1) 日本語にしか出現しない言語ストラテジー

ア. 日本語の「親」の場面にしか出現しない言語ストラテジーは、① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)、② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)、⑦ Eec1) 付加方略(Supporting Strategies)と⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with

Negative Meaning)である。

例(91)–JP ① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation) と② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)の事例

後輩 A(男性)が、先輩 B(男性)に対して、不満を表明する。

01A: おお 竹本

02B: 何やってんすか 森田さん①

03A: え? いや そこで何かハンターにハントされてた つーかお前こそ何やってんだよ こんなとこまで

04B: 今 はぐちゃんがどういう状態が知ってますか?

05A: ああ

06B: だったら何で何もしないんです? 何でテレビなんか出てるんです? 今 はぐちゃんを支えられるのは花本先生でもなくてももちろん僕でもなくて森田さんだけなんですよ。たぶん

07A: いや 俺に何かできることなんてないでしょう。

08B: あるはずですよ。ちゃんと考えてください。②俺には考えても考えても分からないけど森田さんならきっと分かるはずですよ。

『ハチミツ』

02B の「何やってんすか 森田さん」は、普通の疑問文であり、次に来る 03A が 02B に対する答えとなっているため、02B は、① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)のストラテジーに分類される。それに対して、04B は、形は疑問文であるが、会話の文脈から考えると、A は B が知っているかどうかを聞きたいのではなく、今はぐちゃんという人物が困った状態になっているという情報を伝えると同時に、B さんに不満表明をする働きを持っている。そして、08B「ちゃんと考えてください」は、② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)の例である。08B「ちゃんと考えてください。」は、「～てください」の言語形式であるため、B さんが A さんに対してある行為を改善してもらうように要求している。

例(92)–JP ⑦ Eec1) 付加方略(Supporting Strategies)と⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉 (Using Word with Negative Meaning)の事例

A は病気で妻を亡くし、子供である B を捨てた。ある日、会いに戻ってきた父親 A に対して B は不満を表明する。

- 01A : 手紙は読んでくれたか？
- 02B : **もう**② 帰って 駅 そこだから
- 03A : 杏 お父さんー お母さんの病気のことは気がつかなかったんだ
: あっ だから 何て言ったらいいか すまん
- 04B : お母さん 病気なんかじゃないから **卑怯だよ**⑧ **お父さん** お母さんを…
: お母さんを殺したの お父さんじゃん

『砂時計』

例(92)の 02B の「もう」は、不満を表明する機能を持つ言葉である。この場面で「帰って」という改善要求のストラテジーの前に「もう」を付けると、より強く不満を表明することができると考えられる。また、04B の「卑怯だよ お父さん」は、「卑怯」という否定的な意味を持つ言葉を使用しているため、⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)のストラテジーとなる。

イ. 日本語の「疎」の場面にしか出現しない言語ストラテジーは、① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)と⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)である。

例(93)–JP ① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)と⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)の事例
障害を抱える学生である A は、手伝ってくれない先生 B に対して不満を表明する。

- 01A: できないって 言ってるんです **どうして手伝ってくれないんですか？**①
- 02B: やって見なければわかりません 自分でやりなさい すべて訓練です
- 03A: 練習 練習って 軍隊で兵隊になるんじゃないです。引っ込み思案のこの子が思い切って頼んだんです。少しは人の気持ちを考えてみてください。
- 04C: やめよう もういいよ
- 05A: **よくない**⑧
- 06B: そう よくない 可哀想だから何でもやってあげるそういう考え方は決していい事じゃない。やりもしないでできないなんてそんな考えじゃだめよ。

『一リットル』

2) タイ語にしか出現しない言語ストラテジー

タイ語の「親」の場面にしか出現しない言語ストラテジーは、⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)である。

例(94)-TH ⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)の事例

女性の A は、バンコクにある某コンピュータープログラム会社で働いているが、夫が難病にかかったため、田舎で夫の面倒を見ることになる。ある日、突然、仕事について問題があり、A に聞きたいことがあると、40代の親しいボスの B から連絡が来た。A は夫のことが心配なので、バンコクに行けないと何回もボスに言うのだが、どうしてもバンコクに来てほしいと言われ、我慢の限界に来た A は、ボスの B に不満を表出する。

01A: ค่ะ ส่งไปแล้วนี่คะ มีปัญหาอะไรหรือคะ หัวหน้า

応答 送る 行く 完了系 これ 文末詞 ある 問題 何 疑問詞 文末詞 上司

(はい。送りましたよ。何か問題あったんですか?、XX)

02B : (映像資料に台詞なし)

03A : ดิวลงไปไม่ได้หรอกคะ หัวหน้า ส่งไปทางเมลไม่ได้หรอกคะ

デュー(人名) 下がる 行く 出来ない 文末詞 文末詞 上司 送る 行く

方法 メール 出来ない 疑問詞 文末詞

(行けないと思いますよ、XX。電子メールで送れないですか?)

04B : (映像資料に台詞なし)

05A : ดิวลงไปไม่ได้จริง ๆ ค่ะ หัวหน้าก็รู้นี่คะว่าดิwmมีปัญหาอะไรอยู่

デュー(人名) 下がる 行く 出来ない 本当 反復記号 文末詞 上司 も 分

かる これ 文末詞 と デュー(人名) ある 問題 何 している

(本当に行けません。今私には何の問題があるのか知ってますね?)

06B : (映像資料に台詞なし)

07A : ลงไปไม่ได้คะ

下がる 行く 出来ない 文末詞

(行けません!)

08B : (映像資料に台詞なし)

09A : ก็บอกว่าลงไปไม่ได้ไง ไม่มีหัวใจกันบ้างหรือยังงั้นอะ

ใครจะเป็นยังไงก็ช่างไม่สนใจเลยใช่ไหม ดิวไม่ทำแล้ว หัวหน้าจะเอาไปให้ใครทำก็เอาไปเถอะคะ หรือจะเลิกจ้างดิwmไปเลยก็ได้ แค่นั้นคะ

も 言う と 下がる 行く 出来ない じゃない! ない 心 お互い ちよつと 疑問詞 文末詞

誰 未来形 なる どのように も 無視する 興味ない 全然 確認疑問詞 デュー(人名) しな

い もう 上司 未来形 取る 行く させる 誰 する も 取る 行く 依頼形 または 未来形

辞める 雇う デュー(人名) 行く 全然 でも良い 以上 文末詞 文末詞

(行けないと言っているんです。心がないのかしら。人がどれだけ困っていても気にしませんよね。もうこの仕事をしません。**誰かにやらせていいんですよ。もしくは私を首にしても良いですよ。**失礼します！)

10B : (すぐに電話を切った。)

(チョツマイ)

例(94)は、電話で不満が表明された場面である。Aは、会話の終盤で親しい上司である B に対して不満を表明しているが、突然不満を表明したわけではなく、会話を続けている間に A の不満が徐々に高まり不満を表明したと考えられる。

「強」「下→上」の場面では、9A の「หัวหน้าจะเอาไปให้ใครทำก็เอาไปเถอะค่ะ หรือจะเลิกจ้างดีไปเลยก็ได้(誰かにやらせていいんですよ。もしくは私を首にしても良いですよ。)」のような Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)のストラテジーが見られた。皮肉といったストラテジーは、容易に説明すれば、その場面に不適切や不一致なものを言うことであろう。例えば、汚い部屋に対して「お部屋綺麗ですね」という例が挙げられている。9A の場合、A は、上司に「誰かにやらせていいんですよ。もしくは私を首にしても良いですよ。」と選択肢を提案できる立場にはなく、選択肢の内容を見ると、前者は適当に「誰かにやらせていいよ」と提案している一方で、後者は「私を首にしても良いですよ」という極端な提案をしている。タイ語による、このような発話は皮肉となる。

どの社会においても社会的P(力)を持つ者に対して不満を表明するのが難しいと考えられる。また、目上の人に対しては敬意を表さなければならないという規範(Norm)が存在するであろう。一般的に、タイ語では、目下の人には目上に対して不満を表明しにくいのが、上記に挙げた例のように、不満程度が「強」の場面においては不満表明が現れることがある。

5.4 不満程度「弱」の場面で用いられる戦略

次に「弱」の場面における、上下関係、親疎関係による戦略選択の傾向を見る。不満程度「弱」は、母語話者が会話データを見て話し手があまり不満を感じていないと判断した場面である。不満程度「強」のように相手の罪を指摘しようとする目的というよりも、「冗談」「からかい」等の目的のために行われることも多い言語行動である。不満度の判定を行った母語話者には、不満ではなくむしろ単なる疑問、驚き、心配などに聞こえるという意見もあった。不満表明「弱」の場面には、どのような戦略が使用されるのかを、「上→下」「同等」「下→上」の順番に親疎関係と組み合わせながら見ていく。

5.4.1 「弱」の場面における、上下、親疎関係と戦略の選択

「弱・上→下」と「弱・同等」の場面で使用される戦略は、両言語において、E⑤ Eea) 修辞的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)～⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)が中心使用されている。

次に「上→下」「同等」「下→上」のそれぞれにおいて、日本語とタイ語の戦略選択がどのように異なるかを具体例と共に見てみよう。

5.4.1.1 「弱」「上→下」に出現したストラテジー

(表 33)「弱」「上→下」に出現した不満表現の有無

出現した不満表現の分類	日本語		タイ語	
	親	疎	親	疎
E. 明示的不満表明				
① Ea. 理由・説明要求	0.0%(0)	16.7%(1)	4.2%(1)	0.0%(0)
② Eb. 改善要求	16.0%(4)	0.0%(0)	20.8%(5)	0.0%(0)
③ Ec. 代償要求	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
④ Ed. 警告・脅かす	4.0%(1)	0.0%(0)	8.3%(2)	0.0%(0)
⑤ Eea) 修辭的疑問	32.0%(8)	33.3%(2)	8.3%(2)	55.6%(5)
⑥ Eeb) 主張表現	8.0%(2)	16.7%(1)	8.3%(2)	22.2%(2)
⑦ Eec1) 付加方略	32.0%(8)	16.7%(1)	16.7%(4)	0.0%(0)
⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉	4.0%(1)	16.7%(1)	20.8%(5)	11.1%(1)
⑨ Eec3) 罵り・禁忌	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
F. 非明示的不満表明				
⑩ Ff. 皮肉・冗談	4.0%(1)	0.0%(0)	8.3%(2)	11.1%(1)
⑪ Fg. 比喩	0.0%(0)	0.0%(0)	4.2%(1)	0.0%(0)
⑫ Fh. 婉曲的な表現	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑭ Fj. 他のものに不満を持つふりをする	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
合計	100.0%(25)	100.0%(6)	100.0%(24)	100.0%(9)

□ 0.0%- 1%未満 □ 1%- 10%未満 ■ 20%未満 ■ 20%以上

(1) 両言語の共通点

まず、不満の程度が「弱」の場面で、目上の人から下の人に対してなされた不満表現のストラテジーについて、両言語の共通点を見てみたい。

1) 「親疎」に関わらず日タイ両言語において使われる言語ストラテジー

(表 33)から明らかなように、不満程度が「弱」で人間関係が「上→下」の場面において、「親疎」に関わらず両言語で共通に用いられたストラテジーは、⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)、⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)と⑧ Eec2)否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)の3つであった。

2) 「親」の関係で、両言語ともに見られた言語ストラテジー

「親」の関係でのみ、両言語ともに共通に見られた言語ストラテジーは② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)、④ Ed. 警告・脅かす(Warning and Threatening)、⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)、⑦ Eec1) 付加方略(Supporting Strategies)と⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)の5つである。尚、「疎」の関係でのみ、共通に見られたストラテジーはなかった。

3) 両言語において見られない言語ストラテジー

③ Ec. 代償要求(Asking for Compensation)、⑨ Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)、⑫ Fh. 婉曲的な表現 (Using Euphemism)、⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する(Using Ambiguous Insults)と⑭ Fj. 他のものに不満を持つふりをする(Attacking others related to the target)の5つのストラテジーは、不満程度「弱」、人間関係「上→下」の場面における不満表明では両言語共に見られなかった。

(2) 両言語の相違点

次に、同様の場面(「弱」「上→下」)において見られた日本語とタイ語の相違点に注目する。不満表明言語ストラテジーでは、① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)、② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)、④ Ed. 警告・脅かす(Warning and Threatening)、⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)、⑦ Eec1) 付加方略(Supporting Strategies)、⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)と⑪ Fg. 比喩(Using Metaphor)の7つのストラテジーにおいて相違が見られた。

以下、日本語、もしくはタイ語において特徴的に用いられていたストラテジーについて詳細に見ていく。

1) 日本語でしか出現しない言語ストラテジー

不満程度「弱」「上→下」の場面では、日本語の「親」の場面で見られたストラテジーはタイ語のデータにおいても確認されたが、日本語の「疎」の場面で見られた① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)のストラテジーは、タイ語の「疎」の場面では見られなかった。以下、日本語のデータを参照されたい。

例(95)–JP ① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)の事例
先輩であるA(男)は、後輩(男)に対して不満を表明する。

01A: お前いいよ かなりいい 名前は？ おい 名前はってば **名前は** 何だ それ

『ハチミツ』

例(95)の 01A には、いくつかの不満表明のストラテジーが用いられているが、その中でも「名前は」と相手に説明を要求しており、① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation) であると考えられる。

2) タイ語でしか出現しない言語ストラテジー

不満程度「弱」「上→下」の場面で、タイ語の「親」の関係でのみ見られたストラテジーが 2 つ、タイ語の「疎」の関係でのみ見られたストラテジーが 1 つある。以下、「親」「疎」の関係別に、具体例を見ていきたい。

ア. タイ語の「親」の関係でしか出現しない言語ストラテジー

タイ語の「親」の関係で用いられた不満表明のストラテジー 9 つのストラテジーの内、7 つは日本語の「親」の関係においてもみられたが、① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation) と ⑩ Fg. 比喩 (Using Metaphor) は、タイ語でしか見られなかった。

例(96)-TH ① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation) の事例

A は長距離バスの運転手の B の先輩であり、2 人は一緒にバンコクに向かっている。A は早くバンコクに行きたいと思っているが、何時間も走っているのになかなかバンコクにつながる国道に入れない。そのことにイライラしている A は、後輩 B に対して軽く不満を表明する。

01A: หลอหลี้

ローリー(人名)

(ローリー！)

02B: ครับพี่

はい お兄さん(敬称)

(はい)

03A: ทำไมมึงไม่เข้าทางหลวงสักทีวะ

なぜ おまえ 否定形 入る 国道 なかなか 男性の文末詞

(**何でまだ国道に入らないんだよ**)

04B: โห พี่ช้วน ไปกระที่บตำรวจซะละขนาดนั้นอะ ชีนออกทางหลวงเดี่ยวกัโดนชิวลิตี

感嘆詞 お兄さん(敬称) クワン(人名) 行く 踏み付ける 警察官 破滅 そのように 文末詞 強制する 出る

国道 すると も 当たる 捕まえる 文末詞 お兄さん 呼称

(警察官をひどく踏み付けたから、国道に出たら捕まえるよ)

『ゴート』

上記の会話において、03A の「ทำไมจึงไม่เข้าทางหลวงสักทีนะ(何でまだ国道に入らないんだよ)」という質問に対して、B は 04B で答えているため、03A は① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)のストラテジーである。① Ea. 理由・説明要求のストラテジーは、日本語では「疎」の関係で用いられていたが、タイ語においては先輩後輩という親しい間柄での使用が見られた。

次の例(97) は⑪ Fg. 比喩の事例であるが、比喩のストラテジーは不満程度「弱」「上→下」の場面では、日本語では見られず、タイ語の「疎」の場面でのみ見られたストラテジーである。

例(97)-TH ⑪ Fg. 比喩(Using Metaphor)の事例

Aさんは、卑猥な話をしたBさんに対して不満を表明する。

01A: ตมองมีงนี้ ติดอยู่ข้างไหปะวะ

脳 お前 これ くつつける している そば 壺 疑問詞 文末詞

(お前の頭は、壺についているのか)

タイ語では、卑猥な話は別名「เรื่องใต้โต๊ะ(へその下の話)」と言われ、卑猥な話ばかり考えたりしたりする人は、その人の脳(頭)が低いところにあると言われる。01Aの発話にも見られる「壺」は、タイ社会においては一般に、地面に置き、魚を発酵させるために使われるものである。そのため、01Aでは「ตมองมีงนี้ ติดอยู่ข้างไหปะวะ (お前の頭は、壺についているのか)」ということで、Bさんは頭で、が汚いことや不作法なことを考えているということを「壺」というストラテジーを用いて指摘する発話となっている。

イ. タイ語の「疎」の関係でしか出現しない言語ストラテジー

不満程度「弱」「上→下」、「疎」の関係においてみられた不満表明のストラテジー4つの内、3つは日本語の「疎」の関係でも見られたが、⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)はタイ語でのみ見られたストラテジーである。

例(98)-TH ⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)の事例

タイでは、大学へ入学すると、数月間毎晩新入生が集まって、先輩の指示通りに活動しなければならない。その初日、活動が終わった時に先輩はすぐ家に帰りなさいと指示を出したが、A(女)は、大学に財布を忘れてしまったため、取に行けるよう先輩に交渉をする。先輩のB(男性)は、それに対して不満を表明する。

01A: เชื้อ คือว่าหนูลืมกระเป๋าตังค์ไว้ละคะ ถ้าไม่ไปเอาก็ไม่ค่อยรถกลับบ้าน

言い淀み 言い淀み あたし 忘れる 財布 しておく 文末詞 文末詞 もし し
ない 行く 取る 強調詞 ない 交通代 帰る 家

(あのう、ちょっと財布を忘れてしまって、取りに行かないとバス代がないんです。)

02B: กลับบ้านไม่ได้ ก็นอนหนามหลวงเลยดิ นอนได้เป่าว หนามหลวงอะ ใ้

帰る 家 出来ない 強調詞 寝る 王宮前の広場 強調詞 文末詞 寝る 出来る 疑問
詞 王宮前の広場 文末詞 行け

(家帰れなかったら王宮前広場で寝たら？寝られるかい？行け)

(ラックオ)

この映画で出てくる大学は、王宮前広場の近くにある大学である。そのため、新入生の A(女)は、02B で「กลับบ้านไม่ได้ ก็นอนหนามหลวงเลยดิ(家帰れなかったら王宮前の広場で寝たら?)」と勧められている。しかしながら、王宮前広場は寝る場所ではなく、女の子が一人で王宮前広場で寝ることは、ホームレスのようであり、不適切である。そのことを承知した上で、A に対して王宮前広場で寝ることを進める 02B の発話は、明確に皮肉である。

次節では、不満程度が「弱」の場面において、同等の相手に対する不満表明について見ていく。

5.4.1.2 「弱」「同等」に出現したストラテジー

不満程度が「弱」の不満表明は、両言語ともに同等の関係において一番多く見られた。しかし、「弱」「同等」に対する不満表明が日本語では「弱」の場面全体の 55.2%(16)であったのに対し、タイ語では 84.0%(42)と突出して多い。「強」の場面においても、日本語では「強・同等」が「強」の場面全体の 40.0%(20)であるのに対して、タイ語では「強・同等」が 59.2%(16)と多い。

日本語においても、同等の相手に対して不満を表明するのは「弱」の場面が多いが、その差は約 15.0%である。それに対し、タイ語の場合は「弱」の場面の不満表明の方が約 25.0%多い。タイ語では、特に同等の相手に対して不満度「弱」の不満表明が多いといえることができる。

「弱・同等」の各会話のデータに見られたストラテジーだけを見ると、日本語では、⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)と⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)の出現回数が高い。一方、タイ語では、⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)、⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)、⑦ Eec1) 附加方略 (Supporting Strategies)、⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning) の 4 つの出現回数が高かった。両言語において「弱」の場面で不満を表明する際には、⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)と⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)が共通して多く用いられていた。

以下に示す(表 34)は、不満程度が「弱」の場面において、同等の相手に行う不満表明で見られた各ストラテジーの数を、「親疎」別に示したものである。

(表 34) 「弱」「同等」に出現した不満表現の有無

出現した不満表明の分類	日本語		タイ語	
	親	疎	親	疎
E. 明示的不満表明				
① Ea. 理由・説明要求	0.0%(0)	22.2%(2)	0.0%(0)	0.0%(0)
② Eb. 改善要求	7.4%(2)	22.2%(2)	4.3%(3)	33.3%(3)
③ Ec. 代償要求	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
④ Ed. 警告・脅かす	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑤ Eea) 修辭的疑問	48.1%(13)	33.3%(3)	27.1%(19)	22.2%(2)
⑥ Eeb) 主張表現	18.5%(5)	11.1%(1)	17.1%(12)	11.1%(1)
⑦ Eec1) 付加方略	7.4%(2)	0.0%(0)	20.0%(14)	0.0%(0)
⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉	14.8%(4)	11.1%(1)	20.0%(14)	11.1%(1)
⑨ Eec3) 罵り・禁忌	0.0%(0)	0.0%(0)	4.3%(3)	0.0%(0)
F. 非明示的不満表明				
⑩ Ff. 皮肉・冗談	3.7%(1)	0.0%(0)	4.3%(3)	22.2%(2)
⑪ Fg. 比喩	0.0%(0)	0.0%(0)	1.4%(1)	0.0%(0)
⑫ Fh. 婉曲的な表現	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する	0.0%(0)	0.0%(0)	1.4%(1)	0.0%(0)
⑭ Fj. 他のものに不満を持つふりをする	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
合計	100.0%(27)	100.0%(9)	100.0%(70)	100.0%(9)

□ 0.0%- 1%未満 □ 1%- 10%未満 ■ 20%未満 ■ 20%以上

(1) (表 34)「弱」「同等」に出現した不満表現の有無両言語の共通点

まず、「弱・同等」の場面における、日本語とタイ語の不満表明ストラテジーの共通点に注目する。

1) 「親疎」に関わらず日タイ両言語において使われる言語ストラテジー

(表 34)の通り、「弱・同等」の場面では、両言語において② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)、⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)、⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)と⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)の 4 つのストラテジーの使用が見られた。

2) 「親」の場面で、両言語ともに見られた言語ストラテジー

「親」の場面でのみ、両言語ともに見られた言語ストラテジーは、⑦ Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies)と⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)である。尚、「疎」の場面でのみ、共通に用いられていた言語ストラテジーはなかった。

3) 日タイ両言語において使われない言語ストラテジー

「弱・同等」の場面においては、今回のデータには両言語共に、③ Ec. 代償要求 (Asking for Compensation)、④ Ed. 警告・脅かす (Warning and Threatening)、⑫ Fh. 婉曲的な表現 (Using Euphemism)、⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する(Using Ambiguous Insults)と⑭ Fj. 他のもものに不満を持つふりをする(Attacking others related to the target)の 5 つのストラテジーの使用は見られなかった。

(1) 両言語の相違点

次に、「弱・同等」の場面における、日本語とタイ語の違いに注目すると、不満表明言語ストラテジーの中でも、① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)、⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)、⑦ Eec1) 付加方略(Supporting Strategies)、⑨ Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)、⑪ Fg. 比喩(Using Metaphor)と⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する(Using Ambiguous Insults)の 6 つのストラテジーにおいて、違いが見られた。

以下、日本語とタイ語のストラテジーの使用の分析をしながら、両言語における特徴について見ていきたい。

1) 日本語にしか出現しない言語ストラテジー

「弱・同等」の場面の不満表明において、① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)ストラテジーは、日本語の「疎」の関係のみにおいて、みられた(2例)。例 26 は、そのうちの一つである。

例(99)-JP ① Ea. 理由・説明要求 (Asking for Reason and Explanation)の事例
一緒に買い物をしている時、A(女性)はB(女性)に対して軽く不満を表明する。

01A: ねえ ナナ このグラス超かわいくない?

02B: いちご柄ねえ

03A: ダメ?

04B: 欲しけりや買えば?

05A: じゃ やめた

06B: **なんでよ**

07A: だって ナナも気に入ってくんなきゃ つまんないもん おそろいで使いたいし

『NANA』

[06B]「なんでだよ」の質問の後には、かわいいと思ったサングラスを買わない理由が述べられており、明確な応答が見られることから、「なんでだよ」は理由・説明要求の不満表明戦略に分類した。[06B]の「なんでよ」のような修辞疑問文は、不満程度の「強」「弱」に関わらず、不満を表明する際によく見られた表現である。

2) タイ語にしか出現しない言語戦略

ア. タイ語の「親」の場面にしか出現しない言語戦略

「弱・同等」の場面での不満表明では、14の戦略の中でも、⑨ Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)、⑪ Fg. 比喩(Using Metaphor)と⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する(Using Ambiguous Insults)の3つの戦略は、タイ語の「親」の場面でしか使用が見られなかった。以下、各戦略の例を見てみたい。

例(100)-TH ⑨ Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)と例(28) ⑪ Fg. 比喩(Using Metaphor)の事例

B(男性)は、病気になった友達のAを心配して家に行って面倒を見ていたが、寝てしまった。Aはそのことに対して不満を表明する。

01A: ใจหาย

やつ トカゲ ユ(人名)

(ユのトカゲ野郎)

02B: ใจ

感嘆詞

(は?)

03A: นี่มีงมาฝ้ากฏหรือให้กูฝ้ามีงจะ นอนกรนอย่างกับหมู⑩ ไล่สัตว์⑨

これ お前 来る 面倒を見る 俺 か させる 俺 面倒を見る お前 文末詞 寝る いびきをかく のように 豚
奴 動物

(お前が面倒見に来たの?それとも、面倒かけに来たの? 豚みたいにいびきをかくな⑩。

動物野郎⑩

04B: ตื่นมากี่ด่ากูเลยนะ

起きる 来る も 非難 俺 すぐ ね

(起きてすぐ俺を非難するんだね)

(ラック)

03A の「นอนกรนอย่างกับหมู(豚みたいにいびきをかくな)」は、「みたいに」「のように」が付くため、⑩ Fg. 比喩(Using Metaphor)のストラテジーである。タイ語において「หมู(豚)」は、「寝てばかりいて、いびきをかくもの」というイメージがあるため、A は B を豚に例えて不満を表明している。

また、03A の「ไล่สัตว์(動物野郎)」という罵り語も、動物を使って相手に対して不満を表す言葉であり、⑨ Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)のストラテジーである。「ไล่สัตว์(動物野郎)」は、親しい関係の友達に対して用いた場合には不満程度は「弱」になるが、疎の関係においては強い不満表明になる。そのため、「弱・同等」の場面では、「疎」の関係では⑨ Eec3) 罵り・禁忌のストラテジーの使用は見られなかった。

例(101)-TH ⑬ Fi. 相手を特定せずに一般化する(Using Ambiguous Insults)の事例

ある夫婦がもうすぐ高校を卒業する息子の将来について話している。息子は音楽大学に行きたいが、父親は反対している。妻は反対している夫に対して、不満を表明する。

01A: คนเขาจะนะ อะไรควรบังคับกันก็ไม่ต้องบังคับ เด็กมันไม่กินผักก็ปล่อยให้มันไม่กินจนโตไปอย่างนั้นละ แต่นี่โตขึ้นมามันอยาก
เรียนอะไร จะไปบังคับกะเกณฑ์มันอยู่ได้

人間 文末詞 文末詞 何 べき 未来形 強制する お互いにも ない 分かる 強制する こども 代名詞 ない 食べる 野菜 も 放す 代名詞 ない 食べる まで 大きい 行く そのように 文末詞 しかし これ 大きい 上がる 来る 代名詞 したい 勉強 何 未来形 行く 強制する 代名詞

(人間は、何を強制するべきか分かっていないじゃない。子供の時、野菜が嫌いで食べなくても、そのまま育ててきたみたい。でも、大きくなった今、何を勉強したいか、息子の勉強を強制するの。)

(プロ)

タイ語の不満表明の場面では、相手を特定しない 01A「คนเขา(人間)」のような言葉がよく見られる。言葉の意味は、話し手と聞き手を含むこの世にいる人全てという意味であるが、不満の場面

で用いられた場合には、目の前にいる相手、即ち不満を表明する相手のことを指す言葉として用いられていることが分かる。

イ. タイ語の「疎」の場面でしか出現しない言語ストラテジー

「弱・同等」の場面において、⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)のストラテジーは、「親」の関係では両言語において使用が見られたが、「疎」の関係では日本語では使われておらず、タイ語のみで出現していた。

例(102)-TH ⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)の事例

A(女)は、大学の入学式の日、車で大学まで来たが、初心者であるため運転に慣れておらず、大学の正門のところで B(女)にぶつかりそうになってしまった。その後、大学内で新入生が集まる機会があり、そこで二人が鉢合わせした際に、AはBに謝ったが、Bは不満を表明する。

01A: ขอโทษนะ เอาจ๊ะ มือใหม่หัดขับ

すみません 文末詞 あたし 文末詞

(すみません、私運転は初心者で。)

02B: เหวอ นึกว่ามีมือใหม่หัดขับซะอีก

そうですか と思う 手 新しい 練習 ぶつかる 文末詞

(そうなんだ、ぶつかる練習かと思った…)

(ラックオ)

例(102)は、文のある一部の言い方や言葉を入れ替えることにより、皮肉になる例である。この例では、01Aの「運転するのが初心者」という表現を、02Bでは「ぶつかるのが初心者」と言い換え、大げさな言い方をすることによって、皮肉を言っている。車を運転する場合、正確な運転能力を持つことが望ましく、ぶつかるということは運転能力に欠けていることを指す。しかしながら、Aに対して、ぶつかるのを上手くなるためという意味を暗に示す「ぶつかる練習」という表現を用いたため、皮肉のストラテジーを用いた不満表明となっている。

5.4.1.3 「弱」「下→上」に出現したストラテジー

「弱」「下→上」の場面での不満表明は、本研究の対象としたデータに日本語の例は見られず、タイ語においても、1例のみであったため、ストラテジーの事例も少ないため、ストラテジーの分析は難しいが、参考までに今回のデータに見られた出現傾向を述べておく。

(表 35) 「弱」「下→上」に出現した不満表現の有無

出現した不満表明の分類	日本語		タイ語	
	親	疎	親	疎
E. 明示的不満表明				
① Ea. 理由・説明要求	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
② Eb. 改善要求	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	100.0%(1)
③ Ec. 代償要求	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
④ Ed. 警告・脅かす	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑤ Eea) 修辭的疑問	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑥ Eeb) 主張表現	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑦ Eec1) 付加方略	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑨ Eec3) 罵り・禁忌	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
F. 非明示的不満表明				
⑩ Ff. 皮肉・冗談	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑪ Fg. 比喩	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑫ Fh. 婉曲的な表現	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑬ Fi. 相手を特定せず一般化する	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
⑭ Fj. 他のものに不満を持つふりをする	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)
合計	100.0%(0)	100.0%(0)	100.0%(0)	100.0%(1)

□ 0.0%-1%未満 □ 1%-10%未満 ■ 20%未満 ■ 20%以上

「弱・下→上」の場面において、タイ語の「疎」の場面で② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)ストラテジーを用いた不満表明は一例確認された。筆者自身の内省と照らし合わせても、タイ語において② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)のストラテジーは、どの場面、誰に対しても不満を表明し得るストラテジーであると考えられる。

5.5 第5章のまとめ

本章では、日本語とタイ語の映画各 12 本の中から不満表明の場面をとりだし、不満の程度の強さにより「強」「中」「弱」に分けた上で、不満の程度差と不満を表明する相手との上下関係、親疎関係と戦略―選択の傾向について考察した。考察の結果、日本語とタイ語の不満表明の特徴は以下のようにまとめられる。

(1) 不満の程度の強さの違いによる特徴

今回のデータにおいて、不満表明が行われた場面で最も多かったのは、日本語では「強」の 50.5%(50)であり、タイ語では「弱」の 50.0%(50)であった。この理由として考えられるのは、日本語の場合には、不満が「弱」の場合には、FTA を行わずに、不満表明を回避する傾向があり、不満の程度が強く、不満を表明せざるを得ない場面において不満表明が行われる傾向にあるからだと考えられる。それに対して、タイ語の場合では、不満の程度が低い「弱」の場面において不満が表明される傾向が見られた。

(2) 相手との上下関係に関わる特徴

1) 両言語とも同等の相手に対しての不満表明が最も多く、日本語では全体の 46.8%、タイ語では 75.3%であった。

2) 日本語の場合、相手との「上→下」35.0%(27)、「同等」46.8%(36)、「下→上」18.2%(14)と、全ての関係の相手に対して不満表明が見られた。それに対して、タイ語の場合には、「同等」の場面の不満表明が 75.3%(58)と著しく多く、「下→上」の場面は 5.2%(4)と不満を表明しにくいことが分かった。

「強」「弱」の不満度別にみると、日本語の場合は、「強」の場面では「上下」「同等」「下上」の全ての相手に不満を表明しているが、「弱」の場面では「下上」の不満表明はなかった。タイ語の場合は、「強」の場面では「下上」の不満表明が 3 例観察されたが、「弱」の場面では 1 例だけであった。

(3) 相手との親疎関係に関わる特徴

1) 日本語では「親」48.1%、「疎」51.9%と、親疎の違いによる大きな差は見られなかったのに対し、タイ語では圧倒的に「親」74.0%の場面における不安表明が多く見られた。日本語では、親疎関係を問わず、不満を表明する傾向がある一方で、タイ語では親しい関係の相手に対しては不満を表明しやすいが、親しくない関係の相手であれば不満を表明しにくい傾向がある。

(4) 両言語の「強」場面に出現した不満表明の言語ストラテジーの特徴

1) 両言語の「強」の場面において、上下・親疎関係問わず、② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)、⑤ Eea) 修辞的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)、⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)、⑦ Eec1) 付加方略(Supporting Strategies)、⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)の5つのストラテジーの使用が見られた。

2) 日本語では、「強・疎」の場面では、② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)のストラテジーが多く使われていた。また、日本語では親疎関係に関わらず、「強」の場面では⑤修辞的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)のストラテジーが66例(35%)と非常に多い。タイ語の「強・親」場面でも、日本語のストラテジーの使用と同じ傾向が見られ、修辞的疑問文による不満表明が多くみられた(39例・30%)。

(5) 両言語の「弱」場面に出現した不満表明の言語ストラテジーの特徴

1) 「弱」の場面において、上下・親疎関係問わず、② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)、⑤ Eea) 修辞的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)、⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)、⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)の4つのストラテジーの使用が見られた。

(6) 両言語の不満表明場面におけるストラテジーの出現回数全体の傾向

不満表明のストラテジー全14種の中で、② Eb. 改善要求 (Demand for improvement)、⑤ Eea) 修辞的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)、⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)、⑦ Eec1) 付加方略(Supporting Strategies)、⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)と⑩ Ff. 皮肉・冗談 (Using Verbal Irony and Joke)の6つのストラテジーが、不満程度の「強・弱」、相手との上下・親疎関係に関わらず、両言語において共通に見られた。

日タイの不満表明の特徴を大きくまとめると、日本語では相手との上下・親疎関係を問わず、どの相手に対しても、強い不満を持った場合には不満表明が行われる傾向がある。それに対して、タイ語では「親・同等」の関係における弱い不満表明が圧倒的に多く、親しい相手に対して弱い不満表明を行う傾向にあることが分かる。タイ語のこのような場面における不満表明には、仲間内のからかいや冗談などとなっている場合が多い。また、タイ語においては、目下人が目上の人に対して不満表明は行わない傾向があることが明らかになった。

不満表明のストラテジーに関しては、日本語でも、むろん罵りなどの否定的な言葉が使われる例も見られるが目上や親しくない相手に対しては、丁寧な言語形式を維持したまま不満表明が行われる。それに対して、タイ語では、親しい関係の相手に対して不満を表明する際には、ポジティ

ブ・ポライトネスとして Eec.)否定的な言葉(Using Negative Words)が「強」の場面でも「弱」の場面でも使われ、話し手の音調や会話の文脈等を見なければ、「強」か「弱」かを判断しにくいことが特徴として見られた。

第6章 不満表明の会話の日タイ対照

第4章では、日本語とタイ語における不満表明の全体的傾向を、第5章では、不満度の「強」「弱」の場面における親疎上下関係による戦略選択の特徴を見た。本章では、不満表明の会話全体に注目し、日本語とタイ語の特徴を見て行く。

第4章で述べたように、以下のような両言語の特徴が明らかになっている。上下関係に就いては、日本語においても、タイ語においても、「強」「弱」どちらの場合でも、「同等」の相手に対する不満表明が一番多かった。しかし、タイ語の場合は、「強」の場面の 59.2%(16)、「弱」の場面の 84.0%(42)が「同等」の相手に対する不満表明で、「同等」相手への不満表明が非常に多いという特徴がある。また、親疎関係については、日本語でもタイ語でも、「強」の場面では「親」「疎」の割合はそれほど違わない。しかし、「弱」の場面では、タイ語では「親:84%(42)」「疎:16.0%(8)」と圧倒的に「親」の相手に対する不満表明が多いという特徴がある。

6.1 会話の構造と戦略

本稿では、会話の構造や展開については詳しく分析することはできなかったが、不満表明の会話から気づいた点を指摘しておきたい。

日本語とタイ語の不満表明について、一番出現数の多い「同等」を例にあげて特徴を見てみよう。

例(103)-JP

AとBは、男子高校生である。BがAの後輩から金を奪い取ったため、Aは、それに対して不満を表明する。

01A : 森下、何のつもりだよ。俺の後輩からカツアゲなんかしやがって。

02B : くれたんだよ。

03A : めぐんだのか？

04B : はした金だよ けちけちすんな。

05A : なんで俺の後輩が お前に金をやんなきゃいけないんだよ。

06B : こいつらさ 俺の妹 いじめたんだよ 貧乏暇なしてな それで泣いて帰ってきたんだぞ だから あいつらにも泣いてもらおう

07A : だからって 金とっていいのかよ 金返せよ

08B : うるせえんだよ

『さよなら』

例(104)-TH

ダンスをやめようとする B に対して、友人の A が強い不満を表明している。

01A: ไออาร์ท ไอเหี้ย มึงจะรีบกลับเลยทำไมวะ อยู่คิดหาทางกันก่อนดี มึงเดินเป็นอะ

奴 アート(人名) 奴 トカゲ お前 未来形 急ぐ 帰る すぐ なぜ 男性の文末詞 いる 考える 探す 方法
お互いに 先に 依頼形 お前 ダンス できる 文末詞

(アート野郎、トカゲ野郎、何で早く家に帰るんだ？一緒にいて色々考えようよ。お前踊れるから。)

02B: ไม่เดินอะ ไม่ชอบให้ใครมาบังคับ

しない ダンス 文末詞 しない 好き させる 誰 来る 強制する

(踊らない。強制されるのは嫌だ。)

03C: ไอ้ อาร์ท แล้วอาร์ทจะทิ้งพวกเขาไปเฉยๆ ได้ไงอะ

感嘆詞 アート(人名) それで アート(人名) 未来形 捨てる 私たち 行く そのまま

反復記号 可能形 どのように 文末詞

(ああ、アート。何もせずに私達を捨てるわけ。)

04A: ไอ้สัตว์อาร์ท มึงรับผิดชอบหน่อยดิวะ เฮ้ย ไอ้เหี้ย ไม่ใช่มีงคนเดียวนะเว้ย รุ่นพี่ก็เล่นงานทุกคนอะ

奴 動物 アート(人名) お前 責任を持つ ちょっと 依頼形 男性文末詞 感嘆詞 奴 トカゲ ではない
お前 一人 よ 男性文末詞 先輩 も やる 皆 文末詞

(アートめー、動物野郎。いい加減にしろよ。おい、トカゲ野郎。おめえ 1 人じゃないんだよ。皆が先輩に怒られるんだよ。)

(ラックオー)

日本語の例(103)とタイ語例(104)は、「強」「同等・親」の会話例である。不満表明の会話を比べると、両言語に共通した点がいくつか観察される。

まず、会話の冒頭では、(103)と(104)のどちらにも、例(103)の 01A「森下」、例(104)の 01A「ไออาร์ท (アート野郎)」とどちらも名前による呼びかけという⑦Eec1)付加方略(Supporting Strategies)が現れている。次に、日本語(103)の 01A「何のつもりだよ。」、05A「なんで俺の後輩が お前に金をやんなきゃいけないんだよ。」、07A「だからって 金とっていいのかよ」、タイ語(104)の 01A「何で早く家に帰るんだ？」のように、好ましくないことを引き起こした相手に対しての⑤Eea) 修辭的な疑問／①Ea) 説明・理由要求が頻繁に現れる。そして、両言語の会話の終わりには、例(103)「金返せよ」、例(104)の มึงรับผิดชอบหน่อยดิวะ(いい加減にしろよ)」のように②Eb)改善要求がでてくる。

(103)(104)の「同等」場面での不満表明の会話のように、日本語でもタイ語でも[付加方略]→[修

辞的疑問／説明・理由要求]→[改善要求]という、共通した不満表明ストラテジーの出現パターンが存在している。タイ語の場合、⑤Eea) 修辭的な疑問／①Ea)説明・理由要求の前後に⑦Eec1) 付加方略や⑨Eec3) 罵り・禁忌が何度か入ることが多い。不満表明の会話の構造パターンの多くは日本語とタイ語で共通している。日本語の例(103)を見て分かるように、日本語の会話では、何回も⑤Eea) 修辭的な疑問／①Ea) 説明・理由要求が繰り返されるのに対して、タイ語の会話では、日本語よりも表現の多様性が見られる。

6.2 「上→下」:目下の人に対する不満表明

「同等」の次に目上から目下に対して不満を表明する場面が多いのは両言語に共通している。本稿で言う「上→下」は、「上司から部下」「先生から学生」「年上から年下」のような社会的上下関係と「客と店員」のような義務・権利関係を指す。

しかしながら、タイ語の場合、義務・権利関係であっても、店員の年齢が客よりも相当高い場合には、若い客は年上の店員に対して不満を表明しないのではないかと考えられる。このような場合、タイ語では年齢による社会的上下関係が優先されるからである。上下関係という要素の中にも、その言語を用いる社会の特徴が現れる。

タイ語では、「同等」の相手に対する不満表明では、「馬鹿野郎」「ไอหี๋ย(トカゲ野郎)」「ไอห่า(コレラ野郎)」のような言葉を使った、⑨Eec3)罵り・⑦禁忌と Eec1)付加方略が現れるが、目上の人から目下への不満表明ではほとんど現れない。

日本語でもタイ語でも「馬鹿野郎」「ไอหี๋ย(トカゲ野郎)」「ไอห่า(コレラ野郎)」のような言い方をすれば、相手のフェイスを潰すだけではなく、自らのフェイスを潰す可能性が高い。そのため、「上→下」の不満表明では、不満度が「強」の場面であっても、自らのフェイスを守るために⑧Eec2) 否定的な意味を持つ言葉や Eec3) 罵り・禁忌などのストラテジーが避けられ、他のストラテジーが使用されるのだと考えられる。ただし、実際には全くないわけではなく、男同士の場合には、使用することもある。「上下」の会話では⑤Eea) 修辭的な疑問／①Ea) 理由・説明要求、⑦Eec1) 付加方略、②Eb) 改善要求を使用することが多いが、特にタイ語の場合には皮肉・冗談がよく使われる。

6.2.1 「親」「上→下」の場合—日タイの比較考察

6.2.1.1 「親」「上→下」「強」の場合

「強」「親・上下」の場面では、下記の日本語の例(105)とタイ語の例(106)(107)に示すように、⑦Eea)修辭的な疑問／①Ea) 理由・説明要求、改善要求、付加方略を使用することが多いが、タイ語の場合、皮肉も言っている。

例(105)-JP

兄 A は、妹 B を大学に行かせるためにこっそり仕事をして稼いでいた。B は、それを見て自分も

兄の手助けがしたくてバイトをすることにした。が、そのことを知ったAは怒り、Bと口喧嘩になった。Aさんは、それに対して不満を表明する。

01A: どういふことかあ バイトって 兄イニイに説明していみい!

02B: 説明って… 私は ただ少しでも兄イニイの助けになればって思って

03A: 今がどういふ時だと思ってるばあ

04B: だって 本当のこと言ったら 兄イニイ怒ると思ったから

05A: 当たり前さ! 受験生が何やってるばあ! ええ!

『涙そうそう』

例(106)-TH

先輩A(男性)と後輩Bさん(男性)は、ある仕事を一緒にしている。先輩Aが後輩のBをからかうと、Bはひどい言葉で先輩に向かって冗談をやめるように言ったため、先輩Cさん(男性)は、それに対して不満を表明する。

01A: เอ๊ย นี่เสร็จแล้วใช่ไหมะ

感嘆詞 これ 出来る 完了形 確認疑問詞

(おい、これって出来た?)

02B: เสร็จแล้วครับพี่

出来る 完了形 文末詞 ビー(敬称)

(出来ました。)

03A: นี่มึงเอามือหรือตีนเขี่ยวะ

これ お前 使う 手 か 足 穿る

(これって手か足、どっちを使って仕事した?)

04B: เอ่อ ไม่สวยเหรอครับ

言い淀み ない 綺麗 疑問詞 文末詞

(えー、綺麗じゃないですか?)

05A: เปล่าสวยดี

いいえ 綺麗 良い

(いいえ、綺麗だよ)

06B: อ้าว กวนตีนไม่เลิกนะเนี่ย

感嘆詞 邪魔する 足 ない 止める ね これ

(おい、うざいこと止めな)

07C: เอ๊ย

感嘆詞

(おい!)

(ラック)

例(107)-TH

A は、奥さんが記憶喪失になったため、昔のことを思い出せるように初めて出会った場所へ連れて行くことにした。A は、会議の日程に変更があり、奥さんを思い出の場所に連れていく日に会議が行われることになったことを、全然知らない。会議に出てこない A に上司が電話をかけてきて不満を表明する。

01A: มีประชุมด่วนอะ ทำไมไม่มา

ある 会議 緊急 文末詞 なぜ 否定形 来る

(緊急会議があるぞ。なんで来ない?)

02B: แต่ประชุม มันอีกสองวันข้างหน้าไม่ใช่หรือครับ นี่ผมยังอยู่สัตหีบอยู่เลย

しかし 会議 代名詞 後 2 日 さき じゃない 確認疑問 男性文末詞 これ 僕 まだ いる サッタヒーブ (地名) 進行形 強調詞

(でも、会議はあさってではないですか? 今、まだサッタヒーブにいます。)

03A: นี้คุณไม่ได้เช็คเมลหรือไง เค้าเดือนมาเป็นวันนี่แล้ว นี่จะมีอะไรสำคัญกว่างานอีกหรือคุณราเชนทร์ อย่างนี้ก็แล้วกัน คุณก็อยู่ที่นั่นแหละ อยู่ไปเลย ผมไล่คุณออก

これ あなた していない チェック メール 確認疑問 彼ら 変える 来る なる 今日 完了形 これ まだ 未来形 ある 何 大切 より 仕事 他に 確認疑問 さん ラーシェーン(人名) こう しましょうか あなた 強調詞 いる あそこ 文末詞 いる いく 強調詞 私 あなたを首にする

(メール見てなかったのか? 今日に変わったんだぞ。仕事よりも一体大事なことがあるのか? じゃ、こうしようか。そこにずっと住めば?あなたをクビにする。)

(ファン)

日本語の例(105)[01A]「どういふことかあ バイトって 兄ィニイに説明していみい!」、タイ語の例(107)01A「มีประชุมด่วนอะ ทำไมไม่มา(緊急会議があるぞ。なんで来ない?)」という⑤Eea) 修辭的な疑問/①Ea)理由・説明要求が表れる。会話が終わる時に、日本語の例(105)の 05A「ええ!」やタイ語の 07C「เฮ้ย (おい!)」のように、感嘆詞や感動詞という⑦Eec1) 付加方略を使用して終わる。しかしながら、タイ語では、例(107)の 03A「อย่างนี้ก็แล้วกัน คุณก็อยู่ที่นั่นแหละ อยู่ไปเลย(じゃ、こうしようか。そこにずっと住めば?)」のように年下の相手に対して Ff)皮肉を言っている。上述したように、無礼な言い方をさせて、自分や相手のフェースを守るために、皮肉という非明示的なストラテジーを使うのだろう。

6.2.1.2 「親」「上→下」「弱」の場合.

「弱」「親・上下」の場面は、「強」「親・上下」の場面と同様で、日本語は、⑤Eea)修辭的な疑問／①Ea)理由・説明要求、②Eb)改善要求、⑦Eec1)付加方略が使われ、タイ語はそれらに⑩Ff)皮肉・冗談が加わる。

例(108)-JP

A(女性)は、国会議員である。息子 B がよくない成績を取ったので、不満を表明する。

01A: もう いいわ あなたには何も期待しない あなたは初めっから一存在しなかったんだっ
て

『イキガミ』

例(109)-JP

看護師である A(男性)は、患者を病室に送った後、病室を出る時、外科はどこにあるのか知らないため、医者 B(女性)に訊く。そして、B は、それに対して不満を表明する。

01A: じゃあ先生亜也ちゃん 僕これで失礼します

02B: はい

03A: あれっ？先生

04B: 何

05A: 外科はどこでしたっけ？

06B: 自分で探さない まったく もう

『世界中』

例(108)(109)は日本語の「弱」「親・上下」場面である。どちらの例にも「もう」という付加方略が使われている。例(108)は、お母さんの息子に対する軽い不満であり、殆どは自分の感想を並べているのに対して、例(109)では、[06B]「自分で探さない」のように改善要求が見られた。例(110)(111)は、タイ語の「弱」「親・上下」場面の例である。

例(110)-TH

B(男性)は、中学生である。学校の先生である A の娘は、もうすぐバンコクに帰るので、先生の家まで見送りに走ってくる。先生 A は、生徒の B の姿を見るとそれに対して不満を表明する。

01A: วิ่งหนีอะไรกันมาอีกอะ ทำไมใส่เสื้อเข้าไปในกางเกงเดี๋ยวนี
走る 逃げる 何 お互いに 来る また 文末詞 感嘆詞 入れる 入る 行く 中 ズボン 今すぐ
(また何を逃げて走ってる?もう。シャツをズボンの中に入れてなさい)

02B: เอ๋อ นานาอะฮะ
言い淀み ナナ(人名) 文末詞 若い男性の文末詞
(えーと、ナナは?)

03A: ไม่วิ่งกันมาปีหน้าเลยละ
ない 走る お互い 来る 来年 強調詞 文末詞
(来年走って来たら?)

(ピット)

例(111)-TH

女子小学生のBは、いつも行っているCDショップへ自分が好きな歌手のCDを買いに行く。小学生にとってちょっと値段が高いため、値段交渉をした。オーナーであるAは、それに対して不満を表明する。

01A: นี่ซาวด์แทร็คหนังใหม่ของดีดี
これ サウンドトラック 映画 新しい の ティティ(人名)
(これだよ。ティティの最新映画のサントラ)

02B: เฮ้ย เพิ่งไปดูหนังมาเลยอะ หนักมาก ๆ เลย 400 ได้ ปะ
感嘆詞 したばかり 行く 見る 映画 来る 強調詞 文末詞 楽しい とても 反復記号 強調詞 400 できる
疑問詞
(オー、見に行ったばかりですよ。すごい面白かったです。400でいいですか?)

03A: นั่น หัวสิบเปอร์เซ็นต์ทางนั้น นั่น
あそこ 50 パーセント 方 あそこ あそこ
(あっちだよ、半額は)

04B: นั่นมันพวกของเกออปี่อะ นะ เฮ้ย ลดให้หน่อยนะ เนี่ย ถ้าดีดีมาเล่นคอนเสิร์ตที่เมืองไทย นี่อะนะ ได้ต้องร้องเพลงนี้แน่
เลยอะ จะได้เอาไว้ฝึกร้องก่อนไง

それ 代名詞 たち もの B ランク 文末詞 ヒア(敬称) 値切る してくれる ちょっと 文末詞 これ もし ティティ(人名) 来る する コンサート で タイ これ 彼 疑問詞 歌う 歌 この 絶対に 強調詞 和らげる詞 するよ
うに 練習する 歌う 先に 文末詞

(それはBランクのCDですよ。ね、お兄さん、安くしてくださいよ。ほら、ティティがタイに来てコンサートをやったら絶対この歌を歌いますよ。先に練習しなければなりません)

05B: จะบ้าเธอ นี่แผ่นแท้นะ รับรองเมืองไทยไม่ถึงสิบแผ่นหรอก

未来形 馬鹿 疑問詞 これ CD 本物 よ 保証する タイ ある もしない 10 枚 文末詞

(馬鹿か。これって本物の CD だよ。タイには10枚もないよ。)

06A: โอเค โอเค แปดร้อยก็ได

OK OK 800 でもいい

(了解。800 もいいです。)

(ファン)

例(110)は、「強」場面の例(107)と同じような言いかたをしている。最初に、01A の「จึงหนีอะไรกันมา ลึกซึ้ง (また何を逃げて走ってる?)」のように⑤Eea)修辭的な疑問/Ea)理由・説明要求、後ろに、不満を表明する機能を持つ感嘆詞「หึา」が付き、会話の終わりに、⑩Ff.)皮肉・冗談 03A の「ไม่ จึงกันมาปีหน้าเลยละ (来年走って来たら?)」が現れる。しかし、例(107)での皮肉と異なり、例(110)の皮肉は、よく「弱」の場面で使われものである。例(111)は、03A「นุ่น หัวลิบเปอรเซ็นต์ทางนุ่น นุ่น (あっちだよ、半額は)」と[05B]「จะบ้าเหวอ(馬鹿か)」の不満表明が見られた。03A で遠まわしに情報を提供することにより相手に話し手の不満に気づかせている。06A「จะบ้าเหวอ(馬鹿か)」は、「บ้า(馬鹿)」という⑧Eec.)否定的な意味を持つ言葉が入るが、タイ語では、「บ้า(馬鹿)」を感動詞として、また、「เหวอ(疑問詞)」を付け疑問文で使用する場合は相手を罵っているわけではない。

6.2.2 「疎」「上→下」の場合—日タイの比較考察

今回のデータによると、目上の人が親しくない目下の人に対して不満を表明する。「疎」「上→下」の場面では、両言語とも、罵り語や禁忌語ほど無礼な言い方をしないが、否定的な意味を持つ言葉を使用する傾向が見られた。郭(2007)で指摘されている不満表明の外的要因の一つである「一時的・持続的關係」が原因のではないかと考えられる。一時的に会う相手、つまり一回だけ会う相手に対して、相手への配慮が少なくなり、直接に自分の不満な感情を表すことができる。そこで、両言語では、否定的な意味を持つ言葉を使用して、不満を表明する。

6.2.2.1 「疎」「上→下」「強」の場合

「疎」「強・上下」は、日本語の例(112)(113)、タイ語の例(114)の通りである。

例(112)—JP

納棺師であり社長のA(男性)と部下のB(男性)は、ある日お客さんに遺体の引き取るのを頼まれた。しかし、その2人は、待ち合わせ時間に5分遅れてしまった。そして、男性のお客さんは、社長のAと部下のBに不満を表明した。

01A : 怒ってるよ 怒ってるよ 頼むよ 佐々木さん!

02B : すいません

- 03C : 遅っせー！ 5分も過ぎてんだぞ 5分も！
 04B : 申し訳ありません
 05C : おめえら 死んだ人間で食ってんだろ
 06D : 義兄さん
 07C : 早くしろ！

(おくりびと)

03C の「遅っせー！ 5分も過ぎてんだぞ。5分も！」は、否定的な言葉＋主張表現(相手の罪や望ましくない行動や結果を肯定の形で指摘することを指す)が使われている。また、修辭的疑問[喪主 05]「おめえら 死んだ人間で食ってんだろ」と改善要求[喪主 07]「早くしろ！」の使用が見られた。

例(113)-JP

やんちゃなD(男)のせいで、A(母)とC(父)の娘がバイク事故で死んだ。家での葬式に、家族と友達たちと納棺師のBが行く。父のCがDに対して不満を表明すると、叔父のEもDに対して不満を表明する。

- 01A: 違う
 02B: はい?
 03A: うちの子はこんなんでねえ。髪の色も違うし 全部違う! ミユキはああなのよ! あんた何してんの! 全然違う やり直して
 04B: はい
 05C: 今さら 何言ってんだ おめえがちゃんと育てねえから こげなことになってしまったんだろ
うや
 06A: (泣き声)
 07D: そういう言い方はねえんじゃないですか
 08C: 何だと!?
 09D: ミユキのことちゃんと見てなかったのはあんたも同じじゃないですか!
 10C: おめえ 何様だ! おまえだ**が**バイクでひっぱり回してー! おめえだけ生き残って恥ずかしく
ねえのか!
 11E: やめれ!
 12C: うわーつ!
 13E: やめれ! やめれ! やめれ!
 14F: うわーつ!
 15E: おめえだ! 掃れ! おめえだのせいでミユキが死んだのは違わねえだろや。おめえがた償

えんのか? あ? 一生あの人みてえな仕事をして償うか? あ?

16D: すいません。すいませんっ!

『おくりびと』

例(113)の会話の後半で、「親」「強・上下」と同様に、08C「何だと!」、10C「おめえ 何様だ! おまえだがバイクでひっぱり回してー! おめえだけ生き残って恥ずかしくねえのか!」、15E「おめえだのせいでミュキが死んだのは違わねえだろや。おめえがた償 えんのか? あ? 一生あの人みてえな仕事をして償うか? あ?」のように、⑤Eea)修辭的な疑問/①Ea)理由・説明要求で不満を表明することが多い。また、15E「帰れ!」の改善要求、15E「あ?あ?」のような付加方略も使用されている。

例(114)-TH

大学4年生である男性のCは、偉い人である息子Aと喧嘩をした。後日、Aは、大学の学長のところに訪ねてきてCに適切な罰を与えるように要求する。CがAに対して色々非難したため、CはAを殴ってしまう。そのことで、校長のBもCに不満を表明する。

01A: อาจารย์คะ ดิฉันไม่ยอมจริง ๆ ด้วยนะ อาจารย์ ต้องเอาเรื่องให้ถึงที่สุดเลยนะ ให้มันสาสมกับความผิดที่มันทำให้ ไม่นั้นดิฉัน
เอาเรื่องถึงทบทวงจริง ๆ ด้วย

先生 文末詞 私 ない 認める 本当に 反復記号 も よ 先生 疑問形 罰を与える させる まで 最も 強
調詞 よ させる 代名詞 応じると 罪 代名詞 代名詞 する おくしないと 私 罰を与える まで 文部省
本当 も

(校長先生、あの子の罪に応じて相応しい罰を与えてください。あの子に罰を与えないと、
私は文部科学省に報告します。)

02B: ใจเย็น ๆ ครับคุณหญิงครับ เอาจังนี่ อาจารย์รงค์ ขอโทษคุณหญิงซะ ให้เรื่องมันจบไปตอนนี้ก่อน

心 冷える 反復記号 文末詞 夫人 文末詞 する こう アートナロン(人名) あなた 謝罪する 夫人 命令形 さ
せる 話 終わる 行く 今 取り合えず

(お母さん、落ちついてください。アートナロン、取り敢えずちゃんとお母さんに謝りなさい。)

03C: ผมไม่ผิด

僕 ない 間違える

(僕は悪くなかったです。)

04A: เขอนี้มันยโสจริง ๆ เลยนะ ไม่รู้ว่าคุณเค้าเหล่าใครมาจากไหน ลูกชั้นล้มลงไปแล้วเธอยังเตะซ้ำ กระตืบซ้ำอีกใช้มะ

あなた これ 威張る 本当に 反復記号 強調詞 文末詞 ない 知る 子供 家族 誰 来る とこ 子供 私

倒れる 下がる 行く 完了形 あなた まだ 蹴る 繰り返す 踏み付ける 繰り返す また 疑問詞

(あなたは、本当に威張っていますね。あなたの名字は何なのかしら？私の息子は倒れたのに、あなたは止めずにさらに蹴ったんですよ。)

05C: เราชกกันข้างถนนอะ ไม่มีกรรมการคอยห้ามนี่ครับ

私たち 殴る お互いに 道端 文末詞 いない 主審 いつも 禁止する これ 文末詞

(道端で喧嘩しましたから、レフリーいなかったんですよ。)

06B: อาร์นา론 ออกออกไปให้พ้นเดี๋ยวนี้ ไปเลย แล้วไม่ต้องกลับมาอีก

アートナロン(人名) あなた 出る 行く させる 去る 今すぐ 行く 強調詞 そして しなくてもいい 帰る 来る また

(アートナロン！今すぐ行ってください。戻らなくてよい！)

(ラック)

04A「ยโส(威張る)」で否定的な言葉が使われる。04A「ไม่รู้ว่าคุณเค้าเหล่านี้ใคร มาจากไหน (あなたの名字は何なのかしら?)」は、修辭的疑問で苗字や家族の名前を聞くことで、相手一人だけではなく、相手の家族まで責めている。タイ語では、怒っているときや不満を表明する時に、当人だけではなく、不満が強い場合には両親や家族についても責める。04A「ลูกชั้นล้มลงไปแล้วเธอยังเตะซ้ำ กระทั่งซ้ำอีกไหม (私の息子は、倒れたのに、あなた止めなくさらに蹴ったんですよ。)」で、また、⑤Eea)修辭的な疑問／①Ea) 説明・理由要求で不満を表明する。その後、C が A 夫人を殴った後、校長 B は、C に対して 06B「อาร์นา론 ออกออกไปให้พ้นเดี๋ยวนี้ ไปเลย แล้วไม่ต้องกลับมาอีก(アートナロン！今すぐ行ってください。戻らなくてよい！)」のように、名前による呼びかけの付加方略と改善要求を使用する。

6.2.2.2 「疎」「上→下」「弱」の場合

今回のデータには、日本語の「疎」「弱・上下」場面が少なかった。疎の相手に対する弱い不満は表出されず我慢してしまうのだろう。また、タイ語は、本稿の分析対象になる例がないが、参考になりそうな例(15)を会話例として挙げておく。

例(115)-JP

大学の先輩である A(男性)は、初対面で後輩である B(男性)と会う。A は、B の名前を聞くが、B が答えないため、A は不満を表明する。

01A: お前いいよ かなりいい 名前は？ おい 名前はってば 名前は 何だそれ

『ハチミツ』

例(116)-JP

学校用務員の A(男性)は、校舎内にある専用室に入ってきた人に対して不満を表明する。

01A: なんとか言わんか 入ってくる時は

『さよなら』

例(116)は、大学の先輩である A が初めて会う後輩の B に対しての不満の例である。男性は、よく「おい」の付加方略を使用するのであろう。他には、「名前はってば 名前は 何だそれ」の⑤ Eea) 修辭的な疑問／①Ea)理由・説明要求が現れている。

例(117)-TH

タイでは、男性は、高校生の時、軍事学習プログラムを受けないと、20 歳になる時、徴兵制度で軍隊に入らなければならない。そして、高校生の時、毎年年に1回軍事学習プログラムのキャンプがある。軍事学習プログラムのキャンプで軍事訓練の教員 A は、学習プログラムに参加した高校生の B に対して不満を表明する。

01A: มาเรียนนวด. ทำไม

来る 勉強 軍事学習プログラム なぜ

(何で軍事学習プログラムを受けたんですか?)

02B: เชื้อ เพื่อนำความรู้ที่ได้มาพัฒนาประเทศชาติครับ

言い淀み ため 持つ 知識 代名詞 得る 来る 発展する 国 文末詞

(えーと、勉強したことを使って国を発展させるようにします。)

03A: พัฒนาประเทศ ชี้หนักทั้งเพ

発展する 国 うそ 完全に

(発展させるか…うそ付け)

04B : ไม่อยากเกณฑ์ทหารครับ

したくない 徴兵制度 文末詞

(軍隊に入りたくないです)

(カオ)

例(117)のように、本稿で使用する映画のデータには、タイ大学の新生歓迎会の活動と男子高校生の軍事学習プログラムのシーンが少なくない。そのシーンに登場する先輩や訓練の教員は、普通の会話ではなく、わざと普通よりも大きい声で喋ったりすることによって後輩たちや軍隊研修生を怖がらせる。怖がらせるための演出であるのか本当に強い不満表明であるかが判断し難いため、この例は本稿の分析対象からはずした。

6.2.3 目下の人に対する不満表明のまとめ

「親・強・上下」「親・弱・上下」と「疎・強・上下」と「疎・弱・上下」をまとめれば、下記のようなものである。

1) 「親・弱・上下」の例が少ないが、全体的な傾向としては、上の方は、下の方に対して、不満を表明する。両語では、どの場面においても、付加方略、疑問部(実質的疑問と修辭的疑問)、改善要求を資料することが明瞭である。

2) 「疎・強・上下」の場面では、否定的な意味を持つ言葉が使われる。一回性や一時的な場面であれば、相手との人間関係を配慮しなくなり、直接的な言い方をすることができるようになると思われる。

3) 1)で述べたように、どの場面においても、付加方略、疑問部(実質的疑問と修辭的疑問)、改善要求をするのは言うまでもなく、タイ語では、「強」「弱」に関わらず、よく物事を大げさにする皮肉を言っている。タイ語の特徴として、皮肉は、「強」の場面で自分の不満を表すこともでき、「弱」の場面でそれほど不満を感じない時に、冗談、からかいや突っ込みまで多用性のある。

6.3 同等の人に対する不満表明

本稿で扱う「同等」は、夫婦や友達同士のような関係である。図1と図2に示すように、今回のデータには、日タイ両言語において、同等関係の人に対して不満を表明することが一番多いことが明らかになった。「同等」の場面では、どちらの言語においても不満を表明しやすいようである。しかし、同等関係の相手であっても、相手に配慮せず、何をいってもよいというわけではない。親疎関係により不満を表明し得るかどうか、どのように不満を表明するかが異なっている。

6.3.1 「親」「同等」の場合—日タイの比較考察

6.3.1.1 「親」「同等」「強」の場合

下記の例(118)は、恋人同士の会話例であり、例(119)は、夫婦の会話例である。二つの場面の状況は異なる。例(118)は遅刻の場面で例(119)は家族全体に影響を与える問題である。恋人同士の場合、01Aは、「遅い」という明示的な否定的な言葉を持つ言葉を2回繰り返す事により、恋人のBに反省させる。例(119)のAは、04B「何で俺に言わなかった」のような⑤Eea)修辭的な疑問／①Ea)理由・説明要求、また06B「俺は実紀の父親だぞ！」のように自分の不満な気持ちを表す主張表現で不満を表明する。

例(118)-JP

A(女性)とB(男性)は、恋人同士である。ある日、Bは仕事でAの待ち合わせに遅刻してしまった。Aがそれに対して不満を表明する。

- 01A: 遅い!
 02B: 取材が押しちゃって
 03A: 遅い!
 04B: すみません すみません

『手紙』

例(119)-JP

受刑者である兄を持つ A は妻の B と子供とともに社宅に引越した。しかし、隣人達は A の兄が受刑者であることを知ると、自分の子供を A の子供を遊ばせなくなった。さらに、A の兄が刑務所を出たら社宅で暮らすという噂も広まった。そのため、A は心配して B と話す。その時、B は不満を表明する。

- 01A: 一ヶ月くらい前からだと思ふ 社宅の奥さんたちの間で 変な噂が広まったみたいで
 02B: 噂?
 03A: ナオのお兄さんが刑務所出たら社宅で暮らすとか
 04B: 何で俺に言わなかった
 05A: だって私もおるし
 06B: 俺は実紀の父親だぞ!
 07A: 実紀 起きるやろ

『手紙』

タイ語の例(120)は、男子大学生同士の会話例である。男性同士ならばもっと無礼なことや汚い言葉を使うことも考えられるが、今回のデータでは、親しい男性同士の会話であっても、相手に対して不満を表明する時、相手のフェイスへの侵害を軽減するよう色々配慮している。

例(120)-TH

タイでは、大学へ入学すると、数ヶ月間毎晩新入生が集まって、先輩の指示通りに活動しないといけない。この活動が嫌いな B は、あまり同級生にも協力をしない。ある日、活動がもうすぐ終わるので、皆が先輩のためにショーをする予定で、皆が集まって相談するが、B が帰ろうとする時に、リーダーA が不満を表明する。

- 01A: อาร์ท อาร์ท เดี่ยวค่อยทำก็ได้เนะ มาประชุมกันก่อน

アート(人名) アート(人名) 後で する でもいい よ 来る 会議する 一緒に 先に
(アート、アート、後でやっていいよ。先に話しよう。)

02B: ทำไมต้องประชุมด้วยวะ นายอยากทำอะไรก็ทำไปดิ

なぜ 義務形 会議する 文末詞 おまえ したい する 何 も する 行く 文末詞
(何で話しなきゃいけない?お前がやりたいことを自分でやってよ!)

03A: อาร์ท นายอะ ชอบทำให้พวกเรามีปัญหากับรุ่นพี่ตลอดเลยนะ ทำไมวะ

アート(人名) お前 文末詞 よく させる 僕たち ある 問題 と 先輩 いつも 強調詞 文末詞 なぜ 文
末詞

(アート、お前は、いつも僕たちを先輩に嫌わせているよ。何で!)

(ラック)

6.3.1.2 「親」「同等」「弱」の場合

日本語の母語話者は不満の程度が低い時には不満を表明しない傾向がある。しかし、相手が同等関係の人であれば、「上下」と「下上」に比べれば不満が表明が現れる。「親・弱・同等」の場面での不満表明も見られたが、出現場面数は少ない。

例(121)-JP

学園祭には、皆パレードに参加して幾つかのキャラをする。B は、あるキャラをしているが、なかなかデザインが悪いため、A に対して不満を表明する。

01A: お待たせ

02B: お 出来た

03A: はい 西郷さん これがないとはじまらないもんね

04B: これ 横川が作ったのか?

05A: うん 間に合ってよかった

06B: ちょっと 写真みたのかよ

07A: 仕方がないでしょ くじ引きで私が担当になったんだから

08B: はあ あーあ

『さよなら』

例(121)を見て分かるように、日本語の「親・弱・同等」の場面で、高校生であるBであっても、同級生のAさんに対して06B「ちょっと」、08B「はあ あーあ」のように付加方略と、06B「写真みたのかよ」のように⑤Eea)修辭的な疑問／①Ea) 理由・説明要求で不満を表明している。

それに対して、タイ語の「親・弱・同等」の場面は、他の場面よりも2倍近く出現場面数が高い。タイ語母語話者は、我慢するよりも表現する、会話を楽しむのが好きな人々である。そのため、日

本語母語話者からみれば、「強」に捉えられるような言葉をしようしているが、タイ語母語話者にとって、それは、程度の高い不満を表すのではなく、会話を楽しむ口遊びである。例えば、例(122)は、女子中学校同士の会話であるが、02B「ม้า(馬鹿)」のように親しさを表す「อี」の呼称と「โง่(愚か)」のセットを使用して友達に対して不満を表明している。「อี」という呼称は、本当に親しい関係の相手ではなければ使いにくい言葉である。親しい相手に対して使っても少し下品な感じに聞こえるため、タイの女子学生がみんなこの言葉を使用するわけではない。

例(122)-TH

ある日 B が大好きなアイドルの好きなポスターを手に入れる。バスに乗っているところで、友達で 3 人がそのポスターに向かってアイドルの本人がいるようにインタビューするふりしている。C は、そのアイドルの大ファンであるため、A が何を質問しても C がその質問に答えてしまった。そこで、A はそれに対して不満を表明した。

01A : นี่อีโง่เล็ก จันส์สัมภาษณ์พี่ตี้อยู่ นะ ไม่ได้สัมภาษณ์แก

これ イー(呼称)オー(人名) ちいさい 私 インタビュー ピー(呼称) ティティ(人名) している 文末詞
していない インタビュー あなた

(ちよつと ヨーちゃん、 ティティさんを面接しているんだよ あなたじゃないのよ)

02B : เอ้า แล้วแกถามภาษาไทยอะ เค้าจะฟังออกไหมล่ะ โง่

感嘆詞 それで あなた 聞く タイ語 文末詞 彼 未来形 聞き取れる 疑問詞 文末詞 イー(呼称)
愚か

(だって タイ語で質問したんじゃない ティティさんが分かるのかよ **馬鹿**)

(ピット)

また、例(123)は、大学生同士の会話例である。中学生や高校生と異なり、大学生は表現力を持っているため、罵り語や無礼な言い方しなくても、他の言い方をすることができる。例えば、例(123)の 05A「ตอนนะคนเรา เวลาแค่ 3 นาที บางทีมันก็หายากนะ(まあね、3 分ぐらいの時間でも取ってくれないよね)」は、A は、直接に不満を表明せずに皮肉という非明示なストラテジーで相手に対して不満を言う。

例(123)-TH

A(女性)と B(男性)は、親しい友達である。A は、B に片思いしているのに、B に告白の歌を渡すが、B がなかなか聞いてくれないので、それに対して不満を表明する。

01A : โอ้ย มีงเพลงที่กูให้ไปยัง

奴 ヌ(人名) お前 訊く 歌 関係代名詞 俺 挙げる 行く まだ

(ユ、あげた歌を聴いた?)

- 02B: เพลงอะไรวะ
歌 何 文末詞
(何の歌?)
- 03A: ซีดีที่ถูกให้อะ
CD 関係代名詞 俺 挙げる
(渡した CD なんだ)
- 04B: อ้อ โอหี้ย เตอวะ ยังไม่มีเวลาฟังเลยวะ
感嘆詞 奴 トカゲ そう 修辭し まだ ない 時間 聞く 全然 文末詞
(アー、そう。まだ聞く時間ないけど)
- 05A: เออนะคนเรา เวลาแค่ 3 นาที บางทีมันก็หายากเนอะ
感嘆詞 人間 時間 だけ 3分 時々 代名詞 も 見つかる 難しい 文末詞
(まあね、3分ぐらいの時間でも取ってくれないよね)
- 06B: เตยวคินนี้ถูกกลับไปฟังเวีย
ちよつと 今夜 俺 帰る 行く 聞く 文末詞
(今晚帰って聞くぞ)

(ラック)

6.3.2 「疎」「同等」の場合—日タイの比較考察

今回のデータによると、どちらの言語でも、「親」の場面と同様に、「疎」の場合にも同等関係の相手に対して「強」「弱」どちらの不満も表明する。

6.3.2.1 「疎」「同等」「強」の場合

日本語の「疎・強・同等」場面で、例(22)に示すように、幾つかのストラテジーを使用して不満を表明する。日本語母語話者は、初対面の相手や親しくない「疎」の相手に対しても、喧嘩するような「強」の場面であれば不満を表明する。

例(124)-JP

A(女性)の恋人は、他の女性と浮気をしている。ある日、A は、恋人と一緒に家に帰りたいたいと思い、友達である女性の B を連れて行って、恋人のバイト先で待っていた。が、バイトが終わった時 A と B の 2 人は、A さんの恋人が他の女性を抱きしめるのを見かけた。B は、A の恋人と浮気をしている女性を殴ろうとするが、よけられてしまった。A がその女性に対して不満を表明する。

01A: なんだよ これ なんか 言えよ 説明してみろよ おい!

02B: やめて!

03A: うっせーな どけよ!

04B: 殴らないで

05A: 関係ねーだろ てめえは！

06B: そっちでしょ 関係ないのは 好きになったのはあたしのほうなの 彼女がいるって分かって
ても止められなくて… 殴るならあたしを殴って

07A: いい度胸だ やってやるよ！

『NANA』

例(125)-TH

タイでは、大学へ入学すると、数ヶ月間毎晩新入生歓迎イベントがある。新入生歓迎イベントに参加する時、新入生が集まって、先輩の指示通りに活動しないといけない。新入生歓迎イベントの最初日が終わった後、A(女性)、B(男性)、C(女性)とD(男性)は、一緒に晩御飯を食べに行った。そこで、Dがいい加減なことを言うので、Cは不満を表明する。

01A: รถเราจอดอยู่ในมหาาลัยอะ ทำไงดี

車 私 止める している 内 大学 和らげる修辞詞 する どのように よい
(車は大学の中に止まっていますが、どうしたらいいですか?)

02B: พังไว้ที่นี่แหละ ไม่หายหรอก

ずてる しておく ここ 文末詞 ない 無くなる 文末詞
(止まったままでいいです。盗まれないと思います。)

03A: ไม่ได้หรอก เราต้องเอารถกลับบ้านอะ ปริงหิวไม่ใช่เหรอ สิ่งดี ปูนเลี้ยงเอง

できない 文末詞 私 義務形 持って行く 車 帰る 家 文末詞 プリム(人名) 空腹 疑問詞 注文する
しなさい ปูน(人名) おごる 自分で
(それはだめです。運転して帰らないといけないんです。プリム、お腹が空いたでしょう。
料理を頼んでください。奢ります。)

04C: กินไม่ลง

食べる ない 下がる
(食べる気がないです)

05D: ลองเข้าไปดิ รุ่นพี่แม่งเอาตาย

試す 入る 行く しなさい 先輩 親父(付加方略) 扱う 死ぬ
(入ってみればどうですか?先輩が怖い罰に与えますよ)

06C: นี่ ไม่ช่วยก็ไม่เห็นต้องขู่เลย ไม่เห็นต้องกลัวเลย ไปปูน

これ ない 助ける も する必要ない 脅す 強調詞 する必要ない 怖がる 強調詞 行く ปูน(人名)
(おい、手伝ってくれないのに、脅して言わないで下さいよ。何も怖がる事ないです。ปูน)

さん、行きましょう。)

(ラックオ)

タイ語の例(125)は、A(女性)、B(男性)、C(女性)、D(男性)が知り合ってから一日もたっていない。友達にもまだなっていないDに対して不満を表明する際、Cは、06C「**ดี**(おい)」の付加方略と「**ไม่ต้องขี้ใจน้อย** (脅して言わないで下さいよ。)」という改善要求をする。みんな同じ年であるため、普通体で会話をする。タイ語の「**ดี**(おい)」は、相手に何かを気づかせる言葉である。「強」の場面で、初対面で会う同等の人に対して使用しても無難な言葉である。

6.3.2.2 「疎」「同等」「弱」の場合

「疎・弱・同等」の場面では、日本語は、例(126)の「むかつく」のように不満を表す機能をもつ定型表現が使われる。それに対して、タイ語の例(127)は、01A「**อ้าว มาอาบน้ำหรือจะแจจ** (おい、シャワーしにくるかい、ジャーンさん)」の質問に対して02B「**จะมากินข้าวมั่งเนี่ย**(食事にくるように見えるの)」と「疎・弱・上下」と同様に皮肉を言っている。

例(126)-JP

Aが、Bの言ったことに対して不満を表明する。

- 01A: 何かいいことでもあった?
02B: うん? (水を飲む) ああー 何か嫌なことでもありました?
03A: 聞きたい?
04B: いや 遠慮しときます
05A: そうねえ 言って引かれるのもつらいしね
06B: はははっ
07A: **むかつく** 竹本君って幸せそうな似合わないよ
08B: え? 山田さんは不幸せそうな結構似合ってますよ
09A: うまいこと返された

『ハチミツ』

例(127)-TH

A(男性)とB(女性)は、学生の時に、あまり仲がよくなく親しくない関係である。ある日、Aと友達、Bと友達は、廃校間近の母校に戻ってきて、そこで泊まる。Bは、シャワーを浴びに行く時、Aと会った。BさんはAの発言に対して不満を表明する。

01A: ข้าพ มาอาบน้ำหรือจะแต่ง

感嘆詞 来る シャワーする 疑問詞 文末詞 ジャーン(人名)

(おい、シャワーしにくるかい、ジャーン)

02B: จะมากินข้าวมังนี่

未来形 来る 食べる ご飯 かもしれない これ

(食事にくるように見えるの)

03A: ฉัน ก็เชิญเลย เราอิมพอดี้

それでは も どうぞ すぐに 僕 お腹が一杯 ちようど

(じゃ、どうぞ。ちようどお腹一杯よ)

(アヌン)

6.3.3 同等の人に対する不満表明まとめ

1) 日タイ両言語において、「同等」の場面では多くの不満表明が見られた。日本語でもタイ語でも、「強」「弱」に関わらず、同等の相手の人に対して不満を表明する。しかし、タイ語の場合には、「親・弱・同等」が他の場面に比べ、著しく出現回数が多い。タイ語では、会話や口遊びを楽しむため、「弱」の場面でも軽く不満を表明することが多い。

2) タイ語の「疎・弱・同等」の場面で使われる言葉は、日本語に訳せば、日本語母語話者にとってややきつい表現のように感じられるが、タイ語母語話者にとってはただの口遊びである。そこで、「弱」の場面でもきつい表現を使用するタイ語母語話者が、日本語の不満表明の表現を見れば、不満の程度が低いと誤解するのではないかと考えられる。

3) 日本語の皮肉は、「強」の場面に現れたが、タイ語の皮肉は、「強」の場面にも「弱」の場面にも表れた。特にタイ語では時間名詞を使った皮肉が「弱」の場面でよく使われた。

6.4 目上の人に対する不満表明

日タイ両言語において、下の人が上の人に対して不満を表明しない傾向がある。特に、タイ語では、目上に対して「弱」の場面では親疎関係に関わらず不満を表明しない。目上への不満表明が見られたのは、日本語の「親・強」場面だけである。しかしながら、本稿では、映画をデータとして使用したため、映画にないのか現実にはないのかは疑問に残っている。

6.4.1 「親」「下→上」の場合—日タイの比較考察

6.4.1.1 「親」「下→上」「強」の場合

例(128)–JP

A(女性)とB(男性)は、同じバンドのメンバーである。Bさんは、元バンドメンバー及びAさんの元彼氏にAさんの携帯番号を勝手に教えた。Aさんは、それに対して不満を表明する。

01A: はあ 何? どうしたの

02B: そっちにレンが電話するかもしれん よろしく

03A: どういう意味? 余計なことすんなよ! あたしはもう— あいつと話す気なんか無いんだ!

04B: だったら 直接レンにそう言えよ おまえ まだ持ってんだろ あの鍵

『NANA』

例(129)–JP

病気で死んだ妻と子供のAを捨てた父が、Aに会いに戻ってきたとき、Aは父に対して不満を表明する。

01B: 手紙は読んでくれてたか?

02A: もう帰って 駅 そこだから

03B: 杏 お父さん— お母さんの病気のことは気がつかなかったんだ。あっ だから 何て言ったらいいか すまん

04A: お母さん 病気なんかじゃないから 卑怯だよ お父さん お母さんを…お母さんを殺したの お父さんじゃん

『砂時計』

例(130)-JP

B(男)は、子供の時お父さんに捨てられた。お父さんが亡くなった時に、最後に見送りに行かないつもりだったが、目上同僚のB(女)に行くように言われた。だが、Bも昔自分の息子を捨てたことがあるので、Aは、Bに対して不満を表明する。

01A: 行ってあげて

02B: ホント大丈夫ですから。

03A: お願い お願いします。あの… 私もね帯広に捨ててきたの 息子を 6 歳だった。好きなひとができてね “ママー ママー”って 泣き叫ぶ息子の 小さい手振り払って家飛び出した

04B: 息子さんとは？

05A: 会いたいに決まってるけど会えな

06B: どうして？会いたかったら会いに行けばいいじゃないですか。子供を捨てた親ってみんなそうなんですか？ だとしたら無責任過ぎるよっ!

07A: お願い 行ってあげて! 最期の姿見てあげてよね

『おくりびと』

「親・強」の場面では、例(128)(129)(130)を見て分かるように、日本語では、下の人が上の人に対してさまざまな表現で不満を表明し得る。例(130)では、06B の途中で「だとしたら無責任過ぎるよっ!!」と丁寧体から普通体が変わるのが観察される。

例(131)-JP

Aは、田舎で難病の夫の面倒を見ていたが、仕事で 2, 3 日間だけ夫の元を離れた。数日後長距離バスに乗って田舎に帰った A は、バスターミナルで年配の知り合いと病気の夫を見たとたん年配の知り合いに対して不満を表出する。

01A: คุณคิดจ้บ

さん デュ(人名)

(デュさん)

02B: ดันมาที่นี่ทำไมอะห๊ะ น้ำโยพาดันมาทำไมคะ

トン 来る ここ なぜ 文末詞 感嘆詞 叔父さん ヨー(人名) 連れる トン(人名) 来る なぜ 女性文末詞

(どうしてここに来てるの!!?? ヨー叔父さん、どうしてトンを連れてきたんですか?)

03C: อ้อ ผมบังคับให้แกพามาเองแหละ อย่าดูแกลยนะ คูตี ผมยังแข็งแรงที่อยู่เลย ยังไม่เป็นอะไร

อยู่รอจนดิวงกลับมาได้จริง ๆ ด้วย

あー 僕 強制する させる 彼 連れる 来る 自分で 文末詞 しないで 叱責する 彼 文末詞 見る なさい 僕
まだ 健康 良い している 強調詞 まだ 大丈夫 いる 待つ デュ(人名) 帰る 来る できる 本当 反復記号
(僕が叔父さんに頼んだよ。叔父さんを叱らないで。ほら見て僕はまだ元気だ よ。まだ大丈夫。
夫。あなたが戻ってくるまで待つことができたぞ。)

(チヨツマイ)

例(131)の「น้ำโยพาต้นมาทำไมคะ(どうしてトンを連れてきたんですか?)」は、丁寧を表す文末詞「คะ」がついているし、親戚名詞の「น้ำโย(ヨ一叔父さん)」も使われているので、言語形式としては十分丁寧である。タイでは、幼少頃から国王、僧侶、両親、年配者、教師などを尊敬しなければならないと教育され、不適切な言葉を使用すると、他の人々から悪い評価を受け認められなくなる恐れがある。親しい目上の人に対して、不満を表明するとき、タイ語母語話者は言語形式や発話の内容では丁寧さを維持しながら、音調や表情等で示す。

6.4.1.2 「親」「下→上」「弱」の場合

今回のデータには、日タイ両言語の「弱」「親・下→上」の場面はなかった。

6.4.2 「疎」「下→上」の場合—日タイの比較考察

日本語は、「疎・強・下上」場面だけに不満を表明が現れた。日本語他の場面とタイ語の全場面では、「強」「弱」に関わらず下の方が上の人に対して不満を表明しない。

6.4.2.1 「疎」「下→上」「強」の場合

例(132)-JP

母校にいる老犬が病気になって手術を受けないと命かかるおそれがある。そして、この学校を卒業した獣医は母校へ戻ったが、色々な危険があるため、手術を施すべきかどうか判断しかねている。学生Aは、なぜ手術を実施しないのかが分からないため、獣医に対して不満を表出する。

01A : 犬のことなんですけど 何とかなるんすか？

02B : 手術すれば治る可能性はある

03A : 治るんすね

手術か… いつ するんすか？

04B : いや まだ すると決まったわけじゃない

そんなに簡単じゃないんだ

05A : ほっとくと死ぬんでしょ じゃ 早く手術すりゃいいじゃないすか
獣医なんでしょ 自信ないんすか

(さよなら)

日本語の例(132)の場合、高校生の後輩は、卒業生の先輩に対して不満を表明している。A は、あまり勉強もせず、よく友達と喧嘩する学生である。老犬のことを心配しており、獣医である先輩が、手術しないということを知り、不満を感じている。先輩に対して皮肉の方略で不満を表明している。05A「ほっとくと死ぬんでしょ じゃ 早く手術すりゃいいじゃないすか 獣医なんでしょ 自信ないんすか」は、すべて疑問文であるが、タイ語では、初めて会った先輩に対して、05Aのような疑問文や皮肉を言うのは、考えられない行為である。タイ語では、親疎関係より上下関係の方が大切であり、初めて顔を見た相手であっても、先輩であることがはっきりと分かれば、皮肉のストラテジーを行うのは、あまりに失礼な行為であり、他の人に批判されるおそれがある。

例(133)-TH

A と友達は、もうすぐ廃校になる母校に戻ってくる。大工の B は A の母校である建物を壊すため、椅子やテーブルや黒板を全部捨ててしまう。A は、学生時代の掲示板が捨てられているのを見て、B に不満を表明する。

01A: เฮ้ย บอร์ดคุณะเว้ย หยุดนะเว้ยเฮ้ย ทำไมนำ ทำไมนำ

呼びかけ語 掲示板 俺 よ ぞ 止める よ ぞ 呼びかけ語 なぜ おじさん なぜ おじさん

(おい、俺のボードだぞ。止めて！何でだよ！何でなんだよ！)

02B: ไปห่าง ๆ อยู่แถวนี้ ถ้าเกิดโดนอะไรแล้วเจ็บตัวจะหาว่าไม่เตือนนะ

行く 離れる 離れる 禁止 邪魔する あたり この もし 起こる 当たる 何 完了形

痛い 体 未来形 言う 否定形 警告する よ

(どけて。邪魔しないで。)

タイでは、年功序列を大事にする国であるが、例(133)では、大学生である下の人が、年長の大工 B に対して不満を表明している。タイ語において、疑問詞の「ทำไม(何で)」を文末に置かれることによって非難の文になる。また、(例 133)01 A・のように、「ทำไม(何で)」単独で使うことができる。「ทำไมนำ ทำไมนำ(何でだよ叔父さん！何でなんだよ！叔父さん)」と修辭的な疑問が使われている。

6.4.2.2 「疎」「下→上」「弱」の場合

「疎・弱・下上」の場面は、タイ語にしか見られなかった。下記の例(134)の通りである。

例(134)-TH

女子小学生のAは、大好きな俳優さんが出演した映画を見に行くが、ある部分字幕が付いていないため、中国語の分からないAは不満に感じている。そして、映画が終わった後、チケットカウンターの女性店員に不満を表明する。

01A: พี่คะ ในหนังเรื่อง remember I love you อะคะ ตอนที่พระเอกขึ้นไปร้องเพลง แล้วจู่ ๆ นางเอกก็ร้องให้ พี่ช่วยแปลซับไตเติ้ล
ตรงเนื้อเพลงหน่อยได้มั๊ยอะคะ อย่างนี้คนที่ไม่รู้ภาษาจีนก็ไม่อินอะดิคะ

お姉さん(敬称) 中 映画 タイトル remember I love you(映画名) 文末詞 文末詞 時 俳優 上がる 行く 歌う そして
突然 女優 も 泣く お姉さん(敬称) 助ける 訳す 字幕 ところ 歌詞 ちょっと できませんか 文末詞 文末詞 そうしたら
人 代名詞 否定形 分かる 中国語 も 否定形

(お姉さん、remember I love youにある俳優が歌って女優が泣くシーンは、ちょっと字幕をつけてくれませんか?字幕がないと、中国語が出来ない人が分からないでしょう。)

女子中学生のAさんは、チケットカウンターの店員に向かって不満を表明する場面である。映画に字幕を付ける仕事は、店員の仕事ではないことは、Aも分かっていると考えられるが、どうしても自分の不満を映画に関係のある仕事をする人に対して不満を表したいと思って、A チケットカウンターまで来て店員に文句を言う。この場合、Aは、「พี่คะ(お姉さん)」という丁寧な呼称と、最期まで丁寧体を使っており、言語形式上失礼ではない。ここでは依頼の形式が使われている。

6.4.3 目上の人に対する不満表明まとめ

日本語とタイ語では、「同等」と「上→下」と比べれば、「下→上」場面の不満表明はあまりない。今回のデータには、殆どタイ語の会話例がないのに対して、日本語の「疎・強」の場面では、下の人が⑤Eea) 修辭的な疑問／①Ea) 説明・理由要求を使用することによって不満を表明していることが観察された。今回の資料には現れなかったが、タイ語でも「強」の場面では下の方が上の人に対して不満を表明しないとは言い切れない。実際には、状況や話者と相手の性別によって不満を表明することがある。

6.5 第5章のまとめ

日タイの両言語における不満表明を親疎上下関係をまとめれば、1) 修辭的疑問の多用、2) 非難の多様性、3) 文体類型の使用という3つの特徴がある。

(1) どの場面においても修辭的疑問が多用される。

下記の(表 36)は、上下関係を合計した親疎関係別の出現したストラテジーである(第4章に参照)。表に示すように、修辭的疑問が多用されることが分かった。どの関係の相手に対しても疑問文を使って不満を表明することが殆どである。

(表 36) 日本語とタイ語の Ee) 非難に出現回数表

ストラテジー	日本語		タイ語	
	親	疎	親	疎
⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)	56	36	46	21
⑥ Eeb) 主張表現 (Using Expression of Self-assertion)	24	20	27	11
⑦ Eec1) 付加方略(Supporting Strategies)	20	10	29	11
⑧ Eec2) 否定的な意味を持つ言葉 (Using Word with Negative Meaning)	13	8	25	7
⑨ Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)	2	0	5	2
合計	115	74	132	52

次の日本語の例(33)(34)は、修辭的疑問が使われている。

例(135)-JP

B(男性)は、漫画家で、彼の母親は、病気で入院した。ある日、病院で某出版社の40代の男性のAと出会った。Aは、は、Bに漫画を描くことを依頼した。その後、Bの母親が亡くなった。深夜にAから電話があり、原稿を頼まれたBは、それに対して不満を表明した。

01A : 中川さん 原稿の催促みたい

02B : はい…

03A : あの… お母様が亡くなられたそうで いつだったんですか?

04B : 今朝です

05A : それは… ご愁傷様です

06B : あの 病院にかけてきた人ですよ

07A : で こんな時になんですけど 原稿の締切がギリギリなんですけれども どうですか?

08B : どうですかって…

今日じゃないとダメですか？

09A : 明日だとページが白くなっちゃうんですよ

10B : あなただったら 死んだ母親の目の前で仕事できますか？

『東京』

例(135)は、電話で不満が表明された場面である。相手はよく知らない年上の男性であるが、仕事をオファーしてもらった相手である。Bの母親は亡くなったばかりで、亡くなった母親が近くに横たわっているところで電話をしているという状況である。

最初から不満が出てくるのではなく、会話を続けていくうちに次第にBの不満度が高まってくる。Aは、最初に03A「あの…お母様が亡くなられたそうでいつだったんですか？」とBの調子を尋ねたり、05A「それは…ご愁傷様です」という共感表現をしたりし、さらに原稿を要求する時にも十分配慮した表現を使用しているが、Bは、母親が死んだ日に仕事の催促する相手に対して、不満を表明した。親しくない関係であるため、否定的な意味を持つ言葉は現れないが、Bは、09A「明日だとページが白くなっちゃうんですよ」と言われて我慢の限界をこえ、10B「あなただったら 死んだ母親の目の前で仕事できますか？」という10Bの修辭的疑問により、自分の不満を相手に気付かせる。丁寧体の修辭的疑問をは、言語形式上の丁寧さを維持したまま、不満を表明するツールとして使うことができる。

例(136)―JP

A(男性)は、田舎へ恋人を探しに行ったが、田舎へ行くと中学生時代の思い出がたくさん浮かんで悲しく思ってしまった。そして、友人B(男性)は、昔の話ばかりして現在の問題向き合わないAに対して不満を表明する。

A01 : お前 高校の頃のことって覚えてる？

B02 : 何だよ 急に

A03 : どうして忘れちゃうんだろうな 大切な物あんなたくさんあったのに

B04 : お前 どうしたんだよ

A05 : 今さ アキに会ったんだよ

B06 : お前 何言ってるんだよ！ しっかりしろよ

お前 そこに 何しに行ったんだよ

お前 律子ちゃんを探しに行ったんだろ？

廣瀬亜紀との思い出探してどうすんだよ

A07 : 思い出じゃねえよ!

『世界中』

次に、例(136)を見よう。AとBは、友達同士であるため、丁寧体を使った例(135)と違って、例(136)は、普通体を使っている。Bは、友人Aに対していくつかの修辭的疑問を使用して不満を表明している。下記の例(137)のように、タイ語においても、「強」の場面で友達同士の相手に対して不満を表明す時、修辭的疑問を使用する。

例(137) -TH

入学活動が嫌いなAは、ある日、同級生を殴ったが、そのせいで近くにいた女性の友達がテーブルにぶつかってしまった。そこで、BはAに不満を表明する。

01A: นี่เธอ เพื่อนกรูบโอะจะคบกับใครเค้าไม่ได้เลยใช้มะ

これ 確認疑問 友達 グループ オー 未来形 付き合う と 誰 彼たち できない 全然 確認疑問

(何だよ。私たちは他の人と友達になれないわけ?)

02B: ไม่ คือนันผลักเงา

否定形 あのう 代名詞 押し付ける 僕

(違う。先に押されたぞ。)

03A: เค้าผลักนาย นายต้องชกเค้าเลยเธอ นี่ไง เราผลักนายแล้ว เหาซี่ นายจะทำอะไร ทำเราเลย เหาเลย

かれ 押す あなた あなた 義務形 殴る かれ 強調詞 確認疑問 やる あなた 未来形 する 何 する 私 強調詞 どうぞ

(押されたから、殴り返さないといけないわけ!?。ほら、押してみろ。押したよ。何かをやりよう。どうぞ私にやっいいいよ。)

(ラックオ)

(2) 目下の人に対して不満を表明する時

両言語において、上の人から下の人に対して不満を表明することができる。上の方は、年齢や職位が上の人であっても、今回のデータによると、日本語の場合、例(138)の「こら」「りっちゃん」のような付加方略と「走っちゃダメでしょう」のような修辭的疑問または改善要求を使用する。タイ語の場合も、どの場面においても、例(139)のA01「ไ้ญ (ユ野郎)」「มองเหี้ย (トカゲ野郎見る)」のような付加方略と「ทำให้เสร็จๆ (早く終らせよう)」という改善要求を行う。しかしながら、「疎」の場面では、より丁寧な呼び方や「動詞+เหี้ย (トカゲ)」という親密さを表す付加方略を使わなくなる。

例(138)-JP

ある女の子は、病院内で走り回るため、看護婦に不満を表明される。

「こら りっちゃん 走っちゃダメでしょう」

『世界中』

例(139)-TH

仕事中に、A は、ぼーとしていたため、友達に不満を表明される。

A01: ใ้ย่ ยืนมองเหยยอะไอยู่อะ ทำให้เสร้างๆ

奴 ヌ(人名) 立つ 見る トカゲ 何 している 文末詞 する させる おわる 反復記号

(この野郎、一体何を見てんだ？早く終わらせよう)

B02: กินแรงนะมีงอะ ทำงานไม่เท่ากัน แบ่งเงินไม่เท่ากันนะเว้ย

食べる カ 文末詞 お前 文末詞 仕事する ない 等しい お互い 分ける お金 ない 等しい 文末詞 男性文末詞

(他人にたかるんじゃないよ。お前、働いた分のお金しかもらわないぞ)

(ラック)

(3) 同等の人に対して不満を表明する時

「同等」の場面では、親疎関係に関わらず、最も不満表明が見られた。タイ語の方は、疎の関係でかつ「弱」「同等」の場面以外では、不満を表明することができ、仲間を表す積極的なポライトネス(Positive Politeness)になる場面も多い。見た目や言葉自体の意味はきついが、「同等」「親」の場面では、実質的な強い不満ではないことが多い。

例(140)-TH

コンタクトレンズの洗浄液について質問する A に対して、友人の B が弱い不満を表明している。

01A : แล้วยนี่อะ

それで これ 文末詞

(それで、これは何?)

02B : น้ำยาล้างคอนแทคไ้

液体 洗浄 コンタクト 文末詞

(コンタクトレンズの洗浄液じゃねえかよ)

03A : ใช้ทำอะไรวะ

使う する 何 男性文末詞

(何のために)

04B : น้ำยาล้างคอนแทค เอาไว้เช็ดตูดมึงมันไอ้สัตว์ นี่มึงโง่จริงหรือเปล่า หรือมึงแก๊งไม่วะ

液体 洗浄 コンタクト 用 拭く お尻 お前 かもしれない 動物野郎 これ お

前 愚か 本当に 確認疑問詞 それとも ふりにする 愚か 男性文末詞

(コンタクトレンズの洗浄液ってお前の尻を拭くのかよ！**畜生**！本当に頭が悪いか、頭が悪いふりをするかい？)

(プロ)

上の例(140)は、タイ語の「弱」場面のデータである。04B の「ไอ้สัตว์(動物野郎)」が使われている。タイ語の「ไอ้สัตว์(動物野郎)」は、蔑称の意味を持つ「ไอ้」と動物という意味を持つ「สัตว์」から成り立った罵り言葉である。言葉自体の意味は喧嘩を誘発しそうだが、上記の例(38)の場合、相手の感情を傷つけようとするよりも、不満を表明すると共に仲間を表す積極的なポライトネス(Positive Politeness)になると考えればよい。

日本語の場合、親しい関係でかつ「強」「上→下」「同等」場面の不満を表明しかなかった。現実には、タイ語の「弱」「同等」と同じように⑨Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)を表現して、仲間を表す積極的なポライトネス(Positive Politeness)があるかどうかは今後の課題とする。

(4) 目上の人に対して不満を表明する時

タイ語の例(39)の場合、最初に敬意を表す語尾「Khrap」と「Kha ↓」「Kha ↑」が付いているが、不満の程度が高まってくると、敬意を表す語尾が無くなり、不満を表明していることが明瞭に分かるようになる。日本語でも丁寧体から普通体に変わる例が観察された。日本語の例(135)の場合は、最後まで丁寧体を維持したまま、10B「あなただったら 死んだ母親の目の前で仕事できますか？」のように修辞疑問を使用して不満を表明している。

タイ語については、敬意の語尾「Khrap」と「Kha ↓」「Kha ↑」について述べておきたい。絶対敬語を有するタイ語では、肯定形や否定形や疑問形などに関係なく、相手に対して敬意を表したい時、語尾に男性は「Khrap」、女性は「Kha ↓」「Kha ↑」を付けなくてはならない。下の例(141)の01A~07A は、語尾に「Kha ↓」「Kha ↑」が付いているため、十分丁寧だと考えられる。しかし、09A の中では、途中で敬意を表す語尾が消えてしまい、A の不満や怒りが高まっていることが分

かる。タイ語においては、上の人に対して不満を表明することは珍しい。どうしても不満を表明しないといけない場合にも、否定的な言葉や罵り語を使用してはいけないとは言うまでもない。目上の人や上司や先生に対して敬意を表す語尾「Khrap」と「Kha ↓」「Kha ↑」の不使用は、たいへん失礼な行動になる。

例(141)-TH

女性の A は、バンコクにある某コンピュータープログラム会社で働いているが、夫が難病にかかったため、田舎で夫の面倒を見ることになる。ある日、突然、仕事について問題があり、A に聞きたいことがあると、40代の親しいボスの B から電話が来た。A は夫のことが心配なので、バンコクに行けないと何回もボスに言うのだが、どうしてもバンコクに来てほしいと言われ、我慢の限界に来た A は、ボスの B に不満を表出する。

01A: ส่งไปแล้วนี่คะ มีปัญหาอะไรหรือคะ หัวหน้า

送る 行く 完了形 これ 文末詞 ある 問題 何 疑問詞 文末詞 ボス

(送りましたね。何か問題あったんですか？、ボス)

02B: (映像資料に台詞なし)

03A: ดิวลงไปไม่ได้หรือคะ หัวหน้า ส่งทางเมลล์ไปไม่ได้หรือคะ

デュ(人名) 下がる 行く 出来ない 文末詞 ボス 送る で メール 行く 出来ない 疑問詞 文末詞

(行けないと思います、ボス。電子メールのやり取りではいけませんか？)

04B: (映像資料に台詞なし)

05A: ดิวลงไปไม่ได้จริง ๆ ค่ะ หัวหน้าก็รู้แหละว่าดิ้วมีปัญหาอะไรอยู่

デュ(人名) 下がる 行く 出来ない 本当に 反復記号 文末詞 ボス も 分かる 強調詞 文末詞 と

デュ(人名) ある 問題 何 している

(本当に行けません。今私がどんな問題を抱えているのか知ってますよね？)

06B: (映像資料に台詞なし)

07A: ลงไปไม่ได้ค่ะ

下がる 行く 出来ない 文末詞

(行けません！)

08B: (映像資料に台詞なし)

09A: ก็บอกว่าลงไปไม่ได้ไง ไม่มีหัวใจกันบ้างหรือยังงอ่ะ ใครจะเป็นยังงอ่ะช่างไม่สนใจเลยไซ้

ใหม่ ดิวไม่ทำแล้ว หัวหน้าจะเอาไปให้ใครทำก็เอาไปเถอะ ค่ะ หรือจะเลิกจ้างดิ้วไปเลยก็ได้ แค่นี้คะ

も 言う と 下がる 行く 出来ない じゃない ↓ ない 心 お互い ちょっと 疑問詞 文末詞 誰 未来形 なる どの ように も 無視する 興味ない 全然 確認疑問 詞 デュー(人名) しない もう 上司 未来形 取る 行く させる 誰 する も 取る 行く 依頼形 または 未来形 辞める 雇う デュー(人名) 行く 全然 でも良い 以上 文末 詞 文末詞

(行けないと言っているんです。心がないのかしら。人がどれだけ困っていても気にしませんよ。もうこの仕事をしません。誰かにやらせていいんですよ。もしくは私を首にしてもいいですよ。失礼します！)

(チヨツマイ)

09A の「ไม่มีหัวใจกันบ้างหรือยังล่ะ (心がないのかしら)」は、直接に「心がない」という否定的な意味を持つ言葉を用いて、ボスを責めている。タイ語の「ไม่มีหัวใจ(心がない)」と言う表現は、相手が思いやりなくて人間失格であると非難するための表現である。さらに 09A 「ใครจะเป็นยังก็ช่างไม่สนใจเลยใช่ไหม (人がどれだけ困っていても気にしないんですね。)」は、「ไม่สนใจ(気にしない、興味がない)」の言葉が使われて、明示的にボスである相手に対して、不満を表明している。

また、例(142)の場合も、例(142)の 01A~09A は、語尾に「Kha ↓」「Kha ↑」が付いているが、A の不満や怒りが高まると、11A の「ปล่อยนะ ไอ่ห้ำเอก ปล่อย ปล่อยนะ ปล่อย(放してよ、エークカゲ野郎。放して放してよ放して…)」のように、敬意の語尾の「Kha」が無くなり、「ไอ่ห้ำเอก(エークカゲ野郎)」のように普通では上の人に対して使ってはいけないもっとも侮辱的な呼びかけまでも使用された。

例(142)-TH

B(男性)は、A(女性)の職場での先輩である。職場で、たまに B は、A に話しかけてくるが、親しい関係とは言えない。A の誕生日に、B は自分のマンションで A に食事を奢った。A が家に帰ろうとする時、B にレイプされた。

01A: เอล นี่กี่โมงแล้วคะ พี่เอก

言い淀み これ 何時 完了形 文末詞 ピー(呼称) エーク(人名)

(あのう、今何時ですか?)

02B: ห้าทุ่มกว่าแล้วครับ

午後 11 時 以上 完了形 文末詞

(もう午後 11 時過ぎました)

03A: เตี่ยวน้ำขอตัวกลับก่อนแล้วกันนะคะ

ちょっと ナーム(人名) 失礼します 帰る 先に しましよ 文末詞 文末詞

(それじゃ、先に失礼します。)

04B: น้ำ ทำไมล่ะ น้ำมีอะไรก็พูดกับพี่ตรง ๆ ก็ได้นะ พี่ไม่ตีตรงไหน

ナーム(人名) なぜ 文末詞 ナーム(人名) ある 何 も 言う と 僕 直接 反

復記号 でもいい よ 僕 よくない どこ

(ナームさん、何ですか？僕はどこが悪いのかをはっきり言ってもいいですよ。)

05A: พี่เอกก็ดีค่ะ แต่น้ำแค่อยากกลับบ้านอะ

ピー(呼称) エーク(人名) も よい 文末詞 しかし ナーム(人名) だけ したい 帰る

家 文末詞

06B: ไม่ พี่อยากให้น้ำอยู่กับพี่คืนนี้

ない 僕 してほしい ナーム(人名) いる と 僕 今夜

(だめです。今夜一緒にいて欲しいです。)

07A: ปล่อยค่ะ

放す 文末詞

(手を放してください)

08B: ไม่

ない

(放しません)

09A: ปล่อย ปล่อยค่ะ

放す 放す 文末詞

(放して、放して下さい！)

10B: ไม่ปล่อย

ない 放す

(放しません)

11A: ปล่อยนะ ไอ่หทัยเอก ปล่อย ปล่อยนะ ปล่อย

放す 文末詞 奴 トカゲ エーク(人名) 放す 放す 文末詞 放す

(放してよ、エークトカゲ野郎。放して放してよ放して…)

(ラック)

今回の日本語のデータには、タイ語の例(141)(142)のような例がなかった。日本語では、「強・疎」の場面でしか下の人が上の人に対して不満を表明することがあまり見られなかった。日本語の場合、上の人に対して不満を表明には修辭的疑問を使用することが多いと言える。

第7章 結論

本研究は、日本語とタイ語における「強」と「弱」其々の場面での「不満表明」を対照し、両言語にある共通点と相違点を探った。本稿では、ソムチャナキット(2010)と同様に、不満表明を「話し手(S)が、聞き手(H)の引き起こした好ましくない状況、発話、行動を指摘する発話行為とする。

日本語とタイ語の映画から不満表明の場面を選び、不満表明の発話だけではなく場面全体を文字化した。日本語母語話者2人とタイ語母語話者2人(筆者含み)に文字化資料を見せて、各場面において、話し手がどの程度の不満を抱いているかを判断してもらい、不満度の高い場合を、「強」、不満度の低い場合を「弱」とした。次に、「強」「弱」の場面ごとに、上下関係と親疎関係という二種類の要素によって分類し、使用されているストラテジーの違いを分析し、日本語とタイ語における不満表明ストラテジーの使用傾向を対照した。考察した結果は、下記のように、まとめられる。

7.1 日本語とタイ語における「不満表明」の言語ストラテジーの全体傾向

データに現れた不満表明の全データの傾向は以下の通りである。

- (1) 不満度別では、日本語では「強」の不満場面が 50.5%(50)で、タイ語では「弱」の不満場面が 27.0%(27)で半数を占める。

日本語:(全 99 場面)、「強」50.5%(50)、「中」22.2%(22)、「弱」27.3%(27)

タイ語:(全 100 場面)、「強」27.0%(27)、「中」22.2%(22)、「弱」50.0%(50)。

このことから、日本語母語話者は、不満が強くないときには不満表明を行わない傾向があるのではないかと考えられる。それに対しては、タイ語母語話者は、不満度が低い場面で不満を表明する傾向が強い。

- (2) 上下別では、両言語共に同等の相手に対する不満表明が一番多い。しかし、日本語の場合にはどの相手に対しても不満表明が行われるのに対し、タイ語では圧倒的に同等が多く、下上の不満表明は極端に少なく、目上の相手には不満が表明しにくいと考えられる。

日本語:「上→下」35.0%(27)、「同等」46.8%(36)、「下→上」18.2%(14)

タイ語:「上→下」19.5%(15)、「同等」75.3%(58)、「下→上」5.2%(4)

- (3) 「強」「弱」の不満度別にみると、日本語の場合は、「強」の場面では「上→下」「同等」「下→上」の全ての相手に不満を表明しているが、「弱」の場面では「下→上」の不満表明はなかった。タイ語の場合は、「強」の場面では「下上」の不満表明が3例観察されたが、「弱」の場面では1例だけであった。

日本語:「強」「上→下」32.0%(16)、「強」「同等」40.0%(20)、「強」「下→上」28.0%(14)

「弱」「上→下」37.9%(11)、「弱」「同等」55.2%(16)、「弱」「下→上」0.0%(0)
タイ語:「強」「上→下」29.6%(8)、「強」「同等」59.2%(16)、「強」「下→上」11.1%(3)
「弱」「上→下」14.0%(7)、「弱」「同等」84.0%(42)、「弱」「下→上」2.0%(1)

- (4) 親疎別では、日本語は相手との親疎に関わりなく不満表明が現れるが、タイ語の場合は親しい相手に対する不満表明が「親」74.0%を占める。

日本語:「親」48.1%(37)、「疎」51.9%(40)

タイ語:「親」74.0%(57)と「疎」26.0%(20)

タイ語では、距離のある親しくない相手よりも、親しい相手に対して不満を表明しやすい。タイ語では、同等の親しい相手に対する不満表明が仲間同士の社交の一つとなっている。

7.2 「強」の場面

次に「強」の場面について、日本語とタイ語を対照した結果は以下の通りである。

7.2.1「強」の場面と上下関係

「強」の場面では、両言語ともに、不満を表明する相手は「同等」「上→下」「下→上」の順に多い。しかし、日本語がどの相手に対しても不満を表明する傾向にあるのに対し、タイ語では「同等」が圧倒的に多く6割をしめ、「上下」が3割、「下上」は1割程度と少ない。

日本語: 1)「同等」40.0%(20)、2)「上下」32.0%(16)、3)「下上」28%(14)

タイ語 : 1)「同等」59.2%(16)、2)「上下」29.6%(8)、3)「下上」11.1%(3)

7.2.2 「強」の場面と親疎関係

日本語では、親疎関係に関わらず目下の人に対して不満を表明する(親 18.0%(9)、疎 14.0%(7))のに対して、タイ語では、親しい関係の相手に対する不満を表明する傾向(親 40.7%(11)、疎 18.5%(5))がある。

7.2.3「強」の場面で使われるストラテジー

「強」の場面で最も使われるストラテジーは、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation) であり、日本語は 35.1%(66)、タイ語は 30.7%(39)であった。

7.2.4 「強」「上→下」の場面

両言語において、「強」「上下」の場面では、⑤ Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)が多く使われた。日本語は、33.3%(20)で、タイ語は、34.3%(12)である。両言語ともに、Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)の使用は日本語 3.3%(2)、タイ語 5.7%(2)と少ない。自らが職階や立場が上であるから、からずしも Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)のように直接に何を表出

しても良いということではない。目上からの、Eec3) 罵り・禁忌(Using Swear Word)が少ないのは、自己の品格を保つために、汚い言葉をより綺麗な言葉や丁寧な言い方に変える。つまり、自分のフェースを保持したいためであると考えられる。マラシー[2003]の「ののしりの表現を使用しない者は、周りの人からその使用者自身が悪く評価されることなく、面子が守ることができ、(中略)その結果、罵りの対象者とは対照的に、使用者の方が社会的、論理的に承認され、罵りの対象者との間の人間性の差がより強調される。」(2003; 33)という指摘と一致している。また、Khanitthanun(1993)は、タイ語では、様々な方法によりポライトネスを表すことができ、例えば、「kha」「khrap」「ca」のような丁寧語と見なされる言葉を使用することや、「Huaa ではなく、Siisa に」「Phuaa ではなく、Saamiilに」「Miaa ではなく、Phanrayaa に」のようにフォーマルな場面で使用できると見なされる言葉を使うことや、場面によってある意味を持つ言葉(筆者注:タイ語の罵り等)の使用を避けることがあるという指摘がある。(khanitthanun 2003:27)

7.2.5 「強」「同等」の場面

両言語ともに、「同等」の相手に対する不満表明が、親疎に関わらず最も多かった。日本語は、40.0%(20)で、タイ語は、59.2%(16)である。同等関係の人に対して不満が表れやすいという結果から、人間は、不満「強」の場面においても、同等の相手に対して物を言いやすいと考えられる。また、両言語に多く使われるストラテジーは、両言語ともに、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)であり、日本語は、47.9%(34)、タイ語は、29.6%(24)である。日本語は特に Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)をよく使うと言える。

7.2.6 「強」「下→上」の場面

先に述べたように、日本語では「強」の場面では、どのような上下関係の相手に対しても不満を表明する傾向にあるが、タイ語の場合は「強」の場面でも目上の相手に対する不満表明は少ない。「強」「下上」の場面は、日本語は、28.0%(14)であり、タイ語は、11.1%(3)である。目上に対する不満表明を親疎の別にみると、日本語の「親」「下→上」の場合、8.0%(4)であるのに対して、「疎」「下→上」は、20.0%(10)である。

日本語の「強」「下上」では、「上下」「同等」と同様に、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)、30.0%(12)と多い。それに対して、タイ語の「強」「下上」の場面は、「親」の関係は3.7%(1)、「疎」の関係は、7.4%(2)と、親疎に関わらず目上の相手には殆ど不満を表明しない。

インタラタイ (1985)は、『「顔」の悪い日本人:タイ人から見た日本人論』で「タイ人は明るく楽しい民族であり、何よりも人との触れ合いを大事にし、“社交文化”とでも呼びたいような文化を作っています。日本人はタイ人に比べると暗く、もの悲しく、楽しさよりも、義務感や責任感を強く感じ、様々なことに耐えて生きています。」と既述している(1985 :178)。日本語では、義務感や責任感を優先するため、「強」の場面では、不満を表明せざるを得ないため、上下親疎関係に関わりなく、不満を表明し得るのだろう。それに対して、タイ語の場合、河部(1997)が指摘している

ように、タイ人の主な価値観は、(7)報恩： 受けた恩恵を忘れないこと、師を尊敬し、親に孝をつくすことを心がけることである。(中略)(9)：礼節 上長に対して丁寧な態度を示し、使用人と主人の関係をわきまえ、分を知って謙遜であること(1997：52)。また、Naaksakul(1983)は、「タイの社会は、時と場所に適う行動することを大事する社会である。自らの立場と相手の立場や相手に対して適切な行動することを知るため、平和な社会であり、目下は目上を尊敬して、目上は、目下に対して博愛心を持つ。それらのものは、言語使用に表れる。(翻訳筆者)(1983:257)」と指摘している。そこで、タイ語では、目上に対して強く不満を感じたとしても、その場で不満を表明しにくい。しかしながら、現実には、育った環境や個人差により目上に対しても不満を表明するようになっているが、まだ一般ではない。

7.3 「弱」の場面

次に「弱」の場面について、日本語とタイ語を対照した結果は以下の通りである。

7.3.1「弱」の場面と上下関係

「弱」の場面では、両言語ともに、不満を表明する相手は「同等」「上→下」「下→上」の順に多い。しかし、親疎関係に関わりなく、「下→上」の場合、日本語は、0.0%(0)、タイ語は、2.0%(1)であり、極めて少ない。また、タイ語では「同等」が圧倒的に多く8割をしめる。

日本語：1)「同等」55.2%(16)、2)「上下」37.9%(11)、3)「下上」0.0%(0)

タイ語：1)「同等」84.0%(42)、2)「上下」14.0%(7)、3)「下上」2.0%(1)

7.3.2「弱」の場面と親疎関係

日本語では、親疎関係に関わらず目下の人に対して不満を表明する(親 44.4%(12)、疎 55.6%(15))のに対して、タイ語では、親しい関係の相手に不満を表明する傾向(親 84.0%(42)、疎 16.0%(11))がある。

7.3.3「弱」の場面で使われるストラテジー

「弱」の場面で最も使われるストラテジーは、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation) であり、日本語は 38.8%(67)、タイ語は 24.8%(28)であった。

「弱」の場面は、日本語は、99 場面中 27場面が「弱」27.3%(27)であった。タイ語は、「強」の場面は 50.0%(50)で場面合計数の100の中50の場面があった。「弱」場面で、両言語とも、最も多く使われるストラテジーは、「強」場面と同様で、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)であり、日本語は、38.8%(26)で、タイ語は、24.8%(28)である。

7.3.4 「上→下」の場面

「弱」の場面の中で、「上下」の場面は、日本語 37.9%(11)、タイ語 14.0%(7)である。日本語では、親しくない相手に対して不満を表出することが多いのに対して、タイ語では、「疎」「上→下」は、0.0%(0)であり、今回のデータに表れなかった。また、日本語では、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation) 32.3%(10)、Eec1) 付加方略 (Supporting Strategies) 29.0%(9)のストラテジーが多く使われたのに対して、タイ語は、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation) 21.2%(7)、Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning) 18.2%(6)が多く使われた。日本語では、「弱」の場面で、親疎に関わらず目上から目下に不満を表明するが、タイ語では、「弱」の場面での不満表明は親しい間柄に限られるので、親しくない目下に対して不満を表明するのは「強」の場面に限られる。

7.3.5 「同等」の場面

「弱」「同等」の場面は、日本語の55.2%(16)、タイ語の84.0%(42)であり、「弱」の中に最も場面が表れた。タイ語は、他の場面に比べ、出現場面数が著しく多かった。両言語における「弱」「同等」場面で最も使われるステラテジーは、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)であることが共通している。日本語は、44.4%(16)であり、タイ語は、26.6%(21)であった。しかしながら、タイ語では、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation)の次の多かったEec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)の 19.0%(15)と Eec1) 付加方略(Supporting Strategies)の 17.7%(14)は、日本語の 13.9%(5)と 5.6%(2)に比べれば、大きな差が見られる。

タイ語の「弱」「上→下」と「同等」の場面で、Eec2) 否定的な意味を持つ言葉(Using Word with Negative Meaning)やEec1) 付加方略(Supporting Strategies)が多く使われる。ここで言う付加方略はある部分に「トカゲ野郎」のような卑語が付いているものであるが、このストラテジーの使用は相手を傷付けるという意図ではなく、仲間意識や親密さを表現していると考えられ、中村(2000)では、このような言葉は「仲間同士の喧嘩などでよく耳にする。親しい仲間同士が呼びあうような「ムン(おまえ)」「クー(おれ)」も使用される(2000:139)」と述べている。

7.3.6 「下→上」の場面

両言語の全体的傾向から言えば、両言語とも、目下が目上に対して不満を表明することが少ない。特に、「弱」場面で、日本語は、0.0%(0)、タイ語は、2.0%(1)、と極めて少ない。「弱」の場面とは、不満程度の低い場面とし、不満をあまり感じない場面に、両言語の母語話者は、何も言及しないように我慢するということが考え得るであろう。「強」「上→下」のところで述べたように、目下は、目上に対して「弱い」不満を表明しにくい。しかしながら、今回の映画に現れなかっただけなのか、実際に表明しないのかは今後の課題にしたい。

結論をまとめれば、両言語では、不満を表明しようとする際、相手との上下関係や親疎関係を考慮して行うことが考えられる。不満を表明しないとけない時に、適切なストラテジーを使用して不

満表明を遂行することができる。例えば、日本語では、親しくない目上の人に対して不満を表明する場面が幾つか見られるが、その場面で使用する戦略は、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation) であり、丁寧体でも使え、目上の人に対して言及しても失礼と云いにくいであろう。また、日本語は、どの場面においても、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation) が多様するのに対して、タイ語のは、日本語より使用する戦略の多様性が見られた。例えば、目上は目下に向けて不満を表明する時、Ff. 皮肉・冗談を使用する例がある。「強」場面では、皮肉となるが、「弱」場面では、「明日来たら」「来年来てもいいよ」のように攻撃的なユーモア風な皮肉を言う例があった。

このように、日本語とタイ語の間には、共通点も相違点もあるが、人間関係を保持するため、相違点を注意する必要がある。母語からの影響が強ければ、異なる母語、文化の相手に伝達しようとするのが伝わらないことが起こる恐れがある。例えば、Eea) 修辭的疑問 (Using Rhetorical Interrogation) を多用する日本語母語話者は、初中級タイ語母語話者に不満を表明すれば、不満の発話ではなく実質的な質問に捉えてその質問に対して答えてしまうケースが日常生活に有り得る。逆に、戦略に使用の多様性のあるタイ語母語話者は、来日して「馬鹿の車」のように否定的な言葉や罵りが付いてるEea)付加方略(Supporting Strategies)を使用したFf. 皮肉(Using Irony)を使用しりすれば、日本語母語話者を驚かせて人間関係に摩擦が生じる恐れがあるであろう。そこで、遠山(1993)が指摘したように、異文化コミュニケーションにおける問題点は、まず第一に情報の落差にある。相手の文化に関する知識の程度が問題となる。知っているつもりが誤解しているということも多いし、こちらの「常識」が通用しないことも多い。相手がこちらの文化をどのくらい理解しているのかも問題となる。(遠山 1993:19)

7.4 問題点と今後の課題

本研究では、映画という映像資料をデータとして用いて日本語母語話者とタイ語母語話者が使用する不満表明を考察した。また、不満程度の高い「強」と不満程度の低い「弱」に分けて、上下関係、親疎関係を取り入れることで、人間関係の差による日タイの不満表明の言語行動の特徴を探った。本稿は、非言語行動を扱わず言語行動を中心に分析したため、今後は映像や音声とともに、非言語行動も含んだ分析により、さらに詳しい不満表明の分析を行いたいと思う。また、本稿で使った映像資料は、日本語とタイ語其々に映画の内容が異なり、登場人物や場面の制限があり、映画に表れない場面もあるため、其々の場面で実際に不満を表明するのかもしれないのかについては調べることができなかった。今後は、データの数を増やすか、他のデータ収集法を用いて日本語とタイ語の不満表明をさらに、深めて考察していきたい。

今回は、映画に出現した日本語とタイ語における「不満表明」の「強」と「弱」場面の特徴を考察したが、タイ語を母語話者とする日本語学習が日本語でどのように不満を表明するのか、母語からの影響がどの程度あるのか等、日本語教育に直接関わる問題にも研究を広げたいと考えている。

第8章 終わりに

「不満表明」は、私たちの日常生活でよく耳にしたり見かけたりする言語行動である。否定的な感情を表出する「不満表明」は、相手のフェイスだけではなく、話者自らのフェイスをも侵害する可能性が高いもので、母語話者同士の間でも、誤解や摩擦が起こりやすい言語行動である。まして、自分と異なる言語と文化を持つ相手との間での不満表明では、更に問題が複雑になるため、日本語教育の観点からも「不満表明」を理解することが必要である。しかし、先行研究では、「不満表明」を理解する試みが十分であるとは言えない。

日本語学習者は、文法だけでなく、各場面に相応しい日本語を使える能力を身につけることが必要である。日本語とタイ語における「不満表明」の両言語間にある共通点と相違点を明らかにしてから、日本語教育へ展開したいというのがこの研究のきっかけであった。

今回の研究から、日本語とタイ語の不満表明について様々なことがわかった。日本語話者もタイ語話者も、目上の相手への不満表明には気を使うが、日本語話者は不満を伝える必要があれば目上の相手にも不満表明を行うのに対し、タイ語話者は目上の相手には不満を表明しないことが多い。タイ語の不満表明の多くは強烈な皮肉と冗談、「トカゲ野郎」などの言葉を付加することで仲間と会話を楽しむために使われる。

今回わかったとのひとつに、日本語母語話者は、不満を表明に修辭的な疑問文を多用するということがある。タイ語を母語とする日本語学習者は、普通の質問だと思って日本語の不満表明に気がつかないこともある。来日したタイ語話者から「相手が普通の音調で言ったから、怒られているのが分からなかった」「丁寧体を使って話しているし、不満だとはわからないから、普通の質問だと思って応えてしまった」という声を聞くのは、このせいである。飛田(2001)によれば、修辭的な問文は、相手の今後の行動を期待しながらも、その場での言語反応が不要なものである。もっとも、叱責の場合は、その場でのとりあえずの反応としては恭順の表情とか、「済みません」のように謝罪のことばか、「ハイ」のような多義的肯定語が使われる(2001:146)と述べられている。

逆に、表現が豊富だと言われているタイでは、仲間内での軽い不満を皮肉や冗談にして楽しむが、日本では強い不満があるときに皮肉を言うことはあっても、皮肉や冗談を使って不満表明を楽しむことはあまり行われなない。遅刻してきた友達に対して「来週に来たらどう? (ไม่มาอาทิตย์หน้าเลยล่ะจ๊ะ)」と言ったり、出かける準備が遅い友達に対して「糸で服を編んだの? 凄い遅かった (ทอผ้าอยู่หรืออะ นานเชียวะ)」というようなタイ語でよくある皮肉を日本語で言っても、面白さは日本では伝わらなないであろう。日本語教育の現場に役に立つ形で、今後も研究を発展させていきたいと思う。本稿がタイ語を母語とする日本語学習者と日本語の教員に少しでも役に立てば幸いである。

最後に、本研究を進めるにあたり、ご指導を頂いた博士論文主指導教員の鈴木睦教授に感謝致します。指導教員の鈴木睦教授には時に厳しく、時に優しく、いつもあたたかくご指導、ご鞭撻を賜り、心からの感謝の念を表して謝辞とさせていただきます。副指導教官の筒井佐代准教授と副指導教官の宮本マラシー教授から、丁寧かつ熱心なご指導を賜りました。また、チューターとして博士論文を訂正する力になってくださった武田素子さん、日常の議論を通じて筆者に多くの知識や示唆を与え、特に母語話者としての判定を行ってくれたことに対して院生室の皆様へ感謝致します。側にいなくても国から支えてくれた家族に感謝致します。協力してくださった全ての皆様へ心から感謝の気持ちと御礼を申し上げたく、謝辞にかえさせていただきます。

<出典一覧>

ゴート=กอด(ゴート/Handle Me With Care)、カオ=เขานไก(カオチョンカイ/Khao Chon Kai)、チョ
ツマイ=จดหมายรัก(チョツマイラック/The Letter)、チャム=เดิม(チャム/Midnight My Love)、ピット
=ปิดเทอมใหญ่หัวใจว้าวุ่น(ピットアームyai・ฟาจายิไววอูน/Hormones)、ファン=ฝันหวาน-อาย-จูบ
(ファン・วอาน-อาย-จูบ/4 Romance)、ラック= รักสามเศรา(ラックサームサオ/The Last
Moment)、アヌン=อนึ่งคิดถึงเป็นอย่างยิ่ง (アヌン・キトウン・ペン/ヤーンイン/Miss you Again)、ナカナ
=ณ ขณะรัก(ナカナラック/A Moment in June)、ハッピー= Happybirthday(ハッピー・バース・デー
/Happybirthday)、ラックオ =รักออกแบบไม่ได้(ラックオーグ・เบ่ป-ไม-ได/O-Negative)、
プロ= เพราะอากาศเปลี่ยนแปลงบ่อย(プロ・アーカート・ปรีเอนเพลน-บอย/Seasons Change)、
イキガミ=『イキガミ』、一リットル=『一リットルの涙』、おくりびと=『おくりびと』、 さよなら=『さ
よなら、クロ: 世界一幸せな犬の物語』、砂時計=『砂時計』、世界中=『世界の中心で、愛をさけ
ぶ』、手紙=『手紙』、東京=『東京タワー』、NANA=『NANA』、NANA2=『NANA2』、涙そうそう=
『涙そうそう』、蜂蜜=『ハチミツとクローバー』

<例文の出所であるタイ語の映像資料>

1. กอด(ゴート/Handle Me With Care)GTH:GMM Thai Hub、脚本: Khongdesh Jaturanrasamii、
2008年(124分)
2. เขานไก(カオチョンカイ/Khao Chon Kai) Sahamongkhofilm,Baramyou 脚本:Withit
Khamsakaew, Bunchai Kalayasin, Pathana Jirawong、2006年(100分)
3. จดหมายรัก(チョツマイラック/The Letter) Sahamongkhofilm、脚本:Khongdesh Jaturanrasamii、
2004年(105分)
4. เดิม(チャム/Midnight My Love) Sahamongkhofilm、脚本:Khongdesh Jaturanrasamii、2005年
(100分)
5. ปิดเทอมใหญ่หัวใจว้าวุ่น(ピットアームyai・ฟาจายิไววอูน/Hormones)GTH:GMM Thai Hub、脚
本:Songyot Sukhamaakanan、2008年(128分)
6. ฝันหวาน-อาย-จูบ(ファン・วอาน-อาย-จูบ/4 Romance)、脚本:Chukiat Sakveerakul、
Eakkasit Thairat, Ping, Rachane Limtrakul、2008年(120分)
7. รักสามเศรา(ラックサームサオ/The Last Moment)、脚本:Yuthlert Sippapak、2008年
8. อนึ่งคิดถึงเป็นอย่างยิ่ง (アヌン・キトウン・ペン/ヤーンイン/Miss you Again)Five Stars,脚本:Bandit
Ritthakol、2009年(97分)
9. ณ ขณะรัก(ナカナラック/A Moment in June) Sahamongkhofilm、脚本:Nattaphol
Wongtriimetkul、2009年(106分)
10. Happybirthday(ハッピー・バース・デー/Happybirthday)Mono Film、脚本:Khongdesh
Jaturanrasamii、2008年(117分)
11. รักออกแบบไม่ได้(ラックオーグ・เบ่ป-ไม-ได/O-Negative)Grammy Film、脚本:Wanich

- Jarungitanan ,Yuthana Mukdhasanit 、1998 年(108 分)
12. เพราะอากาศเปลี่ยนแปลงบ่อย(プロ・アーカート・プリエンプレーン・ボーイ/Seasons Change)、脚本:
Nithiwat Tharathorn,Amaraphorn Phaendinthong、2006 年(108 分)

<例文の出所である日本語の映像資料>

1. 『イキガミ』TBS、脚本:八津弘幸、佐々木章光、瀧本智行、2008 年(133 分)
2. 『一リットルの涙』東映、脚本:田中貴大、山本文太、2005 年、(95 分)
3. 『おくりびと』TBS、脚本:小山薫堂、2008 年(130 分)
4. 『さよなら、クロ:世界一幸せな犬の物語』シネカノン、脚本:松岡 錠司、平松恵美子、石川勝己、2003 年(109 分)
5. 『砂時計』東宝、脚本:佐藤信介、2008 年、(121 分)
6. 『世界の中心で、愛をさけぶ』東宝、脚本:坂元裕二、伊藤ちひろ、2004 年(138 分)
7. 『手紙』ギャガ・コミュニケーションズ、脚本:安倍照雄、清水友佳子、2006 年(121 分)
8. 『東京タワー』東京タワー o.b.t.o、脚本:松尾スズキ、2007 年(142 分)
9. 『NANA』東宝、脚本:大谷健太郎、浅野妙子、2005 年(114 分)
10. 『NANA2』東宝、脚本:大谷健太郎、2006 年(130 分)
11. 『涙そうそう』東宝、脚本:吉田紀子、2006 年(118 分)
12. 『ハチミツとクロバー』アスミック・エースエンタテインメント、脚本:河原雅彦、高田雅博、2006 年(116 分)

【参考文献】

- 安藤好恵(2001)「中国語の不満表明ストラテジー」『奥羽大学文学部紀要』第13号 pp.150-159
- 池尾スミ(1993)『文末表現』国際交流基金 日本語教育センター 凡人社
- 李善姫(2004)「韓国人日本語学習者の『不満表明』について」『日本語教育』123号 日本語教育学会 pp.27-36
- 李善姫(2006)「日韓の『不満表明』に関する一考察—日本人学生と韓国人学生の比較を通して—」『社会言語科学』第8巻第2号 pp. 53-64
- 井出祥子(2006)『わかまへの語用論』大修館書店
- 井出祥子 平賀正子(2005)『異文化とコミュニケーション』ひつじ書房
- 井出里咲子(1999)「親しき仲にも礼儀あり—日韓敬語の微妙な違い」『言語』11月号 第28巻 第11号 pp.48-51
- 飯野勝己(2007)『言語行為と発話解釈』勁草書房
- 今井那彦(2000)「ユーモアとエチケットの狭間」『言語』4月号 第29巻 第4号 pp.34-39
- インタラタイ かつ代(1985)『「顔」の悪い日本人:タイ人から見た日本人論』学生社
- 上野智子、定延利之、佐藤和之、野田春美(編集)(2005)『ケーススタディ 日本語のバライティ』おうふう
- ヴァンダーヴェーケン、D. (1995)『発話行為理論の原理』、久保進訳、松柏社(原書は1994年刊)
- ヴァンダーヴェーケン、D. (1997)『意味と発話行為』、久保進監訳、ひつじ書房(原書は1990年刊)
- 宇佐美まゆみ(2001)「ポライトネス理論から見た<敬意表現>—どこが根本的に異なるか」『言語』11月号 第30巻 第12号 pp. 18-25
- 宇佐美まゆみ(2001)「対人コミュニケーションの社会心理学: ディスコース・ポライトネスという観点から」『言語』6月号 第30巻 第7号 pp. 78-85
- 宇佐美まゆみ(2002)「談話のポライトネス —ポライトネスの談話理論構想—」『談話のポライトネス』第7回 国立国語研究所国際シンポジウム 第4専門部会 pp.9-58.
- 内海彰(2002)「アイロニーの暗黙的提示理論とその優位性について」『日本語用論学会第5回』pp. 141-148
- エレン・ナカミズ(1992)「日本語学習者における依頼表現—ストラテジーの使い分けを中心として—」『待兼山論叢』26 大阪大学文学部
- 大貫昇(1979)『誰も書かなかったタイ: “微笑の国”で過ごした五年間』サンケイ出版
- 大野敬代(2006)「謙遜表現の使用条件について」『早稲田大学教育学部 学術研究 (国語 国文学

編) 第 54 号 pp.27-35

- 岡本真一郎(2007)「皮肉:何をどのように伝えているのか」『ことばのコミュニケーション:対人関係のレトリック』 pp. 156-176. ナカニシヤ出版
- 郭碧蘭(2007)「日本語の不満表明ストラテジーに影響を及ぼす要因 —社会的・文化的観点から—」『明海日本語』第 12 号 pp. 51-59
- 川崎洋(1997)『かがやく日本語の悪態』 草思者
- 河部利夫(1989)『タイ国理解のキーワード』 勁草書房
- 河部利夫(1997)『タイのこころ:異文化理解のあり方』 勁草書房
- 北沢方那(2000)「冗談と宇宙論—冗談をいえる身内・いえない身内」『言語』 4月号 第 29 卷 第 4 号 pp.68-71
- 北山亮(1993)「日本人の対人関係とコミュニケーション」『コミュニケーション基本図書:日本人のコミュニケーション』 第 2 卷 pp.3-22 桐原書店
- 桐生和幸(2003)「タイ語の否定表現に添えられる完了辞の意味」『美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要』 48 pp.16-26
- 木野和代(2000)「日本人の怒りの表出方法とその対人的影響」『心理学研究』, 70, pp.494-502.
- 野和代(2001)「対人場面における怒りの表出および表出抑制に関わる経験の予備的分析」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(心理発達科学)』 48 pp.277-281
- 金水 敏 今仁生美(2000)「意味と文脈」『現代言語学入門4』岩波書店
- 楠奥繁則(2007)「採用および組織行動における支援的ユーモア—サウスウエスト航空の人的資源管理を事例に—」『立命館経営学』第 46 卷 第 2 号 pp.63-83
- 榎木知子(2007)「対人関係におけるユーモアと自己表現:日本人のユーモアコーピング」『総合人間科学:東亜大学総合人間・文化学部紀要』pp.11-19
- 熊谷智子(1993)「研究対象としての謝罪—いくつかの切り口について—」『日本語学』12 卷 12 号 pp. 4-12
- 小泉保(2009)『入門 語用論研究—理論と応用』研究社
- 米川明彦(1999)「卑罵表現も変わりゆく」『言語』11月号 第 28 卷 第 11 号 pp.30-33
- 齊藤親載(1999)『タイ人と日本人』 学生社
- 坂本恭章(1983)「タイ語の単純質問文と非難文」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』49 pp 5-6.
- 阪本俊夫(2001)「現代の社会関係と敬語の可能性—ブラウンとレヴィソンのポライトネス論を手掛かりに」『言語』 11月号 第 30 卷 第 12 号 pp. 34-42
- 佐々木瑞枝(監修)石塚京子(共著)大木理恵(共著) 小松由佳(共著) 築晶子(共著)(2002)『自然に使える文末表現』 アルク
- 佐々木瑞枝(監修) 松田由美子(共著)鈴木紀子(共著)(2002)『日常会話で使う 慣 用表

現』アルク

- 真田信治、渋谷勝己、陳内正敬、杉戸清樹(1992、2002)『社会言語学』おうふう
- 神田信彦(2003)「大学生の否定的感情・気分と攻撃行動との関係」『人間科学研究』第25号 pp.43-52
- 島田拓司(2003)「非難の程度、問題の重大さ、男女差が及ぼす弁明行為への影響に関する一考察」『天理大学学报』55(1) pp.29-44.
- 杉戸清樹(1999)「かわりゆく敬語意識—敬語の役割を考えるために」『言語』11月号 第28巻 第11号 pp.22-29
- 鈴木睦(1989)「聞き手の私的領域と丁寧表現—日本語の丁寧さは如何にして成り立つか—」『日本語学』, 8, 58-67
- 鈴木睦(2003)「コミュニケーションからみた勧誘のしくみ—日本語教育の観点から—」『社会言語科学』6巻1号 社会言語学会 pp.112-121
- ソムチャナキット クナツジ(2010)「日タイ両言語における不満表明に関する一考察—映画に現れる不満表明言語ストラテジー」2010年度大阪大学修士論文
- ソムチャナキット クナツジ(2011)「日タイ両言語における不満表明に関する一考察—映画に現れる不満表明言語ストラテジー」『日本研究論集』第3号 pp.19-37 チュラーロンコーン大学・大阪大学
- 高田久美子(1998)「詫び表現からみた日本人の言語行動—詫びと感謝の心理的接点—」『福岡YWCA 日本語教育論文集』研究成果報告書 pp.129-151
- 高橋康敏(2002)『タイ雑学王情報館』糸み分社
- 滝浦真人(2008)『ポライトネス入門』研究社
- 滝浦真人(2001)「<敬意>の綻び—敬語論とポライトネスと「敬意表現」」『言語』11月号 第30巻 第12号 pp.26-33
- 谷忠那 大坊郁夫(2008)「ユーモアと社会心理学的変数との関連についての基礎的研究」『対人社会心理学研究』8 pp.129-137
- 辻大介(1997)「アイロニーのコミュニケーション論」『東京大学社会情報研究所紀要』第55号
- 辻大介(2001)「ココロの話法:アイロニー・ユーモア・諷刺を中心に」『言語』6月号 第30巻 第7号 pp.54-60
- 遠山淳(1993)「日本文化とコミュニケーション」『コミュニケーション基本図書:日本人のコミュニケーション』第2巻 pp.3-22 桐原書店
- 中川良雄(1998)「日本語依頼の表現—依頼のストラテジーと日本語教育—」『京都外国語大学研究論叢』50 京都外国語大学
- 西原鈴子(1994)「感謝に関する一考察」『日本語学』13号 明治書院
- 初鹿野阿れ・熊取谷哲夫・藤森弘子(1996)「不満表明ストラテジーの使用傾向—日本語母語話者と日本語学習者の比較—」『日本語教育』88 日本語教育学会 pp.128-139

- 朴 承圓(2000)「不満表明表現」使用に関する研究『言語科学集論』第4号 pp. 51-62
- 朴 承圓(2001)「韓国語日本語学習者の言語行動の指向性に関する一考察—不満表明を例に—」『言語科学集論』第5号 pp. 73-84.
- 朴 承圓(2002)「不満表明場面における一人称「私」の使用をめぐる～日本語母語話者と韓国語日本語学習者の相違～」『文化』65(3・4) pp. 342-323.
- 橋元良明(2001)「配慮と効率—ポライトネス理論とグライスの接点」『言語』11月号 第30巻 第12号 pp. 44-51
- 稗島一郎(1994)『日英対照勘定表現事典』図書
- 飛田良文(2001)『日本語行動論』おうふう
- ブレイクモア、D.(1994)『ひとは発話をどう理解するか—関連性理論入門』、武内道子・山崎英一訳、ひつじ書房(原書は1992年刊)
- ヘレン スペンサー=オーティ (著), Helen Spencer-Oatey (原著), 田中 典子 (翻訳), 津留崎 毅 (翻訳), 鶴田 庸子 (翻訳), 熊野 真理 (翻訳), 福島 佐江子 (翻訳), 浅羽 亮一 (2004)『異文化理解の語用論—理論と実践』研究社
- 中村眞弥子他(2000)『タイ現代カルチャー情報事典』叡み分社
- 西尾純二(1998)「マイナス待遇表現行動分析の試み—非礼場面における言語行動規範について—」『日本学報』第17号 pp 57-70.
- 西尾純二(1998)「マイナス待遇行動の表現スタイル—規制される言語行動をめぐる—」『社会言語科学』1号 pp19-28.
- 西尾純二(2001)「マイナスの敬意表現の諸相」『日本語学』20(4) pp 68-77.
- 西尾純二(2005)「大阪府を中心とした関西若年層における卑語形式「ヨル」の表現性—関係性待遇と感情性待遇の観点からの分析—」『社会言語科学』7(2) pp 50-65.
- 西尾純二(2007)「罵りとその周辺の言語行動」『ことばのコミュニケーション:対人関係のレトリック』p194-p200 ナカニシ
- 野口素子(2012)「表情表出による情動調整の日常経験に関する調査」『京都大学大学院教育学研究科紀要』58 pp.439-451.
- 牧原功(2008)「不満表明・改善要求における配慮行動」『群馬大学留学生センター論集』第7号 pp. 185-204
- 堀江・インカピロム・プリヤー(1995)「依頼表現の対照研究—タイ語における依頼の方略—」『日本語学』10月号 14号 明治書店
- 堀江・インカピロム・プリヤー(2000)「マイペンライ(2):タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察 その2」『日本語と外国語との対照研究 VIII』国立国語研究所
- 宮本 マラシー(1996)『サワッディー1:日常生活の中のタイ語会話』国際語学者
- 宮本 マラシー(1996)『サワッディー2:日常生活の中のタイ語会話』国際語学者
- 宮本 マラシー(2003)『タイ語表現法』大阪外国語大学

- 宮本 マラシー(2007)『タイ語上級講座:読解と作文』 めこん
- 宮本 マラシー(2009)「タイ語におけるののしり表現の意味的特徴」『大阪大学世界言語研究センター論集』1号 pp. 185-204
- 宮本 マラシー(2003)『タイ語表現法』 大阪外国語大学
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹(2010)『コミュニケーションと配慮表現 — 日本語語用論入門 —』 明治書院
- 山梨正明(1991)『発話行為』 第12巻 大修館書店
- 吉田琢哉 高井次郎(2008)「関係性に応じた怒り感情の制御に関する規範の検討」『対人社会心理学研究』 8 pp.35-42.
- ルンティエラ、ワンウィモン(2004)「タイ人日本語学習者の『提案に対する断り』表現における語用的移転—タイ語と日本語の発話パターンの比較から」『日本語教育』121号日本語教育学会 pp.146-155
- Austin, J.L.(1975) *How to Do Things with Words*. Cambridge :Harvard University Press. 坂本百大訳(1978)『言語と行動』大修館書店
- Brown, P. & S. Levinson (1987) *Politeness : Some universals in language usage*, Cambridge U.P.
- Jay, Timothy (2009) The Utility and Ubiquity of Taboo Words. *Perspectives on Psychological Science*. Volume4 Number2 pp.153-161.
- Leech, G.(1988) *Principles of pragmatics*. Longman.
- Mizutani, Osamu & Mizutani, Nobuko (1988) *Aural Comprehension Practice in Japanese*. The Japan Times
- Okamoto, Shinichiro(2002) Politeness and the Perception of Irony: Honorifics in Japanese. *Metaphor and Symbol*, 17(2) pp.119-139.
- Searle, J.R.(1979), *Expression and Meaning: Studies in Theory of Speech Acts*, Cambridge University Press.
- Pinker, Steven(2007) The evolutionary social psychology of off-record indirect speech acts. *Intercultural Pragmatics*. 4-4 pp.437-461.
- Watts, Richard J. (2003) *Politeness*. Cambridge U.P.
- Wierzbicka, Anna. (2003) *Cross-Cultural Pragmatics: The Semantics of Human Interaction*. Mouton De Gruyter.
- Yule, George. (1996) *Pragmatics*, Oxford U.P.

กาญจนา นาคสกุล. "ภาษาไทยกับสังคมไทย". รายงานการสัมมนาว่าด้วยภาษาไทย เนื่องในการเฉลิมฉลอง 700

ปีลายสื่อไทย. สำนักพิมพ์ประกายพริก. 2526.

วิไลวรรณ ชนิษฐานันท์. "ความสุภาพในภาษาไทยกรุงเทพฯ". วัฒนธรรมพื้นบ้าน: ภาษา. สำนักพิมพ์จุฬาลงกรณ์
มหาวิทยาลัย, 2536.

ดิษฐ์ ศรีนราวัฒน์. "วิธีสื่อสารด้วยการพูดอ้อมของคนไทย". วารสารภาษาและภาษาศาสตร์ คณะศิลปศาสตร์
มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์. ปีที่ 17 ฉบับที่ 2 (มกราคม-มิถุนายน), 2542.

ดิษฐ์ ศรีนราวัฒน์. "การศึกษากลวิธีสื่อสารด้วยการพูดอ้อมของคนไทย". เอกสารประกอบการสัมมนาทางวิชาการ
โครงการ "สื่อทางภาษาในสังคมไทย: มุมมองจากศิลปศาสตร์" คณะศิลปศาสตร์
มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์. น. 109-133, 2547.

นิตยา กาญจนะวรรณ. พูดจาภาษาไทย. กรุงเทพฯ: สำนักพิมพ์โอเดียนสโตร์, 2528.

นิตยา กาญจนะวรรณ. ภาษาไทย2000. กรุงเทพฯ: สำนักพิมพ์มติชน, 2543.

ธีรนุช โชคสุวรรณิช. การศึกษาประโยค 3 ชนิดในภาษาไทยกับเจตนาของผู้พูดในนวนิยาย "ไซ้สังคม" ของทมยันตี.
วิทยานิพนธ์มหาบัณฑิต, คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2533.

นภัทร อังกูรสินธนา. การศึกษาเปรียบเทียบวัฒนธรรมอ้อมในบทสนทนาในนวนิยายไทยต่างสมัย: ตามแนววจน
ปฏิบัติศาสตร์. วิทยานิพนธ์มหาบัณฑิต คณะมนุษยศาสตร์ มหาวิทยาลัยเกษตรศาสตร์, 2551.

นุชนารถ เพ็งสุริยา. การใช้ภาษาเพื่อแสดงการตำหนิของคนไทย. วิทยานิพนธ์มหาบัณฑิต, คณะศิลปศาสตร์
มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, 2546.

พนมพร นิรัญทวิ. "ว่าด้วยเรื่องคำว่า "ด่า" กับ "บริภาษ"". จุลสารลายไทยฉบับพิเศษวันภาษาไทยแห่งชาติ 29

กรกฎาคม 2544 คณะศิลปศาสตร์ มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, 2544.

รุ่งอรุณ ใจชื่อ. วัจนกรรมกรแสดงความไม่พอใจในภาษาไทย : กรณีศึกษานิสิตนักศึกษา. วิทยานิพนธ์
มหาบัณฑิต. คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2549.

ล้อม เพ็งแก้ว. หน้ากระดานเรียง (1). โครงการจัดพิมพ์คบไฟ. กรุงเทพฯ: น. 236-237, 2536.

วรวรรณ ได้สกุลสุข. การใช้ประโยคคำถามในวัจนกรรมอ้อม. วิทยานิพนธ์มหาบัณฑิต. คณะศิลปศาสตร์
มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, 2547.

วัชรชัย ขอบเหลือง. กลวิธีการสื่อสารโดยการพูดอ้อมในภาษาไทย. วิทยานิพนธ์มหาบัณฑิต. คณะศิลปศาสตร์
มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, 2547

วิสันต์ สุขวิสิทธิ์. วัจนกรรมกรบริภาษในภาษาไทย. วิทยานิพนธ์มหาบัณฑิต. คณะอักษรศาสตร์
จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2547.

สิริลักษณ์ หนูศรีงาม. การศึกษาประโยคภาษาไทยที่มีคำว่า “ทำไม” ทางด้านอรรถศาสตร์และวัจนปฏิบัติศาสตร์.
วิทยานิพนธ์มหาบัณฑิต. คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย. 2544

สุริยา รัตนกุล. วัฒนธรรมและการสื่อสาร. รวมบทความวิชาการ เล่ม 2 คณะศิลปศาสตร์ มหาวิทยาลัยมหิดล.
น. 141-153, 2548

สุวรรณา สถาอานันต์ และ เนื่องน้อย บุญยเนตร. คำ ร้องรอยความคิดความเชื่อไทย. สำนักพิมพ์จุฬาลงกรณ์
มหาวิทยาลัย, 2535.

อรรถวิทย์ รอดเจริญ. “การศึกษาการใช้ภาษาบริภาษของนักการเมืองไทย”. วารสารภาษาไทยและวัฒนธรรมไทย
คณะมนุษยศาสตร์ มหาวิทยาลัยเกษตรศาสตร์. ปีที่ 3 ฉบับที่ 5 (มิถุนายน- พฤศจิกายน), 2552